



日本におけるCercospora属の種類

山本, 和太郎
前田, 巳之助

(Citation)

兵庫農科大学研究報告. 農業生物学編, 4(2):41-91

(Issue Date)

1960

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81006114>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81006114>



日本における *Cercospora* 属の種類

山本和太郎・前田己之助

Cercospora Species in Japan

Wataro YAMAMOTO and Minosuke MAEDA

Cercospora 属の菌は農作物、観賞植物、造林樹木、野生植物などの葉、莖または種子に寄生し、斑点病、褐斑病、角斑病、白星病、円星病、葉枯病、煤黴病、裏煤病、紫斑病などと呼ばれる病害をおこし、経済上重要な病原菌である。その種類は甚だ多く、日本菌類目録(1954)に記録されている種類は358種(旧日本領土の種類を含む)に及んでいる。

これら多数の種類は菌学者や植物病理学者によつて数種ないし十数種ずつ断片的に種々な雑誌や報告類に発表されたもので、これら日本産の種類について総合的に研究された報告はまだ無い。従来報告を見ると、新しい種類は通常ラテン文で記載され、既知の種類は学名のみで菌の形態について記載のない場合が多い。それで日本産の種類ではあるが、日本の文献では種類の鑑定ができない場合が少くない。また外国の文献を十分に調べないで種類を決定されたためか、異名同種または同名異種と認められるものが少くない。これら種類について検討を加え、整理する必要がある。

Cercospora 属は FRESENIUS (1863) によつて *Cercospora apii* FRES. を基準種として創設され、この基準種の分生胞子は無色である。SPGAZZINI (1910) はこの属の分生胞子は有色と誤解し、無色の分生胞子を形成する種類に対して *Cercosporina* 属を創設した。この新属は SPGAZZINI の誤解によるもので、*Cercospora* 属と同じであるから、外国では殆んど採用されなかつたが、日本では一般に採用され、*Cercospora* 属の多数の種類が *Cercosporina* 属に改められた。その後 *Cercosporina* 属に改むべきか、外国のように *Cercospora* 属にとどめるべきかについて迷われ、一時混乱をきたした。現在でも病害の著書の一部にこの新属の学名が残っている。

また PETRAK (1925) は *Cercospora* 属のような分生胞子を形成するが、担子梗は大型の子座から生じ、甚だ短いか又は殆んど認められない種類に対して *Cercoseptoria* 属を創設し、三浦 (1925) は *Cercospora* 属のうち、担子梗が樹枝様瘤状を呈する種類に対して *Cer-*

cosporiopsis 属を創設し、SOLHEIM (1931) は分生胞子が鎖生する種類に対して *Ragnhildiana* 属を創設した。これら新属は CLEMENTS & SHEAR (1931) や CHUPP (1953) によつて本属の異名にされている。なお CLEMENTS & SHEAR は *Corynespora* 属を本属の異名にしているが、これは独立した属とした方が妥当のように思われる。

Cercospora 属の分類について SOLHEIM (1929) は栄養菌糸が内生か外生か、担子梗の分枝の有無、子座の大小、分生胞子の形状などの特徴によつて本属を 21 Sections に分類し、その後 SOLHEIM & STEVENS (1931) は前記特徴のうち、菌糸の特徴を除き、さらに胞子痕の大きさを重要な特徴として加え、本属を 38 Sections に分類した。しかし、これら Sections は機械的に分類されたもので、合理的な分類法とは考えられない。CHUPP (1953) は分生胞子が無色か有色かを重要な特徴としているが、前記の Sections を認めていない。著者らは分生胞子の形状と着色の有無、担子梗の分枝の有無と胞子痕の大小、子座の有無と大小などの特徴によつて日本産 *Cercospora* 属の種類を分類しようと試みたが、形状と大きさの変異が著しく、有無と大小の両方の性質または中間の性質をもつた種類が多く、合理的に分類できないことが判つた。

本属の菌の寄主植物の範囲について、多くの分類学者は同属内の種類または近縁な他の属の種類のみに限られ、類縁関係のない他の科の種類には及ばないと、寄主範囲は狭いように考えられていた。しかし、WELLES (1924) はライマビーン(ライマビーン)の病葉から分離培養した *Cercospora* の菌株を5科にまたがる13種の植物に接種した結果いずれの植物も感染し、また VESTAL (1933) は *Cercospora beticola* 菌株を12科にまたがる26種の植物に接種した結果いずれの植物も感染したと報じている。さらに JOHNSON & VALLEAU (1949) は11科にまたがる16種の植物に発生した種々な *Cercospora* 菌を分生胞子から分離培養し、これら16菌株をタバコの葉に接種した結果、

いずれの葉にも *Cercospora nicotianae* 菌の感染の場合と同じく、典型的な白星病が生じたと報じている。このように、接種試験では寄主範囲がきわめて広いが、圃場において自然感染による寄主範囲がこのように広いかどうかは疑問である。寄主範囲のきわめて広い前記実験結果は、*Cercospora* 分類学者によつて認められていないようである。この寄主範囲については後日の精密な研究にまきたいと思う。

本報告は今まで日本産のものとして記載された全種類(旧日本領土産の種類を大部分を除く)について検討し、CHUPP (1953) の文献を参考にして異名同種と同名異種に該当するものを訂正し、各種の形態の概要を記載したものである。記載に用いた形態の用語はつぎの挿図で説明する。印刷頁の節約から各種の種名のつぎに記される内外文献の大部分を省略し、なお最後の引用文献には外国文献の全部を省略した。

1. *Cercospora abeliae* KATSUKI

Ann. Phytopath. Soc. Japan 20 : 71. 1955.

担子梗群は病斑の両面、通常裏面にやや叢生し、基部に子座を欠くか又は僅かに生ずる。担子梗は単条、真直

又は僅かに波状に彎曲し、単胞、淡褐色、 $18\sim 33\times 3\sim 4\mu$ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、基端は倒円錐形、先端は尖り、隔膜は4~6、オリーブ色、 $30\sim 60\times 3\mu$ 。

本菌はシナツクバネウツギ (*Abelia chinensis*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

2. *Cercospora abelmoschi* ELLIS & EVERHART

Jour. Inst. Jamaica 1 : 347. 1893; CHUPP, Monogr. Fung. Genus *Cercospora* 367. 1953.

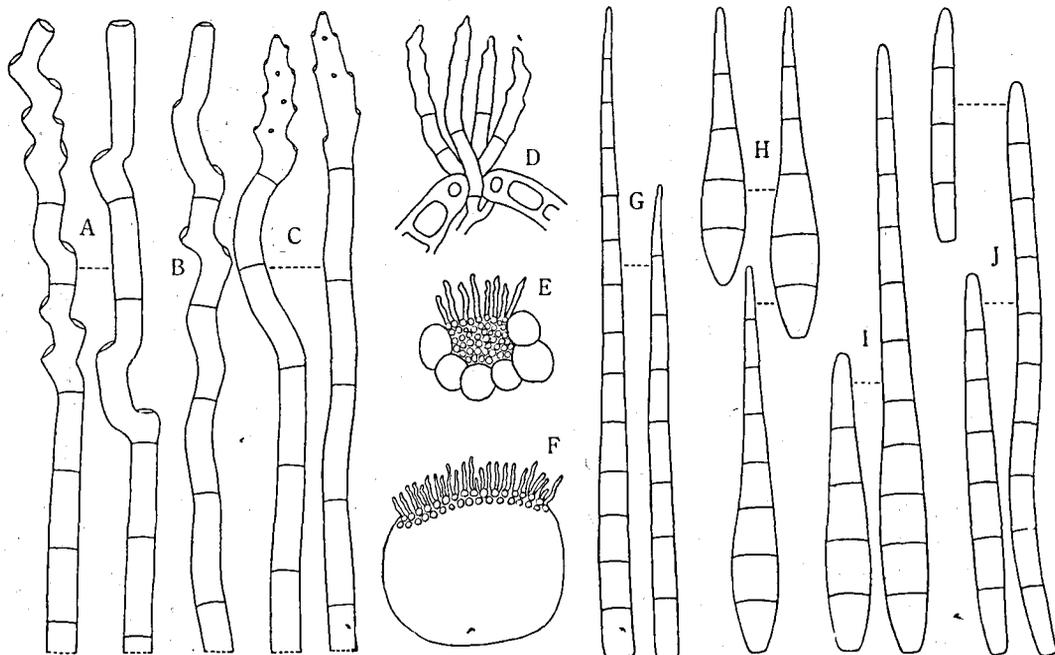
= *Cercospora hibisci* TRACY & EARLE (1895)

= *Cercospora hibisci-manihotis* HENN. (1904)

= *Cercospora hibisci-cannabini* SAW. (1922)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部は子座を欠くか又は少数の大細胞からなる。担子梗は単条時に分枝し、僅かに屈曲し、胞子痕は小形、オリーブ褐色、隔膜は多数、 $20\sim 140\times 3\sim 5.5\mu$ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱形、基端は倒円錐形、先端はやや尖り、淡オリーブ色ないしオリーブ褐色、隔膜は1~8、 $20\sim 90\times 3\sim 7\mu$ 。

本菌はトロロアオイ (*Hibiscus manihot*)、ケナフ (*H. cannabinus*)、ムクゲ (*H. syriacus*) の葉に葉煤病又は斑点病をおこす。本菌は南部(1906)、出田(1911)



A~F. 担子梗の形状。Aは屈曲し、胞子痕は大形；Bは彎曲と屈曲し、胞子痕は中形；Cは彎曲し、やや屈曲し、胞子痕は小形；Dは子座を欠く；Eは子座が小形；Fは子座が大形。

G~J. 分生胞子の形状。Gは針状、基端は切断状；Hは倒棍棒形、基端は倒円錐形又は倒円錐状切断形；Iは円柱状倒棍棒形ないし倒棍棒状円柱形；Jは円柱形(円筒形、線状、糸状)。

によつてトロロアオイの病菌 *C. hibisci-manihotis*, 沢田 (1922) によつてケナフの葉煤病菌 *C. hibiscicannabini*, 中田・滝元(1928) によつてトロロアオイの斑点病菌 *C. hibisci-manihotis*, 富樫・香月(1952) によつてムクゲの病菌 *C. hibisci*, 内藤・谷 (1952) によつてケナフとムクゲの葉煤病菌 *C. hibisci* として報告されたが, CHUPP はこれら3種を *C. abelomoschi* の同種異名にしている。

3. *Cercospora acalyphae* PECK

Ann. Rept. N. Y. State Mus. 34: 48. 1881;
CHUPP, l. c. 210. 1953; HARA, List Jap. Fung.
43. 1954.

= *Cercosporaa calypharum* THARP (1917)

担子梗群は病斑の両面に叢生し, 基部に子座を欠くか又は僅かに生ずる。担子梗は単条稀れに分枝し, 多少屈曲し, 隔膜は僅少, オリーブ褐色, 20~200×4~5.5 μ 。分生胞子は針状, 基端は切断状, 先端はやや尖り, 隔膜は多数, 無色, 50~250×2~4 μ 。

本菌はエノキグサ (*Acalypha australis*) の葉稀れに茎に斑点病 (新称) をおこす。

4. *Cercospora achyranthis* SYDOW

Ann. Mycol. 7: 171. 1909; CHUPP, l. c. 30.
1953; HARA, l. c. 44. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に通常叢生し, 子座を欠く。担子梗は単条又は分枝し, 0~7屈曲し, 胞子痕は中形, 隔膜は多数, 暗褐色, 50~150×4~5.7 μ , 長いものは450 μ 。分生胞子は針状, 基端は切断状, 先端はやや尖り, 真直, 隔膜は不明確で多数, 無色, 40~150×3~5.5 μ 。

本菌はイノコヅチ (*Achyranthes japonica*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

5. *Cercospora actinostemmae* SAWADA

Rept. Agr. Exp. Sta. Formosa 86: 165. 1943;
CHUPP, l. c. 184. 1953; HARA, l. c. 44. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し, 基部の子座は褐色, 小形。担子梗は単条, 真直又は僅かに彎曲し, 稀れに屈曲し, 隔膜は1~5, 淡オリーブ色, 15~60×3~4.5 μ 。分生胞子は円柱形ないし倒棍棒形, 真直又はやや彎曲し, 基端は円形ないし倒円錐形, 先端は鈍頭, 隔膜は1~7, 淡オリーブ色, 20~65×3~4.5 μ 。

本菌はゴキヅル (*Actinostemma lobatum* var. *racemosum*) の葉に角斑病をおこす。

6. *Cercospora adenostemmae* TOGASHI & KATSUKI

Bot. Mag. Tokyo 65: 18. 1952; CHUPP, l. c. 119. 1953; HARA, l. c. 44. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し, 基部に子座を欠くか又は僅かに生ずる。担子梗は単条, 真直又は彎曲し, 先端近くはやや屈曲し, 隔膜は3~5, オリーブ褐色, 30~95×4~5 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱形, 真直又は彎曲し, 隔膜は2~5, 無色又は着色し, 30~120×3.5~5 μ 。

本菌はヌマダイコン (*Adenostemma viscosum*) の葉に斑点病をおこす。

7. *Cercospora ageratoides* ELLIS & EVERHART

Jour. Mycol. 5: 71. 1889; CHUPP, l. c. 119. 1953;
HARA, l. c. 44. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に通常叢生し, 基部に子座を欠く。担子梗は単条又は僅かに分枝し, 彎曲かつ屈曲し, 胞子痕は無く, 隔膜は多数, 暗褐色, 40~150×4~5.5 μ 。分生胞子は円柱形, 基端は円形し倒円錐形, 先端は鈍頭, 隔膜は1~5, 無色ないし淡褐色, 20~75×3.5~5 μ 。

本菌はヒヨドリバナ (*Eupatorium japonicum*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

8. *Cercospora aleuritidis* MIYAKE

Bot. Mag. Tokyo 26: 66. 1912; CHUPP, l. c. 212. 1953.

= *Cercosporina aleuritidis* SACC. (1931)

担子梗群は病斑の両面に通常叢生し, 基部の子座は不規則形, 暗褐色ないし黒色, 長径75 μ 。担子梗は単条又は分枝し, 彎曲かつ屈曲し, 胞子痕は小形, 隔膜は多数, 10~65×3~4.5 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱形, 真直又は僅かに曲り, 基端はやや切断状又は円錐状切断形, 先端は鈍頭, 隔膜は不明確で多数, やや無色ないし淡オリーブ色, 25~135×2.5~5 μ 。

本菌はシナアブラギリ (*Aleurites cordata*) の葉に褐斑病をおこす。本菌の子嚢胞子世代は *Mycosphaerella aleuritidis* (MIYAKE) OU である。

9. *Cercospora alpiniae* SYDOW

Ann. Mycol. 12: 202. 1914; CHUPP, l. c. 607.
1953; HARA, l. c. 44. 1954.

担子梗は病斑の裏面に単生又は叢生し, 単条, 0~6屈曲し, 先端は円頭, 隔膜は多数, 暗褐色, 50~300×4~5.5 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形ないし円柱形, 真直又はやや彎曲し, 基端は鈍円形, 時に倒円錐形, 先端は円頭, 隔

膜は1~9, 暗オリーブ褐色, 20~75×5~8 μ , 分生胞子は稀れに鎖生する。

本菌はハナミヨガ (*Alpinia japonica*) の葉に裏煤病(新称)をおこす。

10. *Cercospora althaeina* SACCARDO

Mich. 1: 269. 1878; CHUPP, 1. c. 369. 1953; HARA, 1. c. 44. 1954.

= *Cercospora kellermanii* BUB. (1903)

= *Cercospora ramularia* SIEM. (1919)

担子梗群は病斑の上面に叢生し, 基部に子座を欠くか又は有し, その径 30 μ . 担子梗は単条稀れに分枝し, 通常1~4屈曲し, 胞子痕は中形, 隔膜は多数, 淡オリーブ褐色ないし暗褐色, 20~50×4~6.5 μ , 稀れに300 μ . 分生胞子は針状ないし円柱形, 真直又は僅かに曲り, 基端は切断状, 先端は鈍頭, 隔膜は多数, 無色, 40~100×3~5 μ , 稀れに200 μ .

本菌はタチアオイ (*Althaea rosea*) の葉に斑点病をおこす。

11. *Cercospora amorphophalli* P. HENNINGS

Hedw. 41: 147. 1902; CHUPP, 1. c. 56. 1953; HARA, 1. c. 44. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し, 基部の子座は小形. 担子梗は単条, 0~3屈曲し, 先端は切断状, 胞子痕は中形, 隔膜は0~4, 淡オリーブ褐色, 15~125×4~6 μ . 分生胞子は針状, 真直又は僅かに曲り, 基端は切断状, 先端は尖り, 隔膜は不明確で多数, 無色, 20~80×3~4.5 μ .

本菌はコンニャク (*Amorphophallus konjac*) の葉に斑紋病をおこす。

12. *Cercospora amphicarphae* TOGASHI & KATSUKI

Ann. Phytopath. Soc. Japan 17: 5. 1952; CHUPP, 1. c. 278. 1953; HARA, 1. c. 44. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し, 子座は準球形, 径25~40 μ . 担子梗は単条, 真直又は僅かに屈曲し, 鋸歯状に短く突出し, 先端はやや切頭状, 隔膜は1~4, オリーブ褐色, 95~200×4~5 μ . 分生胞子は針状ないし倒棍棒形, 真直又は僅かに曲り, 基端は切断状, 先端は尖り, 隔膜は6~12, 無色, 70~160×4~5 μ .

本菌はヤブマメ (*Amphicarpaea trisperma*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

13. *Cercospora angulata* WINTER

Hedw. 24: 202. 1885; CHUPP, 1. c. 514. 1953; HARA, 1. c. 44. 1954.

担子梗群は病斑の両面, 通常裏面の子座上に叢生し, 子座はは通常小形. 担子梗は単条, 長いものは分枝し, 真直稀れに屈曲し, 胞子痕は不明確, 隔膜は多数, 淡オリーブ色, 30~60×4~6 μ , 稀れに50~200 μ . 分生胞子は針状, 基端は切断状, 先端はやや尖り, 真直, 隔膜は4~6又はそれ以上, 70~250×3~4 μ .

本菌はバイカウツギ? (*Philadelphus* sp.) の葉に寄生する。

14. *Cercospora apii* FRESENIUS

Beitr. Mycol. Dritt. Heft. 91. 1863; CHUPP, 1. c. 568. 1953; HARA, 1. c. 44. 1954.

= *Cercospora penicillata* SACC. var. *apii*

FUCK. (1863)

担子梗は病斑の両面に叢生し, 基部に子座を通常欠く. 単条稀れに分枝し, 真直, 多少屈曲し, 胞子痕は大形, 隔膜は3~6, オリーブ褐色, 80~156×4~5 μ . 分生胞子は針状, 基端は切断状, 先端は尖り, 真直又は強く曲り, 隔膜は3~21, 38~208×3~5 μ .

本菌はセルリー (*Apium graveolens*), ミツバ (*Cryptotaenia japonica*) の葉, 葉柄, 茎に黒斑点病又は斑点病をおこす。

15. *Cercospora apiodis* MIURA

Rept. Akita Pref. Agric. Exp. Sta. 8: 60. 1957.

担子梗は病斑の両面の子座から叢生し, 単条, 多くの屈曲節を有し, 隔膜は通常4, 暗褐色で上部は淡色, 135~240×3~6 μ . 分生胞子は円柱形, 基端は切断状, 先端に向つて漸細して円頭に終り, 隔膜は多数, 無色, 115~164×3.6~6 μ .

本菌はホド (*Apios fortunei*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

16. *Cercospora arachidicola* HORI

Ann. Rept. Nishigahara Agric. Exp. Sta. Tokyo 26. 1917; CHUPP, 1. c. 280. 1953; HARA, 1. c. 215. 1954.

= *Cercospora arachidis* RAC. var. *macrospora* MAFFES (1922)

担子梗群は病斑の両面の子座上に叢生し, 子座は半球形, 径25~100 μ . 担子梗は単条, 通常1回屈曲し, 隔膜は0~2, 淡オリーブ褐色, 15~45×3~5 μ . 分生胞子は

は倒棍棒形，基端は円形ないし切断状，先端はやや尖り，隔膜は3~12，無色ないし淡オリブ色，35~110×3~5 μ 。

本菌はナンキンマメ (*Arachis hypogaea*) の葉に褐斑病をおこす。本菌の子嚢胞子世代は *Mycosphaerella arachidicola* (HORI) JENKINS である。

17. *Cercospora araliae* P. HENNINGS

ENGLER, Bot. Jahrb. 31 : 742. 1902; CHUPP, l. c. 61. 1953; HARA, l. c. 44. 1954.

担子梗は病斑の裏面に広く拡がり，子座を欠く，単条又は分枝し，真直稀れに屈曲し，胞子痕は小形，隔膜は多数，75~500×4~5.5 μ 。分生胞子は円柱形，基端は倒円錐状切断形，先端は鈍頭，真直又は僅かに曲り，隔膜は2~9，オリブ色ないしオリブ褐色，30~70×4.5~6.5 μ 。

本菌はタラノキ (*Aralia elata*) の葉に斑葉病をおこす。

18. *Cercospora araliae-cordatae* HORI

CHUPP, l. c. 62. 1953; HARA, l. c. 44. 1954.
= *Cercosporina araliae-cordatae* HORI (1918)

担子梗は病斑の両面に叢生し，単条，真直又は屈曲し，先端はやや切断状，隔膜は多数，淡褐色，75~200×4~5 μ 。分生胞子は針状，基端は切断状，先端は尖り，真直又は曲り，隔膜は多数，無色，75~120×3~4.5 μ 。

本菌はウド (*Aralia cordata*) の葉に斑点病をおこす。本種の原記載は無く，福井 (1918)，中田・滝元 (1928) によつて *Cercosporina araliae-cordatae* HORI として記載された。CHUPP はこれを *Cercospora* 属のものと誤解し，*Cercospora araliae-cordatae* HORI として記載している。

19. *Cercospora arcti-ambrosiae* HALSTED

Bull. Torrey Bot. Club 20:251. 1893; CHUPP, l. c. 121. 1953.

= *Cercospora arctii* STEV. (1925)
= *Cercosporina lappae* WAT. & TAK. (1934)

担子梗は病斑の両面に叢生し，単条稀れに短く分枝し，僅かに屈曲し，胞子痕は大形，隔膜は多数，オリブ褐色，25~220×4~6 μ 。分生胞子は針状，基端は切断状，先端は鈍頭又は尖り，真直又は曲り，隔膜は3~25，無色，25~195×1.5~3.5 μ 。

本菌はゴボウ (*Arctium lappa*) の葉に角斑病をおこす。

本菌は渡辺・高橋 (1934) によつて *C. lappae* として

報告され，この学名はその後田中 (1948)，香月 (1949)，木場 (1952)，原 (1954)，河合 (1954)，渡辺 (1957) らの著書に採用されているが，CHUPP はこの種類の原標本並に記載と *C. arcti-ambrosiae* の原標本と比較した結果から両種を同種異名にしている。

20. *Cercospora arisaemae* TAI

Bull. Chin. Bot. Soc. 2 : 47. 1936; CHUPP, l. c. 56. 1953; KATSUKI, Ann. Phytopath. Soc. Jap. 20:71. 1951.

担子梗は病斑の両面に叢生し，基部の子座は小形，単条，多少屈曲し，幅は不規則，胞子痕は小形，隔膜は多数，淡オリブ色，10~100×4~6 μ 。分生胞子は針状ないし倒棍棒形，基端は切断状又は倒円錐状切断形，先端はやや尖り，真直，隔膜は不明確で多数，無色，60~130×2.5~5 μ 。

本菌はリュウキュウハング (*Typhonium divaricatum*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

21. *Cercospora asparagi* SACCARDO

Mich. 1 : 88. 1878; CHUPP, l. c. 343. 1953.
= *Cercospora caulicola* WINT. (1885)

= *Cercosporina asparagicola* SPERG. (1910)

担子梗は両面上に密に叢生し，基部の子座は長さ100 μ ，単条，真直，稀れに屈曲し，先端は円頭，隔膜は少数，オリブ褐色，10~65×4~5 μ 。分生胞子は針状，基端は切断状，先端はやや尖り，真直又は僅かに曲り，隔膜は不明確，無色，35~130×2.5~5 μ 。

本菌はアスパラガス (*Asparagus officinalis*) の葉と茎に褐斑病又は黒洗病をおこす。

22. *Cercospora astilbes* TOGASHI

Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 17 : 96. 1942;
CHUPP, l. c. 515. 1953.

担子梗は病斑の裏面に蔓延する表生菌糸から分枝して生じ，単条，上部で僅かに屈曲し，隔膜は0~1，オリブ褐色で先端は無色，15~40×3~5 μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形，多少弯曲し，稀れに真直，基端は長倒円錐状切断形，先端は尖り，隔膜は1~4，17~42×2~4 μ 。

本菌はトリアシシヨウマ (*Astilbe congesta*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

23. *Cercospora astragali* WORONICHIN

Trav. Mus. Bot. Acad. Sci. USSR 21 : 231. 1927;
CHUPP, l. c. 281. 1953; HARA, l. c. 45. 1954.

担子梗は病斑の両面，通常上面に叢生し，基部の子座

は僅小，単条稀れに分枝し，0~4屈曲し，胞子痕は小形，隔膜は1~3，煤色で上部は淡色，20~80×3.5~5 μ 。分生胞子は針状ないし円柱状，基端は切断状，先端は鈍頭，真直又は僅かに曲り，隔膜は不明確で多数，無色，30~130×2~4.5 μ 。

本菌はレンゲ (*Astragalus sinicus*) の葉に褐斑病(新称)をおこす。

24. *Cercospora atro-marginalis* ATKINSON

Jour. Elisha Michell Sci. Soc. 8:59. 1892;

CHUPP, 1. c. 532. 1953; HARA, 1. c. 54. 1954.

= *Cercospora rigospora* ATK. (1892)

= *Cercospora tosenensis* HENN. (1905)

= *Cercospora nigri* THARP (1917)

= *Cercospora solani-biflori* SAW. (1944)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し，基部の子座は欠くか又は数細胞からなる。担子梗は単条又は分枝し，真直，長いものは波状に屈曲し，胞子痕は小形，隔膜は少数，淡オリーブ色ないしオリーブ褐色，10~50×3~5 μ ，稀れに110 μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形ないし倒棍棒形，基端はやや切断状ないし倒円錐形，先端は鈍頭，隔膜は3~9，淡オリーブ色，15~80×2.5 μ 。

本菌はイヌホボズキ (*Solanum nigrum*)，メジロホボズキ (*S. biflorum*) の葉に裏煤病をおこす。

25. *Cercospora aucubae* HARA

HARA, 1. c. 45. 1954.

= *Cercosporina aucubae* HARA (1931)

担子梗群は子座から叢生し，子座は表皮下に生じ，球形又は卵形，径50~100 μ 。担子梗は線状又は円柱形，真直又は屈曲し，隔膜は0~2，暗褐色，10~15×2~3 μ 。分生胞子は糸状，鞭状又は長倒棍棒形，基部は多少太く，先端に向つて漸細し，両端は円頭又は切断状，隔膜は3~7，無色，50~88×3~4 μ 。

本菌はアオキ (*Aucuba japonica*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

26. *Cercospora begoniae* HORI

Lect. Plant Dis. 2: 181. 1916; CHUPP, 1. c. 79. 1953; HARA, 1. c. 45. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し，基部の子座は欠くか又は数細胞からなる。担子梗は単条，真直又は1~5屈曲し，胞子痕は中形，隔膜は多数，淡褐色，短いものは50~70×6 μ ，長いものは150~200×6 μ 。分生胞子は針状，基端は切断状，先端は尖り，真直又はやや曲り，隔

膜は多数(10~15)，無色，50~300×2~3.5 μ 。

本菌はベゴニア (*Begonia evansiana*) の葉に白星病をおこす。

27. *Cercospora bellynckii* (WEST.) NIESSL

Hedw. 15: 1. 1876; CHUPP, 1. c. 69. 1953; HARA, 1. c. 46. 1954.

= *Cercosporium bellynckii* WEST. (1854)

= *Cercospora bellynckii* (WEST.) SACC. (1876)

= *Cercospora vincetoxici* SACC. (1901)

担子梗は病斑の裏面に単生時に叢生し，分枝し，僅かに弯曲し，幅は不規則，先端は鈍頭，胞子痕は小形，隔膜は明確で多数，20~125×4~7 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱形，真直又は僅かに曲り，隔膜は1~8，無色，20~100×4~7 μ 。

本菌はカモメヅル属 (*Cynanchum* sp.) の一種の植物に寄生する。

28. *Cercospora beticola* SACCARDO

Nuov. Giorn. Bot. Ital. 8: 189. 1876; CHUPP, 1. c. 111. 1953; HARA, 1. c. 45. 1954.

= *Cerospora betae* SACC. (1880)

= *Cercospora betae* FRANK (1880)

= *Cercospora longissima* CKE. & ELL. (1889)

= *Cercospora flagelliformis* ELL. & Holw. (1891)

= *Cercospora anthelmintica* ATK. (1892)

= *Cercospora spinaciae* OUD. (1900)

= *Cercospora chenopodiicola* BRES. (1900)

= *Cercospora spinacicola* SACC. (1915)

担子梗群は病斑の両面に叢生し，基部に子座を欠くか又は僅かに生ずる。担子梗は単条，屈曲し，胞子痕は小形，隔膜は少数，淡褐色，10~100×3~5.5 μ 。分生胞子は針状，基端は切断状，先端はやや尖り，通常弯曲し，隔膜は6~11，50~200×2.5~4 μ ，稀れに400 μ 。

本菌はビート (*Beta vulgaris* var. *rapacea*)，フダンソウ (*B. vulgaris* var. *flavescens*)，ホウレンソウ (*Spinacia oleracea*) の葉に褐斑病又は斑点病をおこす。本菌は西田(1911)によつてホウレンソウの褐斑病菌，出田(1911)によつてビートの褐斑病菌，沢田(1922)によつてフダンソウの斑点病菌として報告され，後にホウレンソウの病菌は白井・三宅(1917)によつて，*C. spinaciae*，中田・滝元(1928)によつて *C. flagelliformis* とされた。しかし香月(1951)，内藤(1954)らはこれらを同種異名にし，さらに CHUPP は上記の如く多くの種名を異名にしている。

29. Cercospora bidentis THRAP

Mycol. 9: 108. 1917; Chupp, l. c. 123. 1953;

HARA, l. c. 45. 1954.

=*Cercospora bidentis* MARCH. & STEY. (1929)=*Cercospora bidentis-pilosae* SAW. (1943)=*Cercosporina umenobui* FUKUI (1951)

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部に子座を欠く。担子梗は単条稀れに分枝し、真直ないし屈曲し、孢子痕は大形、隔膜は3~4、オリブ褐色、44~104×4.5~5 μ 。分生胞子は針状、倒棍棒状円柱形ないし円柱形、基端は切断状、先端は鈍頭、多少弯曲し、隔膜は10~12、無色、41~115×2~4.5 μ 。

本菌はセンダングサ (*Bidens bipinnata*)、キンケイギク (*Coreopsis drummondii*) の葉に褐斑病をおこす。福井 (1951) はキンケイギクの菌を *C. umenobui* として報告されたが、記載が簡単で、判断しがたいが、本菌の未熟の胞子を記載されたように思われる。

30. Cercospora boehmeriae PECK

Rept. N. Y. State Mus. Nat. Hist. 34: 48. 1881;

CHUPP, l. c. 582. 1953; HARA, l. c. 45. 1954.

=*Cercospora fukuii* YAM. (1934)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部に子座を欠く。担子梗は単条、真直又は屈曲し、孢子痕はなく、隔膜は0~5、淡オリブ褐色、15~60×2.5~4 μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形ないし倒棍棒形、基端は倒円錐状切断形ないし倒円錐形、先端は尖り、多少曲り、隔膜は3~14、無色ないし淡オリブ色、40~125×2.5~4 μ 。

本菌はカラムシ (*Boehmeria nivea*)、ヤブマオ (*B. japonica*) の葉に角斑病をおこす。山本 (1934) は福井 (1918) の角斑病菌の形態は PECK の菌と相違するので別種としたが、CHUPP は同種にしている。

31. Cercospora bolleana (THUEN.) SPEGAZZINI

Mich. 1: 475. 1879; CHUPP, l. c. 392. 1953; HARA, l. c. 46. 1954.

=*Septosporium bolleanum* THUENEN (1887)=*Cercospora sycina* SACC. (1881)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部に子座を欠くか又はある。担子梗は単条、真直又は屈曲し、孢子痕は小形、隔膜は0~3、10~70×4.5~6 μ 。分生胞子は倒棍棒形、基端は円形又は倒円錐形、先端は円頭、真直か又は多少曲り、隔膜は1~5、オリブ色ないしオリブ褐色、20~65×5~7.5 μ 。

本菌はイチジク (*Ficus carica*) の葉に褐斑病又は角斑性落葉病をおこす。

32. Cercospora brachiata ELLIS & EVERHART

Jour. Mycol. 4:5. 1888, CHUPP, l. c. 31. 1953;

HARA, l. c. 46. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は暗褐色で突出しない。担子梗は単条又は先端で分枝し、真直又は0~3屈曲し、孢子痕は大形、隔膜は20~30 μ の間隔で生じ、オリブ褐色、40~200×4~5.5 μ 。分生胞子は針状、基端は切断状、先端は尖り、無色、40~200×2~4.5 μ 。

本菌はイノコヅチ (*Achyranthes japonica*) の葉に褐斑病 (新称) をおこす。

33. Cercospora brassicicola P. HENNINGS

ENGLER, Bot. Jahrb. 37: 166. 1906; CHUPP, l. c. 180. 1953; HARA, l. c. 46. 1954.

=*Cercospora bloxami* (BERK. & BR.) YOUNG (1916)=*Cercospora brassicae-campestris* RANG. (1917)

担子梗は病斑の両面に叢生し、単条稀れに分枝し、0~7屈曲し、孢子痕は大形、隔膜は多数、オリブ褐色、25~500×3.5~7 μ 。分生胞子は針状、基端は切断状、先端は尖り、多少弯曲し、隔膜は5~15、無色、25~200×2~5 μ 。

本菌はナタネ (*Brassica chinensis* var. *oleifera*) の葉に斑点病又は斑紋病をおこす。

34. Cercospora broussonetiae CHUPP & LINDER

Mycol. 29:27. 1937; CHUPP, l. c. 393. 1953.

=*Cercospora broussonetiae* HORI (1915)?

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、径30~70 μ 。担子梗は単条又は分枝し、強く弯曲し、幅は不規則、隔膜は明確で多数、黄褐色、50~150×4~6 μ 。分生胞子は円柱形、両端は鈍円ないし長い円錐形、真直又は強く弯曲し、隔膜は明確で多数、淡オリブ色ないし褐色、40~90×4~5.5 μ 。

本菌はコウノ *Broussonetia kazinoki* の葉に斑紋病をおこす。

35. Cercospora buddleiae YAMAMOTO

Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa 26: 279. 1936; CHUPP, l. c. 358. 1953; HARA, l. c. 46. 1954.

担子梗は病斑の裏面に叢生し、単条稀れに短く分枝し、

真直又は強く弯曲し、胞子痕は微小、隔膜は2~8、オリブ褐色、40~120×3.5~6 μ 。分生胞子は倒棍棒形、基端は倒円錐状切断形、先端は鈍頭、真直又は多少弯曲し、隔膜は1~7、淡オリブ色、25~75×3.5~5 μ 。

本菌はウラボシツツギ (*Buddleia curviflora* var. *vernifera*) の葉に褐斑病をおこす。

36. *Cercospora callicarpae* COOKE

Grev. 6: 140. 1878; CHUPP, 1. c. 588. 1953;

HARA, 1. c. 46. 1954.

= *Cercospora callicarpicola* NAITO (1940)

= *Cercospora callicarpicola* SAW. (1943)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は欠くか又は小形。担子梗は単条稀れに分枝し、真直又は屈曲し、胞子痕は殆んど無く、隔膜は不明確、淡オリブ褐色、40~125×2.5~4 μ 。分生胞子は円柱形ないし倒棍棒状円柱形、時に倒棍棒形、基端は倒円錐形ないし円形、先端は鈍頭、真直又は僅かに弯曲し、隔膜は2~7、20~86×2.5~5 μ 。

本菌はヤブムラサキ (*Callicarpa mollis*)、ムラサキシノブ (*C. japonica*) の葉に角斑病をおこす。本菌は内藤 (1940) によつて *C. callicarpicola*、沢田 (1943) によつても *C. callicarpicola*、香月 (1949) によつて *C. callicarpae* として報告されたが、CHUPP はこれらを同種にしている。

37. *Cercospora campi-silii* SPEGAZZINI

Mich. 2: 171. 1880; CHUPP, 1. c. 77. 1953;

HARA, 1. c. 46. 1954.

= *Cercospora impatientis* BÄUM. (1888)

担子梗群は病斑の上面で単生又は叢生し、基部の子座は欠くか又は数細胞からなる。担子梗は単条稀れに分枝し、弯曲かつ屈曲し、幅は不規則、胞子痕は小形ないし中形、先端は切断状、隔膜は少数、淡オリブ褐色、20~100×3~6 μ 。分生胞子は円柱形、基端は切断状、先端は鈍頭、真直、隔膜は1~5、20~60×4~6 μ 。

本菌はキツリフネ (*Impatiens noli-tangere*) の葉に円斑病をおこす。

38. *Cercospora canavaliae* SYDOW

Ann. Mycol. 12: 203. 1914; CHUPP, 1. c. 287.

1953; HARA, 1. c. 46. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に単生又は叢生し、子座を欠く。担子梗は単条、真直稀れに屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は多数、暗褐色、75~175×3~4.5 μ 。分生胞子は円柱形

稀れに倒棍棒形、両端は鈍頭、隔膜は1~4、淡オリブ褐色、20~55×3~4.5 μ 。

本菌はハマナタマメ (*Canavalia lineata*)、ナタマメ (*C. ensiformis*) の葉に褐斑病をおこす。

39. *Cercospora canescens* ELLIS & MARTIN

Amer. Nat. 16: 1003. 1882; CHUPP, 1. c. 288.

1953; HARA, 1. c. 46. 1954.

= *Cercospora vignicaulis* TEHON (1937)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は欠くか又は僅かに生ずる。担子梗は単条稀れに分枝し、真直、上部で0~2屈曲し、胞子痕は大形、隔膜は1~7、暗褐色、20~175×3~6.5 μ 。分生胞子は針状、基端は切断状、先端は尖り、真直又は多少弯曲し、隔膜は3~20、無色、35~210×2.5~5 μ 。

本菌はアズキ (*Phaseolus chrysanthos*)、ヤエナリ (*P. aureus*)、サイトウ (*P. vulgaris*)、ササゲ (*Vigna sinensis*)、シウロクササゲ (*V. sinensis* var. *catiang*)、フジマメ (*Dolichos lablab*)、ダイズ (*Glycine max*) の葉に褐斑病又は褐紋病をおこす。

本菌は柴田 (1924) によつて *C. cruenta* として報告され、この学名は出田 (1926)、白井・原 (1927)、中田・滝元 (1928)、原 (1930)、中田 (1941) など一般の病害著書に採用された。山本 (1950) は今まで *C. cruenta* として記載された菌は分生胞子が針状、無色、多数の隔膜を有し、甚だ長形である点から *C. cruenta* ではなく本種であることを明らかにした。

40. *Cercospora cannabis* HARA & FUKUI

Pract. Path. Crop Plants 594. 1925; CHUPP,

1. c. 394. 1953; HARA, 1. c. 46. 1954.

= *Cercosporina cannabis* HARA (1927)

= *Cercosporina cannabis* HARA & FUK. (1930)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は欠くか又は数細胞からなる。担子梗は単条、真直又は弯曲し、1~2屈曲し、胞子痕は中形、隔膜は少数、淡褐色、10~100×3.5~5.5 μ 。分生胞子は針状、短いものは円柱形、基端は切断状、先端はやや尖り、真直又は僅かに曲り、無色、20~90×2~4 μ 。

本菌はアサ (*Cannabis sativa*) の葉に褐斑病又は斑点病をおこす。

41. *Cercospora capsici* HEALD & WOLF

Mycol. 3: 15. 1911; CHUPP, 1. c. 534. 1953;

HARA, 1. c. 46. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は欠くか又は数細胞からなり、稀れに径 15~30 μ に及ぶ。担子梗は単条、弯曲し、1~3 屈曲し、孢子痕は中又は大形、隔膜は多数、オリーブ褐色、20~150 \times 3.5~5 μ 。分生孢子は針状稀れに倒棍棒形、基端は切断状、先端はやや尖り、真直又は多少弯曲し、隔膜は多数、無色、30~200 \times 2.5~4 μ 。

本菌はトウガラシ (*Capsicum annuum*) の葉に斑点病をおこす。

42. *Cercospora carotae* (PASS.) SOLHEIM

Ill. Biol. Monogr. 12 : 43. 1929; CHUPP, 1. c. 572. 1953; HARA, 1. c. 46. 1954.

= *Cercospora apii* FRES. var. *carotae* PASS. (1889)

担子梗群は病斑の両面に単生又は叢生し、基部に子座を欠く。担子梗は単条、上部で屈曲し、孢子痕は小形、単胞、オリーブ褐色、10~45 \times 2~5 μ 。分生孢子は円柱状倒棍棒形、基端は倒円錐形、先端は鈍頭又はやや尖り、僅かに曲り、隔膜は1~8、無色ないし淡色、30~115 \times 2~3.5 μ 。

本菌はニンジン (*Dacus carota*) の葉と茎に斑点病をおこす。

43. *Cercospora caulophylli* PECK

Ann. Rept. N. Y. State Mus. Nat. Hist. 33 : 30. 1880; CHUPP, 1. c. 79. 1953; HARA, 1. c. 46. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は小形又は欠く。担子梗は単条、長いものは強く屈曲し、先端は切断状、孢子痕は大形、隔膜は多数、淡オリーブ褐色、10~125 \times 3~4 μ 。分生孢子は倒棍棒状円柱形、真直、基端はやや切断状、先端は鈍頭、隔膜は2~5、10~45 \times 3~5 μ 。

本菌はオニカヨウ (*Caulophyllum thalictroides*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

44. *Cercospora celosiae* SYDOW

Ann. Mycol. 27 : 430. 1929; CHUPP, 1. c. 32. 1953; HARA, 1. c. 46. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は欠くか又は小形。担子梗は単条稀れに先端で分枝し、0~4 屈曲し、孢子痕は中形、隔膜は0~3、20~100 \times 3~4.5 μ 。分生孢子は針状、真直又は彎曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は不明確で多数、無色、30~100 \times 2~3.5 μ 。

本菌はケイトウ (*Celosia cristata*) の葉に斑点病をおこす。

45. *Cercospora cercidicola* ELLIS

Amer. Nat. 16 : 810. 1882; CHUPP, 1. c. 292. 1953; HARA, 1. c. 47. 1954.

= *Cercospora cercidicola* ELL. var. *coremioides* TEHON (1924)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は球形、褐色、15~25 μ 。担子梗は単条、0~3 屈曲し、孢子痕は中形、隔膜は多数、暗オリーブ褐色、50~300 \times 3~4.5 μ 。分生孢子は円柱状倒棍棒形、真直、基端は倒円錐形又は倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は通常3、淡オリーブ色、20~60 \times 4~7 μ 。

本菌はハナズオウ (*Cercis chinensis*) の葉に斑点病をおこす。

46. *Cercospora chaeae* HARA

Dis. Tea Bush 35. 1956 (siné diagnose latina)

担子梗は病斑の上面に叢生し、単条、線状、先端に向つて漸細し、隔膜は多数、暗褐色、上部は淡色、50~120 \times 2~3 μ 。分生孢子は倒棍棒状円柱形、彎曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は円頭、隔膜は10~15、無色ないし淡色、80~150 \times 2.5~3.5 μ 。

本菌はチャ (*Thea sinensis*) の葉に *C. theae* と共に褐色円星病をおこす。本種にはラテン文の記載がないので、本種の特徴をラテン文で再記載する。

Maculis epiphyllis, orbicularibus, fusco-brunneis, 0.5~1.5 cm. diam.; conidiophoris fasciculatis, simplicibus, filiformibus, pluri-septatis, fusco-brunneis sed superiore pallidioribus, 50~120 \times 2~3 μ ; conidiis obclavato-cylindraceis, curvatis, ad basim obclavato-truncatis, apice rotundatis, 10~15-septatis, e hyalino subhyalinis, 80~150 \times 2.5~3.5 μ .

Hab. in foliis *Theae sinensis* in Japonia, Prov. Suruga.

47. *Cercospora chamaecyparidis* SAWADA

Bull. Gov. For. Exp. Sta. Tokyo 46 : 122. 1950; HARA, 1. c. 47. 1954.

担子梗は病斑の上面に多数叢生し、単条稀れに1分枝し、隔膜は1~2、淡褐色、28~40 \times 5 μ 。分生孢子は円柱形、波状に彎曲し、基端は切断状、先端は円頭、隔膜は3~7、暗黒色、28~39 \times 6.5~7.5 μ 。

本菌はヒノキ (*Chamaecyparis obtusa*) の葉に葉枯病をおこす。

48. *Cercospora chengtuenensis* TAI

Lloyd. 11: 40. 1948; KATSUKI, Bot. Mag. Tokyo 65:19. 1952.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は径20~25 μ 。担子梗は単条又は下部で分枝し、真直又は波状に彎曲し、先端附近は鋸齒状、隔膜は1~5、オリーブ褐色、30~80 \times 3~4 μ 。分生胞子は準円柱形ないし倒棍棒状円柱形、基端は倒円錐状切断形、隔膜は3~14、オリーブ色、40~100 \times 3.5~5.5 μ 。

本菌はクコ (*Lycium chinense*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

49. *Cercospora chionanthi-retusi* TOGASHI & KATSUKI

Sci. Rept. Yokohama Nat. Univ. Sect. II. 1: 1. 1952; CHUPP, 1. c. 414. 1953; HARA, 1. c. 47. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、径25~60 μ 。担子梗は単条、真直又は僅かに曲り、隔膜は無く、淡煤色、1a~27 \times 2.5~3 μ 。分生胞子は円柱形ないし円柱状倒棍棒形、真直又は僅かに曲り、基端は倒円錐形、先端は尖り、隔膜は2~6、無色、30~50 \times 2.5~3 μ 。

本菌はヒトツバタゴ (*Chionanthus retusus*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

50. *Cercospora chionae* ELLIS & EVERHART

Bull. Torrey Bot. Club 11: 122. 1884; CHUPP, 1. c. 293. 1953; HARA, 1. c. 47. 1954.
=*Cercospora cercidis* RAY (1941)

担子梗群は主として病斑の上面に叢生し、基部の子座は球形、径20~50 μ 。担子梗は単条、真直、先端に向つて漸細し、胞子痕は小形、隔膜は不明確、8~50 \times 4~6 μ 、通常長さ10~20 μ 。分生胞子は円柱形、真直又は種々に彎曲し、基端は切断状、円形又は倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は不明確、無色又は着色し、40~100 \times 4~5.5 μ 。

本菌はハナズボウ (*Cercis chinensis*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

51. *Cercospora chloranthi* TOGASHI & KATSUKI

Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 17:96. 1942;
CHUPP, 1. c. 113. 1953; HARA, 1. c. 47. 1954.

担子梗は葉裏の気孔から叢生又は表生菌糸から単生し、単条又は分枝し、彎曲し、上部で小波状に屈曲し、幅は不規則、胞子痕は小形、隔膜は多数、30~160 \times 3~6 μ 。

分生胞子は細い倒棍棒形ないし準円柱形、多少彎曲し、基端は倒円錐状切断形、先端はやや尖り、隔膜は5~12、30~120 \times 3~5 μ 。

本菌はフタリシズカ (*Chloranthus serratus*) の葉に裏煤病(新称)をおこす。

52. *Cercospora chrysanthemi* HEALD & WOLF

Mycol. 3: 15. 1911; CHUPP, 1. c. 128. 1953;
HARA, 1. c. 47. 1954.

=*Cercospora chrysanthemi* PUTT. (1911)

=*Cercospora chrysanthemi-coronarii* SAW. (1922)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部に子座を僅かに生ずる。担子梗は単条、真直又は僅かに屈曲し、先端は切断状、胞子痕は大形、隔膜は1~5、オリーブ褐色、20~80 \times 3.5~5 μ 。分生胞子は針状、真直又は僅かに曲り、基端は切断状は、先端尖り、隔膜は3~18、無色、40~125 \times 2~4 μ 、稀れに200 μ 。

本菌はシユンギク (*Chrysanthemum coronarium*) の葉に葉枯病をおこす。本菌は沢田(1922)によつて *C. chrysanthemi-coronarii* と命名され、この種名は日本の病害及び菌類に関する著書に採用されている。しかし TAI (1936) は中国でシユンギクに発生する葉枯菌を本菌に同定し、沢田の種名をこれの同種異名にしている。また CHUPP (1953) も沢田の原標本を調べ本種の同種異名にしている。

53. *Cercospora circumscissa* SACCARDO

Nuov. Giorn. Bot. Ital. 8: 189. 1876; CHUPP, 1. c. 473. 1953; HARA, 1. c. 47. 1954.

=*Cercospora cerasella* SACC. (1879)

=*Cercospora cerasella* SACC. var. *avium*
ROUM. (1935)

=*Cercospora padi* BUB. & SER. (1935)

=*Cercospora padi* BUB. & SER. var. *mahaleb*
UNAM. (1935)

担子梗群は病斑の両面、主として裏面に叢生し、基部の子座は気孔内に生ずる。担子梗は単条、上部で0~3屈曲し、隔膜は通常無く、オリーブ褐色、10~65 \times 3~5 μ 、稀れに100 μ に及ぶ。分生胞子は倒棍棒形、真直又は僅かに彎曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は鈍頭又は尖り、隔膜は1~7、オリーブ色、30~115 \times 2.5~5 μ 。

本菌はウメ (*Prunus mume*)、ミザクラ (*P. avium*)、サクラ類 (*Prunus* spp.)、モモ (*P. persica*)、カラモモ (*P. persica* var. *densa*)、アンズ (*P. armeniaca*)、スモモ (*P. salicina*) などの葉に寄生する。病名は穿孔

病, 斑点病, 穿孔性褐斑病, 円星病, 褐斑病, 円星落葉病, 褐斑落葉病など種々である。本菌の子嚢胞子世代は *Mycosphaerella cerasella* ADERHOLD である。本菌は堀 (1916) によつて梅の穿孔病 1 名斑点病菌 *C. circumscissa* として報告され, また原 (1925) によつて桜, 桜桃, 桃, 扁桃, 杏などに寄生する穿孔病菌として報告され, さらに病名は中田・滝元 (1928) によつて褐斑病(穿孔病), 沢田(1943)によつて円星病, 中田(1957)によつて円星落葉病と改名された。本菌はまた三宅 (1923) によつて桜類, 桜桃の穿孔性褐斑病菌 *Mycosphaerella cerasella* = *C. cerasella* として報告され, この病名と病原菌は前者と別種のものとして一般に採用され, 病名は最近中田 (1957) によつて褐斑落葉病と改められた。このように *C. circumscissa* と *C. cerasella* とは別種と考えられているが, 菌の形態と寄主植物とが, 甚だよく類似しているから別種とは考えられない。CHUPP はこれら両種を同種異名にしている。

54. *Cercospora cissi-japonicae* HORI

Bot. Mag. Tokyo 65 : 19. 1952; CHUPP, l. c. 602. 1953; HARA, l. c. 47. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し, 基部の子座は小形。担子梗は単条, 真直又はやや屈曲し, 鋸歯状に短く分枝し, 先端は円頭, 隔膜は 1~3, 淡褐色ないし煤色, 40~120×4~5.5 μ 。分生胞子は針状ないし円柱形, 真直又は僅かに弯曲し, 基端は切断状, 隔膜は 3~13, 時に隔膜部はくびれ, 無色, 35~160×4~5 μ 。

本菌はヤブガラシ (*Cissus japonica*) の葉に裏煤病(新称)をおこす。

55. *Cercospora citrullina* COOKE

Grev. 12 : 31. 1883; CHUPP, l. c. 185. 1953; HARA, l. c. 47. 1954.

= *Cercospora cucurbitae* ELL. & EV. (1888)

= *Cercospora senchii* STEV. (1917)

= *Cercospora luffae* HARA (1928)

= *Cercospora trichosanthis* Mc RAE (1929)

= *Cercospora momordicae* Mc RAE (1929)

= *Cercospora chardoniana* CHUPP (1934)

= *Cercospora momordicae* MEND. (1941)

= *Cercospora momoricae* SAW. (1943)

担子梗群は病斑の主として上面に叢生し, 基部の子座は欠くか又は小形。担子梗は単条, 真直又は僅かに屈曲し, 先端はやや切断状, 胞子痕は大形, 隔膜は 2~15, 淡褐色, 50~300×4~5.5 μ , 稀れに 500 μ に及ぶ。分

生胞子は針状, 真直又は強く弯曲し, 基端は切断状, 先端は尖り, 隔膜は 7~35, 無色, 50~200×3~4 μ 。

本菌はスイカ (*Citrullus vulgaris*), メロン (*Cucumis melo*), キウリ (*C. sativus*), カボチャ (*Cucurbita moschata*), ヌウガオ (*Lagenaria siceraria*), ヘチマ (*Luffa cylindrica*), レイシ (*Momordica charantia*) など瓜類の葉に寄生し, 斑点病, 円煤病, 円星病又は白星病をおこす。従来スイカの円煤病菌 *C. citrullina*, メロンの斑点病菌 *C. cucurbitae*, レイシの白星病菌 *C. momordicae*, ヘチマの白星病菌 *C. luffae* はそれぞれ別種のものとしていたが, CHUPP はいずれも同種異名にしている。 *C. luffae* の原記載にある分生胞子の形状は小形であるが, これは寄主植物や発生環境に因るものと思われる。

56. *Cercospora clerodendri* MIYAKE

Bot. Mag. Tokyo 27 : 53. 1913; CHUPP, l. c. 589. 1953; HARA, l. c. 47. 1954.

= *Cercospora clerodendri* SAW. (1942)

担子梗群は病斑の両面, 主として上面に叢生し, 基部の子座は暗褐色, 小形, 径 60 μ , 上面ではこれより大形。担子梗は単条稀れに分枝し, 真直又は波状に弯曲し, 稀れに屈曲し, 隔膜は多数, オリーブ褐色, 10~70×3.5~5 μ 。分生胞子は倒棍棒形, 真直又は僅かに曲り, 基端は倒円錐状切断形, 先端は鈍頭又は尖り, 隔膜は 3~7, オリーブ色, 30~95×2.5~5 μ 。

本菌はクサギ (*Clerodendron trichotomum*), マキバクサギ (*C. cyrtophyllum*) の葉に角斑病をおこす。

57. *Cercospora cocculi* SYDOW

Ann. Crypt. Exot. 2:264. 1929; CHUPP, l. c. 387. 1953; HARA, l. c. 47. 1954.

= *Cercospora cocculi* SAW. (1942)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し, 基部の子座は小形, 暗色。担子梗は単条, 稀れに分枝し, 真直又は弯曲し, 稀れに屈曲し, 幅は不規則, 隔膜は 0~3, オリーブ褐色, 20~60×3.5~5 μ 。分生胞子は円柱形, 倒棍棒形ないし棍棒形, 真直又は僅かに弯曲し, 両端は鈍円, 隔膜は 2~7, 淡オリーブ褐色, 20~125×4~6 μ 。

本菌はアオツヅラフシ (*Cocculus trilobus*) の葉に裏煤病(新称)をおこす。

58. *Cercospora commerinicola* CHUPP

Chupp, l. c. 116. 1953; KATSUKI, Ann. Phytopath. Soc. Japan 20:71. 1955.

= *Cercospora commelynae* SYD. (non KALCH-BRENNER & COOKE)

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は小形、褐色。担子梗は単条、真直又は彎曲し、上部で波状に屈曲し、幅は不規則、胞子痕は小形、隔膜は多数、暗オリブ褐色、 $20\sim 100\times 4\sim 6.5\mu$ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱形、真直又は僅かに彎曲し、基端はやや切断状、先端は鈍頭又は尖り、隔膜は不明確で多数、無色、 $40\sim 100\times 3\sim 5.5\mu$ 。

本菌はツククサ (*Commelina communis*)、シマツククサ (*C. diffusa*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

59. *Cercospora concors* (CASP.) SACCARDO

Syll. Fung. 4: 449. 1886; CHUPP, 1. c. 536. 1953; HARA, 1. c. 47. 1954.

= *Fusisporium concors* CASP. (1885)

= *Cercospora heterosperma* BRES. (1903)

担子梗群は病斑の裏面に通常叢生し、基部の子座は欠くか又は小形。担子梗は単条又は分枝し、波状に彎曲し、 $0\sim 2$ 屈曲し、幅は不規則、胞子痕は小形、隔膜は無く、オリブ褐色、 $15\sim 75\times 4\sim 7\mu$ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、真直又は彎曲し、基端は円形ないし倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は $1\sim 5$ 、淡色ないし淡オリブ色、 $20\sim 100\times 3.5\sim 6\mu$ 。

本菌はジャガイモ (*Solanum tuberosum*) の葉に褐斑病をおこす。

60. *Cercospora consimilis* SYDOW

Ann. Mycol. 23: 423. 1925; CHUPP, 1. c. 131. 1953; HARA, 1. c. 47. 1954.

担子梗群は病斑の通常裏面に叢生し、基部に子座が無い。担子梗は単条、真直、上部で彎曲し又は屈曲し、幅は均一、胞子痕は小形、隔膜は多数、オリブ褐色、 $40\sim 200\times 4\sim 6\mu$ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、僅かに彎曲し、両端は鈍円形、隔膜は $1\sim 7$ 、 $30\sim 60\times 4\sim 7\mu$ 。

本菌はムラサキムカシヨモギ (*Vernonia cinerea*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

61. *Cercospora consociata* WINTER

Hedw. 22: 70. 1883; CHUPP, 1. c. 23. 1953; KATSUKI, Jour. Jap. Bot. 28: 286. 1953.

担子梗群は病斑の裏面に通常叢生し、基部の子座は気孔内に生じて小形。担子梗は単条又は分枝し、彎曲し、幅は均一、隔膜は多数、オリブ褐色、 $20\sim 80\times 3\sim 5\mu$ 。分生胞子は細い倒棍棒形、多少彎曲し、基端は倒円錐形、先端は尖り、隔膜は不明確、無色ないし淡オリブ色、 $40\sim 150\times 2\sim 4\mu$ 。

本菌はキツネノマゴ (*Justicia procumbens*) の葉に裏煤病 (新称) をおこす。

62. *Cercospora contraria* SYDOW

Ann. Mycol. Congo Belge Bot. Ser. Fasc. I. 3: 21. 1909; CHUPP, 1. c. 196. 1953; HARA, 1. c. 47. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、黒色、径 $20\sim 60\mu$ 。担子梗は単条、真直又は彎曲し、稀れに屈曲し、幅は不規則、胞子痕は小形、隔膜は長いものにあり、暗褐色、 $10\sim 50\times 4\sim 5.5\mu$ 。分生胞子は円柱形、先端に向つて僅かに細くなり、真直、両端は円形ないし円錐形、隔膜は明確で多数、淡オリブ褐色、 $20\sim 120\times 5\sim 8\mu$ 、時に鎖生する。

本菌はカエデドコロ (*Dioscorea quinqueloba*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

63. *Cercospora corchori* SAWADA

Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa 26: 179. 1916; CHUPP, 1. c. 562. 1953; HARA, 1. c. 48. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は小形、暗褐色。担子梗は単条、真直、先端の近くで屈曲し、先端はやや切断状、隔膜は $0\sim 12$ 、淡褐色、 $25\sim 75\times 4\sim 6\mu$ 、分生胞子は針状ないし倒棍棒形、真直又は僅かに彎曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は $2\sim 7$ 、無色、 $35\sim 112\times 3\sim 5\mu$ 。

本菌はヤマツナソ (*Corchorus olitorius*) の葉に黒星病をおこす。

64. *Cercospora cornicola* TRACY & EARLE

Bull. Torrey Bot. Club 23: 205. 1896; CHUPP, 1. c. 175. 1953; HARA, 1. c. 48. 1954.

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は球形、暗色、径 $20\sim 40\mu$ 。担子梗は単条、波状に彎曲し、稀れに屈曲し、胞子痕は見えなく、隔膜も見えない、淡オリブ褐色、 $10\sim 25\times 2\sim 3.5\mu$ 。分生胞子は細い倒棍棒形、僅かに曲り、基端は倒円錐形、先端はやや尖り、隔膜は不明確、 $20\sim 70\times 2\sim 3\mu$ 。

本菌はミズキ (*Cornus controversa*)、サンシユウ (*C. officinalis*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

65. *Cercospora corylopsidis* TOGASHI &

KATSUKI

Bot. Mag. Tokyo 65: 20. 1952; CHUPP, 1. c. 258. 1953; HARA, 1. c. 48. 1954.

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は球形、

オリブ褐色，径 20~50 μ 。担子梗は単条稀れに分枝し，真直又は弯曲し，先端は尖り，隔膜は不明確で 1~2，淡色又は淡オリブ色，12~50 \times 3~4 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形，通常弯曲し，基端はやや切断状，先端は鈍円形，隔膜は不明確で多数，淡オリブ色，30~75 \times 2~4 μ 。

本菌はヒユウガミズキ (*Corylopsis pauciflora*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

66. *Cercospora cotizensis* MULLER & CHUPP

Ceiba 1: 173. 1950; CHUPP, l. c. 297. 1953.

= *Cercospora crotalariae* SYD. (1930)

= *Cercospora crotalariae* SAW. (1942)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し，基部の子座は小形で気孔内に生ずる。担子梗は単条又は分枝し，真直又は僅かに屈曲し，胞子痕は小形，隔膜は 1~3，淡オリブ褐色，15~75 \times 3.5~6 μ 。分生胞子は倒棍棒形，真直又は弯曲し，基端は倒円錐形，先端は鈍頭，隔膜は 3~7，淡オリブ色，40~90 \times 2.5~5 μ 。

本菌はオオバタヌキマメ (*Crotalaria verrucosa*) の葉に角斑病をおこす。

67. *Cercospora crotalariae* SACCAEDO

Ann. Roy. Bot. Gard. Peradenya 3: 2. 1906; CHUPP, l. c. 297. 1953.

= *Cercospora crotalariae-juncea* SAW. (1942)

担子梗群は病斑の上面に叢生し，基部の子座は球形，暗褐色ないし黒色，径 30~60 μ 。担子梗は単条，真直，時に屈曲し，先端はやや切断状，胞子痕は中形，隔膜は少数，褐色，20~60 \times 4~6 μ 。分生胞子は針状ないし倒棍棒形，真直又は僅かに弯曲し，基端は切断状，先端は尖り，隔膜は不明確で多数，無色，40~100 \times 2.5~4 μ ，時に 160 μ 。

本菌はサンヘンブ (*Crotalaria juncea*) の葉に葉枯病をおこす。

68. *Cercospora cruenta* SACCARDO

Mich. 2: 149. 1880; CHUPP, l. c. 298. 1953; HARA, l. c. 48. 1954.

= *Cercospora phaseolorum* CKE. (1883)

= *Cercospora vignae* ELL. & EV. (1887)

= *Cercospora dolichi* ELL. & EV. (1889)

= *Cercospora vignae* RAC. (1898)

= *Cercospora lussoniensis* SACC. (1914)

= *Cercospora raciborskii* (RAC.) MATS. &

NAG. (1931)

= *Cercospora vignae-sinensis* TAI & WEI (1933)

= *Cercospora neovignae* YAM. (1934)

= *Cercospora vignae-sinensis* SAW. (1943)

担子梗群は病斑の両面に密に叢生し，基部の子座は小形，気孔内に生ずる。担子梗は単条，時に分枝し，真直又は弯曲し，1~3 屈曲し，胞子痕は小形，隔膜は 0~2，淡色ないし淡オリブ褐色，10~75 \times 2.5~5 μ ，通常 10~25 μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形，真直又は僅かに曲り，基端は倒円錐形，先端は鈍頭又はやや尖り，隔膜は不明確で 4~14，淡オリブ色ないしオリブ褐色，25~50 \times 2~5 μ 。

本菌はササゲ (*Vigna sinensis*)，ジユウロクササゲ (*V. sinensis* var. *catiang*)，ケツルアズキ (*Phaseolus mungo*) その他豆類の葉に煤黴病をおこす。本菌の子嚢胞子世代は *Mycosphaerella cruenta* (SACC.) LATHAM である。古い病斑部には *C. canescens* と *C. cruenta* とがよく混生している。病害の著書にでも両種が混同されている。

本菌は松本・長岡 (1931) によつて *C. raciborskii* (RAC.) MATS. & NAG. と命名されたが，この学名は SACCARDO & SYDOW (1902) によつて命名されたタバコの *C. raciborskii* と重複するので，山本 (1934) は *C. neovignae* と改めた。また TAI & WEI (1933) と沢田 (1943) も本菌に対して *C. vignae-sinensis* と命名されたが，これらは同種異名である。CHUPP はこれら煤黴病菌の種名を *C. dolichi* ELL. & EV. の同種異名とし，*C. cruenta* とは別種であるとしているが，*C. cruenta* と *C. dolichi* の両種が別種とするに足る著しい特徴がないから，著者らはこれらを同種異名のように思われる。

69. *Cercospora cryptomeriae* SHIRAI

KITAZIMA, Bot. Mag. Tokyo 31: 412. 1916;

CHUPP, l. c. 439. 1953; HARA, l. c. 40. 1954.

担子梗群は病斑部の子座上に叢生し，子座は半球形，暗黒色，小形。担子梗は単条，真直又は弯曲し，先端は鈍円形又は円錐形，隔膜は 0~2，暗褐色，20~80 \times 4~6 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし倒棍棒状円柱形，真直又は少しく弯曲し，基端は円形ないし倒円錐状切断形，先端は鈍頭，隔膜は 3~7，オリブ色，表面に細疣を生じ，40~70 \times 5~9 μ 。

本菌はスギ (*Cryptomeria japonica*) の葉と茎に寄生し赤枯病をおこし，また幹に溝腐病をおこす。

70. *Cercospora cryptomeriaecola* SAWADA

Bull. Gov. For. Exp. Sta. Tokyo 45: 47 & 53.
1950.

担子梗は病斑部の子座上に密に叢生し、単条稀れに1分枝し、上部は波状に多少屈曲し、隔膜は1~7、灰褐色、52~117×4.5~5 μ 。分生胞子は円柱形、基端は切断状、先端はやや円頭、隔膜は7~12、灰褐色、表面は平滑、54~91×6~6.5 μ 。

本菌はスギ (*Cryptomeria japonica*) の葉と梢に列多疣病をおこす。

71. *Cercospora cydoniae* ELLIS & EVERHART

Jour. Mycol. 8: 72. 1902; CHUPP, 1. c. 475. 1953;
HARA, 1. c. 48. 1954.

=*Cercospora cydoniae* RANG. (1915)

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は球形、黒色、径20~60 μ 。担子梗は単条、真直又は僅かに波状に弯曲し、胞子痕は不明確、隔膜は無く、淡オリーブ褐色、5~35×2~3.5 μ 。分生胞子は円柱形ないし倒棍棒状円柱形、真直又は少し弯曲し、基端は倒円錐形又は倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は不明確で多数、無色ないし淡オリーブ色、25~75×2~3.5 μ 。

本菌はボケ (*Chaenomeles lagenaria*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

72. *Cercospora cylindrata* CHUPP & LINDER

Mycol. 29: 29. 1937; CHUPP, 1. c. 196. 1953;
HARA, 1. c. 48. 1954.

担子梗群は病斑の裏面の表生菌糸から単生し、子座を欠く。担子梗は単条、波状に弯曲し、胞子痕は小形、隔膜は明確で多数、暗褐色、50~300×4~5 μ 。分生胞子は円柱形、種々な方向に強く弯曲し、基端は倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は3~5、褐色、25~75×4~6.5 μ 。

本菌はキクバドコロ (*Dioscorea septemloba*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

73. *Cercospora depazeoides* (DESM.) SACCARDO

Nuov. Giorn. Bot. Ital. 8: 187. 1876; CHUPP, 1.
c. 100. 1953; KATSUKI, Ann. Phytopath. Soc.
Japan 20: 72. 1955.

=*Exosporium depazeoides* DESM. (1849)

=*Cercospora depazeoides* var. *amphigena*
CAM. (1903)

=*Cercospora depazeoides* var. *gagensis* ELL. &
OHL. (1912)

=*Cercospora sambucina* ELL. & KELL. (1883)

=*Cercospora ticinensis* CAV. (1900)

=*Cercospora sambuci* STEV. & KING. (1927)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色ないし黒色、径20~80 μ 。担子梗は単条稀れに分枝し、真直又は波状に弯曲し、胞子痕は小形、隔膜は少数、暗褐色、25~300×3~4.5 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱状倒棍棒形、真直又は少し弯曲し、基端は倒円錐形ないし倒円錐状切断形、先端はやや鈍頭、隔膜は3~7、淡オリーブ色、30~140×3.5~6 μ 。

本菌はソクズ (*Sambucus chinensis*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

74. *Cercospora destructiva* RAVENAL

Jour. Mycol. 3: 13. 1887; CHUPP, 1. c. 108. 1953;
HARA, 1. c. 48. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形ないし長形、黒色、径50~150 μ 。担子梗は単条、真直又は波状に少しく弯曲し、胞子痕は不明確、隔膜も不明確、淡オリーブ褐色、5~25×2~3 μ 。分生胞子は円柱形ないし倒棍棒状円柱形、真直、基端は倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は1~3、無色ないし淡色、15~55×2~3.5 μ 。

本菌はマサキ (*Euonymus japonica*) の葉に角斑病をおこす。

75. *Cercospora deutziae* ELLIS & EVERHART

Jour. Mycol. 4: 5. 1888; CHUPP, 1. c. 516. 1953;
HARA, 1. c. 48. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、子座は通常欠く。担子梗は単条、真直又は少しく波状に弯曲し、胞子痕は中形、隔膜は少数、暗褐色、40~200×3.5~6 μ 。分生胞子は針状、真直又は弯曲し、基端は切断状、先端は鈍頭、隔膜は不明確で多数、50~125×2.5~4 μ 、稀れに300 μ 。

本菌はヒメウツギ (*Deutzia gracilis*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

76. *Cercospora dianthi* MULLER & CHUPP

Arch. Inst. Biol. Veget. Rio Janeiro 3: 93. 1936;
CHUPP, 1. c. 108. 1953; HARA, 1. c. 48. 1954.

担子梗群は病斑上に叢生し、子座は小形又は欠く。担子梗は単条、真直稀れに屈曲し、胞子痕は中形、隔膜は明確で多数、暗褐色、75~250×4~6 μ 。分生胞子は針状、種々に弯曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は不明確で多数、無色、75~300×2~4.5 μ 。

本菌はエゾカワラナデジコ (*Dianthus superbus*) の葉、莖、花に褐斑病(新称)をおこす。

77. Cercospora dichondrae KATSUKI

Ann. Phytopath. Soc. Japan 20 : 72. 1955.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、黒褐色、径 20~30 μ 。担子梗は単条、真直又は彎曲し、稀れに屈曲し、隔膜は 3~5。褐色、60~90 \times 3.6~5.5 μ 。分生胞子は円柱形ないし円柱状倒棍棒形、真直又は少しく彎曲し、基端は倒円錐形、先端は尖り、隔膜は 3~11、無色、39~89 \times 3~3.6 μ 。

本菌はアオイゴケ (*Dichondra repens*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

78. Cercospora dioscoreae ELLIS & MARTIN

Amer. Nat. 16 : 1003. 1882; CHUPP, l. c. 197. 1953; HARA, l. c. 49. 1954.

= *Cercospora nubilosa* ELL. & EV. (1888)= *Cercospora tokoroi* TOGASHI (1936)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は僅小、淡褐色。担子梗は単条稀れに分枝し、真直、僅かに屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は 0~1、淡オリーブ褐色、20~60 \times 4~5.5 μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形稀れに倒棍棒形、真直又は少しく曲り、基端は倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は 2~8、淡オリーブ色、40~100 \times 4~5.5 μ 。

本菌はヤマノイモ (*Dioscorea japonica*)、オニドコロ (*D. tokoro*)、ナガイモ (*D. batatas*) の葉に斑点病をおこす。原 (1930) の *C. dioscoreae* は分生胞子が無色、隔膜が多数、大きさ 100~200 \times 3~5 μ であるから、本菌とは別種である。

79. Cercospora dispori TOGASHI & MAKI

Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 17 : 98. 1942 ; CHUPP, l. c. 345. 1953; HARA, l. c. 48. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は暗褐色ないし黒色、径 20~40 μ 。担子梗は単条、真直、0~2 屈曲し、幅は不規則、隔膜は 4~10、オリーブ褐色、10~60 \times 4~7 μ 。分生胞子は針状ないし円柱形、真直、基端は切断状、先端は鈍頭、隔膜は不明確で 4~9、無色、25~140 \times 3~6 μ 。

本菌はハウチャクソウ (*Disporum sessile*)、エダウチチゴユリ (*D. smilacinum* var. *ramosum*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

80. Cercospora drymariae KATSUKI

Ann. Phytopath. Soc. Japan 20 : 72. 1955.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、子座を欠く。単条、

真直又は彎曲し、稀れに屈曲し、隔膜は 3~5、褐色、84~165 \times 5~6 μ 。分生胞子は針状ないし倒棍棒形、真直又はやや彎曲し、基端は倒円錐形、先端はやや尖り、隔膜は 3~8、オリーブ色、39~79 \times 3~4 μ 。

本菌はヤンバルハコベ (*Drymaria cordata*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

81. Cercospora dubia (RIESS) WINTER

Syll. Fung. 4: 456. 1886; CHUPP, l. c. 112. 1953; HARA, l. c. 49. 1954.

= *Ramularia dubia* RIESS (1854)= *Cercospora dubia* WINT. (1883)= *Cercospora dubia* (RIESS) BUB. (1908)= *Cercospora chenopodii* FRES. (1863)= *Cercospora chenopodii* CKE. (1883)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、褐色、径 40 μ 。担子梗は単条稀れに分枝し、真直、屈曲し、胞子痕は大形、隔膜は少数、淡オリーブ褐色、30~100 \times 4.5~6.5 μ 。分生胞子は円柱形ないし倒棍棒形、真直又は多少曲り、基端はやや切断状ないし倒円錐状切断形、先端は円頭、隔膜は 1~7、無色、30~80 \times 4~7 μ 。

本菌はアカザ (*Chenopodium centrourubrum*) の葉に円星病をおこす。

82. Cercospora edgeworthiae HORI

HARA, Dendropath. Spec. Part 230. 1925; CHUPP, l. c. 561. 1953; HARA, l. c. 49. 1954.

担子梗は病斑の裏面に叢生し、線状、褐色、隔膜がある。分生胞子は鞭状又は倒棍棒形、多細胞からなる。

本菌はミツマタ (*Edgeworthia papyrifera*) の葉に斑点病をおこす。

83. Cercospora ehikomontana TOGASHI & KATSUKI

Trans. Sapporo Hat. Hist. Soc. 17 : 99. 1942; CHUPP, l. c. 217. 1953; HARA, l. c. 49. 1954.

担子梗群は病斑の裏面で表生菌糸より単生し、子座を欠く。担子梗は単条、彎曲し、屈曲し、幅は不規則、胞子痕は不明確、隔膜は不明確、淡オリーブ褐色、10~60 \times 2~3.5 μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形、多少彎曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は不明確で多数、無色ないしオリーブ色、25~80 \times 2~3 μ 。

本菌はヤマアイ (*Mercurialis leiocarpa*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

84. *Cercospora ehretiae* TOGASHI & KATSUKI

Bot. Mag. Tokyo 65: 20. 1952; CHUPP, 1. c. 92. 1953; HARA, 1. c. 49. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は準球形、暗褐色、径 100 μ 。担子梗は単条、真直、隔膜は 1~3、僅かに着色し、14~25 \times 2.5~3 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、真直又は少しく彎曲し、基端は円形又はやや切斷状、先端はやや尖り、隔膜は 1~5、淡オリーブ色、30~70 \times 2~3 μ 。

本菌はチシアノキ (*Ehretia thyrsoiflora*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

85. *Cercospora elaterii* PASSERINI

Hedw. 16: 123. 1877; CHUPP, 1. c. 188. 1953; HARA, 1. c. 49. 1954.

= *Cercosporina elaterii* (PASS.) HARA (1930)

担子梗群は主として病斑の上面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、時に少数の細胞からなる。担子梗は単条、真直又は彎曲し、1~3 屈曲し、幅は均一、胞子痕は中形、隔膜は少数、褐色、20~125 \times 4~6.5 μ 。分生胞子は針状、倒棍棒形又は円柱形、真直又は少しく彎曲し、基端は切斷状、先端は鈍頭又は尖り、隔膜は不明確で多数、無色、50~110 \times 2~5 μ 。

本菌はレイシ (*Momordica charantia*) の葉に斑点病をおこす。

86. *Cercospora elongata* PECK

Ann. Rept. N. Y. State Mus. 33: 29. 1880; CHUPP, 1. c. 199. 1953; HARA, 1. c. 49. 1954.

= *Cercosporina elongata* (PECK) SPERG. (1910)

= *Cercosporina scabiosaecola* RANG. (1915)

= *Cercospora knautiae* SIEM. (1923)

= *Cercospora dipsaci* HOLL. (1926)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は欠くか又は暗褐色の少数細胞からなる。担子梗は単条又は僅かに分枝し、真直又は波状に彎曲し、1~5 屈曲し、幅は不規則、胞子痕は大形、隔膜は多数、暗褐色、120~150 \times 4~7 μ 。分生胞子は針状ないし倒棍棒形、真直又は少しく彎曲し、基端は切斷状、先端は鈍頭、隔膜は 3~15、無色、50~200 \times 3~5 μ 。

本菌はオニナバナ (*Dipsacus fullonum*) の葉に褐斑病をおこす。

87. *Cercospora epicoccoides* COOKE & MASSEE

Grev. 19: 91. 1891; CHUPP, 1. c. 406. 1953; HARA, 1. c. 49. 1954.

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は球形、黒色、大形。担子梗は単条、真直、又は種々に彎曲し、幅は不規則、先端は鈍頭、隔膜は少数、暗褐色、5~20 \times 3~5 μ 。分生胞子は円柱形ないし紡錘形、真直又は少しく彎曲し、基端は倒円錐形ないし倒円錐状切斷形、先端は円錐形ないし鈍頭、隔膜は 2~5、暗オリーブ褐色、30~60 \times 3.5~4 μ 。

本菌はユウカリノキ (*Eucalyptus globulus*) の葉に角斑病をおこす。

88. *Cercospora eriobotryae* (ENJOJI) SAWADA

Rept. Dept. Agr. Gov. Res. Inst. Formosa 61: 94. 1933; CHUPP, 1. c. 475. 1953; HARA, 1. c. 49. 1954.

= *Cercosporina eryobotryae* ENJOJI (1931)

= *Cercospora photiniae* FUKUI (1933)

担子梗群は主として病斑の上面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色ないし黒色、径 40~100 μ 。担子梗は単条又は分枝し、真直又は彎曲し、先端は円形又は円錐形、隔膜は 0~1、淡オリーブ褐色、5~30 \times 2~3.5 μ 。分生胞子は細い倒棍棒形ないし円柱形、真直又は少しく彎曲し、基端は円形ないしやや切斷状、先端は鈍頭ないしやや尖り、隔膜は 1~5、無色ないし淡オリーブ色、20~80 \times 2~3.5 μ 。

本菌はビワ (*Eriobotrya japonica*) とカナメモチ (*Photinia glabra*) の葉に角斑病又は円星病をおこす。本菌は円城寺 (1931) によつて角斑病菌 *Cercosporina eryobotryae* として報告され、沢田 (1933) はこれを *Cercospora* 属に改め、病名を円星病とした。CHUPP はカナメモチの菌を本種と同定している。福井 (1933) の前記の新種は菌の形態から判断すると、本種の同種異名のように思われる。

89. *Cercospora eupteleae* TOGASHI & KATSUKI

Bot. Mag. Tokyo 65: 21. 1952; CHUPP, 1. c. 566. 1953; HARA, 1. c. 49. 1954.

担子梗は通常葉裏の子座から叢生し、単条、真直又は彎曲し、隔膜は 0~3、淡オリーブ褐色、12~25 \times 2.5~4 μ 、長いものは 50 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形ないし長紡錘形、真直又は少しく彎曲し、基端は倒円錐形、先端はやや尖り、隔膜は 2~5、30~50 \times 2.5~4 μ 、稀れに 62 μ 。

本菌はフサザクラ (*Euptelea polyandra*) の葉に褐斑病をおこす。本菌の学名は *C. euptelaeae* とされたが、*a* が1字多く CHUPP によつて *C. eupteleae* と改められた。

90. *Cercospora evodiae* SYDOW

Ann. Mycol. 12: 112. 1914; CHUPP, 1. c. 503. 1953; HARA, 1. c. 49. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、子座は無いか又は少数細胞からなる。担子梗は単条、真直又は波状に弯曲し、先端は切断状又は鈍頭、隔膜は0~3、オリーブ褐色、 $30\sim 80\times 5\sim 10\mu$ 。分生胞子は倒棍棒形、真直又は弯曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は鈍頭又はやや尖り、隔膜は通常3、 $30\sim 70\times 6\sim 9\mu$ 。

本菌はハマセンダン (*Evodia meliaefolia*) の葉に煤点病をおこす。

91. *Cercospora fagopyri* NAKATA & TAKIMOTO

Jour. Agric. Exp. Sta. Gov. Korea 15: 29. 1928; HARA, 1. c. 50. 1954.

= *Cercospora fagopyri* CHUPP & MULLER (1942)

担子梗は病斑の両面に叢生し、単条、真直又は上部で少しく屈曲し、胞子痕は大形、隔膜は0~1、暗黄色、 $73\sim 96\times 5.5\mu$ 。分生胞子は針状、多少弯曲し、隔膜は3~7、無色、 $46\sim 101\times 4.6\mu$ 。

本菌はソバ (*Fagopyrum esculentum*) の葉に褐紋病をおこす。本菌は中田・滝元(1928)によつて *C. fagopyri* として報告され、CHUPP & MULLER (1942) はこれを知らないで、ソバの病菌に対して *C. fagopyri* と命名した。両菌の形態は甚だよく類似しているので、両種は同種と思われる。

92. *Cercospora fatouae* P. HENNINGS

Hedw. 43: 146. 1904; CHUPP, 1. c. 396. 1953; HARA, 1. c. 50. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生又は表生菌糸上に単生し、基部に子座を欠くか又は少数細胞からなる。担子梗は単条、真直又は弯曲し、幅は不規則、隔膜は明確で多数、オリーブ色、 $20\sim 120\times 3.5\sim 6\mu$ 。分生胞子は円柱形ないし針状、真直又は少し弯曲し、基端はやや切断状稀れに倒円錐形、先端はやや尖り、隔膜は明確で多数、無色ないし淡オリーブ色、 $30\sim 120\times 2.5\sim 5\mu$ 。

本菌はクワクサ (*Fatoua villosa*) の葉に裏煤病(新称)をおこす。

93. *Cercospora ferruginea* FÜCKEL

Hedw. 2: 134. 1863; CHUPP, 1. c. 136. 1953; HARA, 1. c. 50. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に散生し、子座を欠く。担子梗は単条又は分枝し、波状に弯曲し、稀れに屈曲し、胞子痕は中形、隔膜は多数、暗褐色、 $50\sim 250\times 4\sim 6\mu$ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、真直、基端は円形ないし倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は0~5、オリーブ褐色、 $15\sim 60\times 5\sim 8\mu$ 。

本菌はヨモギ (*Artemisia asiatica*) の葉に裏煤病をおこす。

94. *Cercospora fici* HEALD & WOLF

Mycol. 3: 16. 1911; CHUPP, 1. c. 396. 1953.

= *Cercospora fici-caricae* SAW. (1922)

= *Cercosporina fici-caricae* (SAW.) HARA (1927)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は球形、黒色、径 $30\sim 70\mu$ 。担子梗は単条又は分枝し、屈曲し、胞子痕は不明確、隔膜は少数、淡オリーブ褐色、 $10\sim 30\times 2.5\sim 4\mu$ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱状倒棍棒形、真直又は少し弯曲し、基端は倒円錐形、先端は尖り、隔膜は不明確で2~8又はそれ以上、無色ないしオリーブ色、 $30\sim 180\times 2\sim 4\mu$ 。

本菌はイチジク (*Ficus carica*) の葉に葉枯病又は落葉性枯葉病をおこす。本菌は沢田(1922)によつて *C. fici-caricae* と命名され、原(1928)はこれを *Cercosporina* 属に改めた。しかし CHUPP はこれらを *C. fici* の同種異名にしている。イチジクには本種の外に、前記の通り *C. bolleana* も寄生する。

95. *Cercospora fukuokaensis* CHUPP

TOGASHI & KATSUKI, Sci. Rept. Yokohama Nat. Univ. Sect. II. 1: 2. 1952; CHUPP, 1. c. 559. 1953; HARA, 1. c. 50. 1954.

担子梗群は病斑の両面、主として上面に叢生し、基部の子座はやや球形、暗褐色、径 $15\sim 35\mu$ 。担子梗は単条、真直又は多少屈曲し、隔膜は無く、オリーブ褐色、 $5\sim 30\times 2.5\sim 4\mu$ 。分生胞子は針状ないし円柱状倒棍棒形、真直又は少し弯曲し、基端はやや切断状、先端は尖り、隔膜は1~7、無色、 $30\sim 70\times 2\sim 3.5\mu$ 。

本菌はエゴノキ (*Styrax japonica*) の葉に褐斑病(新称)をおこす。

96. Cercospora fukushiana (MATSUURA)

YAMAMOTO

Jour. Soc. Trop. Agric. **6**: 601. 1934; CHUPP, l. c. 78. 1953; HARA, l. c. 50. 1954.

= *Cercosporina fukushiana* MATS. (1928)

= *Cercospora balsaminae* MEND. (1941)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、子座は僅かに生ずる。担子梗は単条稀れに分枝し、真直又は波状に彎曲し、1~3屈曲し、胞子痕は中形、隔膜は1~4、淡褐色、10~120×4~6 μ 。分生胞子は針状、真直又は少し彎曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は3~21、無色、20~185×3~4 μ 。

本菌はホウセンカ (*Impatiens balsamina*) の葉に斑点病をおこす。

本菌は松浦 (1928) によつて *Cercosporina fukushiana* と命名されたが、山本 (1934) はこれを *Cereospora* 属に改めた。

97. Cercospora fuligena ROLDAN

Philipp. Jour. Sci. **66**: 8. 1938; CHUPP, l. c. 540. 1953; HARA, l. c. 50. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、子座は欠くか又は僅かに生ずる。担子梗は単条、真直、僅かに屈曲し、隔膜は0~2、淡褐色、25~70×3.5~5 μ 。分生胞子は円柱状棍棒形、真直又は少し彎曲し、基端は円形ないし倒円錐形、先端はやや尖り、隔膜は2~6、無色ないし淡色、15~120×3.5~5 μ 。

本菌はトマト (*Lycopersicum esculentum*) の葉に煤黴病をおこす。本菌は香月 (1949)、山田 (1951) によつて *C. diffusa* ELL. & EV. と同定されたが、後に *C. fuligena* と改められた。

98. Cercospora fuliginosa ELLIS & KELLERMAN

Jour. Mycol. **3**: 103. 1887; CHUPP, l. c. 203. 1953; HARA, l. c. 50. 1954.

= *Cercospora atra* ELL. & EV. (1888)

= *Cercospora diospyri* VIEG. (1945)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は無いか又は球形、黒色、径50 μ 。担子梗は単条、真直又は彎曲し、稀れに屈曲し、幅は不規則、胞子痕は不明確、隔膜は不明確、煤色、10~75×2.5~4 μ 。分生胞子は円柱形ないし円柱状棍棒形、真直又は少し彎曲し、基端は倒円錐形、先端はやや鈍頭、隔膜は1~3、淡オリーブ色、20~100×2.5~4 μ 。

本菌はマメガキ (*Diospyros lotus*) の葉に角斑病をおこす。

99. Cercospora fusimaculans ATKINSON

Jour. Elisha Mitchell Sci. Soc. **8**: 50. 1892; CHUPP, l. c. 246. 1953.

= *Cercospora panici* DAVIS (1919)

= *Cercospora panici-miliacei* SAW. (1931)

担子梗群は主として病斑の上面に叢生し、基部の子座は小形、褐色、気孔内に生ずる。担子梗は単条、真直、0~2屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は少数、暗褐色、10~50×2.5~4 μ 、稀れに65 μ 。分生胞子は針状ないし倒棍棒形、真直又はやや彎曲し、基端は切断状ないし倒円錐状切断形、隔膜は不明確、20~100×1.5~3 μ 。

本菌はヒエ (*Echinochloa crusgalli* subsp. *colona* var. *edulis*) の葉に褐斑病をおこす。本菌は沢田 (1931) によつてキビの葉枯病菌 *C. panici-miliacei* とされたが、CHUPP はこれを同種異名にしている。

100. Cercospora gnaphaliacea COOKE

Jour. Linn. Soc. London (Bot.) **17**: 142. 1880; CHUPP, l. c. 138. 1953; HARA, l. c. 51. 1954.

担子梗群は病斑の両面、主として上面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径20~40 μ 、稀れに80 μ 。担子梗は単条又は分枝し、真直又は彎曲し、上部で0~2屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は明確で多数、褐色、75~160×4~5 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、真直、基端は倒円錐形、先端は尖り、隔膜は1~5、淡オリーブ褐色、20~75×4.5~7 μ 。

本菌はホウゴグサ (*Gnaphalium multiceps*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

101. Cercospora gnaphalii HARKNESS

Bull. Cal. Acad. Sci. **1**: 38. 1884; CHUPP, l. c. 138. 1953; SAWADA, Bull. Gov. For. Exp. Sta. Tokyo **105**: 109. 1958.

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は暗褐色、径20~50 μ 。担子梗は単条、真直又は彎曲し胞子痕は小形、隔膜は0~1、オリーブ褐色、8~35×4~5 μ 。分生胞子は円柱形ないし倒棍棒状円柱形、真直、基端は倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は1~7、淡色ないし煤色、20~55×5~7 μ 。

本菌はアキノハハゴグサ (*Gnaphalium hypoleucum*) の葉に灰斑病をおこす。

102. *Cercospora gossypina* COOKE

Grev. 12: 31. 1883; CHUPP, l. c. 371. 1953;
HARA, l. c. 51. 1954.

= *Cercosporina gossypina* FUKUI (1951)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は大形の数細胞からなる。担子梗は単条、真直、上部で0~5屈曲し、胞子痕は中形、隔膜は多数、褐色、75~250×4~6.5 μ 。分生胞子は針状、真直又はやや弯曲し、基端は切断状、先端はやや尖り、隔膜は不明確、無色、60~130×2.5~4 μ 。

本菌はワタ (*Gossypium herbaceum*) の葉焼病をおこす。本菌の子嚢胞子世代は *Mycosphaerella gossypina* ATKINSON である。福井 (1951) は葉焼病菌の分生胞子が無色であるから従来の種類と違うと考え、*Cercosporina* 属の新種とされたが、本種の異名である。

103. *Cercospora gotoana* TOGASHI

Jap. Jour. Bot. 2: 75. 1924; CHUPP, l. c. 478. 1953; HARA, l. c. 50. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部に子座がある。担子梗は単条、弯曲し、隔膜は1~3、オリーブ褐色、80~170×4~6 μ 。分生胞子は円柱状棍棒形、弯曲し、隔膜は1~5、淡オリーブ色、50~85×4~6 μ 。

本菌はホザキナシカマド (*Sorbaria sorbifolia*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

104. *Cercospora grandissima* RANGEL

Bol. Agric. Sao Paulo XVI. A. 4: 322. 1915;
CHUPP, l. c. 139. 1953; HARA, l. c. 51. 1954.

= *Cercospora dahliae* HARA (1929)

= *Cercosporina dahliae* HARA (1930)

担子梗群は病斑の両面、主として上面に叢生し、基部の子座は数細胞からなる。担子梗は単条、真直又は多少弯曲し、1~13屈曲し、胞子痕は中形、隔膜は多数、褐色、40~160×4~5.5 μ 。分生胞子は針状、真直又は少しく弯曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は6~29、無色、40~350×2~4.5 μ 。

本菌はダリア (*Dahlia variabilis*) の葉に斑点病をおこす。本菌は原 (1929) によつて *C. dahliae* と命名されたが、その後山本 (1934) はこれを *C. grandissima* の同種異名にした。

105. *Cercospora hamamelidis* (PECK) ELLIS & EVERHART

CHUPP, l. c. 258. 1953; HARA, l. c. 51. 1954.

担子梗群は通常病斑の裏面に叢生し、基部の子座は球形、淡褐色、径20~60 μ 。担子梗は単条、真直、僅かに屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は多数、淡オリーブ色、先端は黒色、

10~75×2~3.5 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱形、真直又はやや弯曲し、基端は倒円錐形ないしやや切断状、先端は尖り、隔膜は不明確、無色、15~60×1.5~3 μ 。

本菌はマンサク (*Hamamelis japonica*) の葉に複斑病 (新称) をおこす。

106. *Cercospora handelii* BUBAK

Königl. Naturhist. Hofmus. 23: 106. 1909;
CHUPP, l. c. 207. 1953; HARA, l. c. 51. 1954.

担子梗群は病斑の両面、主として上面に叢生し、基部の子座は不規則形、暗褐色ないし黒色、径15~70 μ 。担子梗は単条、真直、僅かに屈曲し、隔膜は不明確、淡オリーブ色、15~70×2~4 μ 。分生胞子は倒棍棒形、真直又は少しく弯曲し、基端は倒円錐形ないし切断状、先端はやや尖り、隔膜は不明確で多数、淡オリーブ色、20~140×1.5~3 μ 。

本菌はヨドガワツツジ (*Rhododendron yedoense*) の葉に葉紋病をおこす。

107. *Cercospora hederæ* TOGASHI & KATSUKI

Bot. Mag. Tokyo 65: 21. 1952; CHUPP, l. c. 63. 1953; HARA, l. c. 51. 1954.

担子梗群は病斑の裏面の表生菌糸上に単生し、子座を欠く。担子梗は単条、真直又は波状に弯曲し、稀れに屈曲し、幅は均一、隔膜は0~5、淡オリーブ褐色、20~100×2~4 μ 。分生胞子は円柱形、通常真直、基端は倒円柱形、先端は尖り、隔膜は1~5、オリーブ色、15~50×2~3.5 μ 。

本菌はキズタ (*Hedera rhombea*) の葉に裏煤病 (新称) をおこす。

108. *Cercospora helianthicola* CHUPP & VIEGAS

Bol. Soc. Brasil. Agron. 8: 29. 1955; CHUPP, l. c. 141. 1953.

= *Cercosporina helianthi* FUKUI (1951)

= *Cercospora helianthicola* HARA (1954)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は欠くか又は数細胞からなる。担子梗は単条、稀れに分枝し、多く屈曲し、隔膜は多数、淡褐色ないし褐色、15~125×3~5 μ 。分生胞子は針状、種々に弯曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は不明確で多数、無色、30~125×1.5~3 μ 。

本菌はキクイモ (*Helianthus tuberosus*) の葉に黒斑病をおこす。本菌は福井 (1951) によつてキクイモの黒斑病菌 *C. helianthi* として報告され、原 (1954) によつて *C. helianthicola* と改名されたが、これらは CHUPP

& VIÉGAS の命名した *C. helianthicola* の同種異名のように思われる。

109. Cercospora hiratsukana TOGASHI & KATSUKI

Jour. Jap. Bot. 28: 286. 1953.

担子梗群は病斑の両面、通常裏面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径 25~30 μ 。担子梗は単条、真直、単胞、オリーブ褐色、10~17 \times 2.5~3 μ 。分生胞子は円柱形ないし円柱状倒棍棒形、真直又はやや彎曲し、基端は倒円錐状切断形、先端はやや尖り、隔膜は2~7、やや無色、27~60 \times 2.5~3 μ 。

本菌はカエデコロ (*Dioscorea quinqueloba*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

110. Cercospora hostae HORI

Ann. Phytopath. Soc. Japan 1: 66. 1921 (nom. nud.); KATSUKI, Ann. Phytopath. Soc. Japan 20: 72. 1955.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、径35~40 μ 。担子梗は単条、真直、上部で波状に屈曲し、隔膜は3~5、淡オリーブ褐色、80~120 \times 4~5 μ 。分生胞子は長倒棍棒形ないしやや円柱形、真直又はやや彎曲し、基端はやや切断状、先端は尖り、隔膜は6~13、62~115 \times 4~5 μ 。

本菌はギボウシ (*Hosta* sp.) の葉に円星病 (新称) をおこす。

111. Cercospora houttuyniae TOGASHI & KATSUKI

Bot. Mag. Tokyo 65: 21. 1952; CHUPP, l. c. 513. 1953; HARA, l. c. 51. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は暗赤褐色。担子梗は単条、彎曲し、屈曲し、幅は不均一、隔膜は少数、10~62 \times 3~5 μ 。分生胞子は倒棍棒形、真直又は彎曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は尖り、隔膜は3~9、淡オリーブ褐色、30~80 \times 3~4.5 μ 。

本菌はドクダミ (*Houttuynia cordata*) の葉に褐斑病 (新称) をおこす。

112. Cercospora humuli HORI

Jour. Bot. (London) 61: 135. 1923; CHUPP, l. c. 397. 1953; HARA, l. c. 51. 1954.
= *Cercospora humuli-japonici* SAW. (1942)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、

褐色、径 20~40 μ 。担子梗は単条稀れに分枝し、真直又は彎曲し、幅は不規則、隔膜は0~2、淡オリーブ褐色、10~55 \times 3~4.5 μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形、真直又は少し彎曲し、基端は切断状ないし倒円錐形、先端は鈍頭ないしやや尖り、隔膜は4~11、やや無色ないし淡オリーブ色、35~120 \times 2.5~4 μ 。

本菌はホップ (*Humulus lupulus*)、カナムグラ (*H. japonicus*) の葉に褐斑病又は角斑病をおこす。

113. Cercospora hydrangeae ELLIS & EVERHART

Jour. Mycol. 8: 71. 1902; CHUPP, l. c. 517. 1953; HARA, l. c. 51. 1954.

= *Cercospora hydrangeicola* SPEG. (1910)

= *Cercospora hydrangeana* THARP (1917)

= *Cercospora arborescentis* TEH. & DAN. (1925)

担子梗群は病斑の主として上面に叢生し、基部の子座は小形、暗褐色、時に数細胞からなる。担子梗は単条、1~5屈曲し、隔膜を有し、褐色、10~80 \times 4~6 μ 。分生胞子は針状、真直又は少し彎曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は不明確で多数、無色、40~100 \times 2~3.5 μ 、稀れに165 \times 4 μ 。

本菌はアジサイ (*Hydrangea macrophylla* var. *otaksa*) の葉に輪斑病をおこす。アジサイには2種の *Cercospora* が寄生し、他の種類は後記の通り *C. obtogens* である。

114. Cercospora hydrocotyles ELLIS & EVERHART

Jour. Mycol. 3: 16. 1887; CHUPP, l. c. 574. 1953; HARA, l. c. 52. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は小形、暗褐色、径 20~40 μ 。担子梗は単条、真直又は波状に彎曲し、0~3屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は少数、淡褐色、10~60 \times 3~4 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、真直、基端は切断状、先端は鈍頭、隔膜は不明確、やや無色ないし淡オリーブ色、20~90 \times 2~3.5 μ 。

本菌はチドメグサ (*Hydrocotyle sibthorpioides*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

115. Cercospora imperialis MIURA

Rept. Akita Pref. Agric. Exp. Sta. 8: 62. 1957.

担子梗は病斑の上面の子座から叢生し、単条、真直、栗褐色、上部は淡色、隔膜を有し、長さ 120 μ 又はそれ以上、幅 6~7 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、真直又は

やや彎曲し、基端は円形、先端は鈍頭、隔膜は1~5, 50~70×3~6 μ .

本菌はキリ (*Paulownia tomentosa*) の葉に褐斑病 (新称) をおこす。本菌は *C. paulowniae* HORI に類似しているが、両種の前標本を比較しないと異同が決定できない。

116. *Cercospora ipomoeae* WINTER

Hedow. 26: 34. 1887; CHUPP, 1. c. 171. 1953; HARA, 1. c. 52. 1954.

= *Cercosporina ipomoeae* (WINT.) HARA (1930)

= *Cercospora viridula* ELL. & EV. (1889)

= *Cercospora alabamensis* ATK. (1892)

= *Cercospora stuckertiana* SYD. (1900)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は数細胞からなる。担子梗は単条、真直又は1~2屈曲し、胞子痕は大形、隔膜は多数、オリブ褐色、25~200×4~6 μ 。分生胞子は針状ないし倒棍棒形、真直又は多少彎曲し、基端は切断状、先端はやや尖り隔膜は不明確で多数、無色、50~250×2~4 μ 。

本菌はアサガオ (*Pharbitis nil* var. *japonica*) の葉に斑紋病をおこす。

117. *Cercospora juncicola* (HORI & KASAI)

CHUPP

CHUPP, 1. c. 263. 1953.

= *Cercospora juncicola* (HORI & KASAI)

HARA (1954)

= *Cercosporina juncicola* HORI & KASAI (1922)

担子梗群は茎の病斑上に叢生し、基部の子座は暗褐色、気孔内に生ずる。担子梗は単条稀れに分枝し、屈曲し、隔膜は1~4、淡オリブ褐色、15~65×2.5~3.5 μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形、真直又はやや彎曲し、基端は切断状、先端はやや尖り、隔膜は2~3、無色ないし淡オリブ色、通常23~48×2~3 μ 。

本菌はイ (*Juncus effusus* var. *decipiens*) の葉に蛇紋病をおこす。

118. *Cercospora kadsurae* TOGASHI & KATSUKI

Bot. Mag. Tokyo 65: 22. 1952; CHUPP, 1. c. 364. 1953; HARA, 1. c. 52. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、黒褐色、径25~40 μ 。担子梗は単条、真直又は彎曲し、隔膜は0~2、淡オリブ褐色、10~30×2~3.5 μ 。分生胞子は円柱形ないし円柱状倒棍棒形、真直又は彎曲し、

基端はやや切断状、先端はやや尖り、隔膜は2~4、淡オリブ色、30~70×2~3.5 μ 。

本菌はサネカズラ (*Kadsura japonica*) の葉に円星病 (新称) をおこす。

119. *Cercospora kaki* ELLIS & EVERHART

Jour. Mycol. 3: 17. 1887; CHUPP, 1. c. 203. 1953; HARA, 1. c. 52. 1954.

担子梗群は病斑の主として上面に叢生し、基部の子座は小形、暗褐色、径15~60。担子梗は単条又は分枝し、単胞、淡褐色、5~15×3~4 μ 。分生胞子は円柱形ないし細い倒棍棒形、真直又はやや彎曲し、基端はやや切断状ないし倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は不明確で1~5、無色ないし淡オリブ色、20~60×2~4 μ 、稀れに100 μ 。

本菌はカキ (*Diospyros kaki* var. *domestica*) の葉に角斑病又は角斑性落葉病をおこす。

120. *Cercospora kakivora* HARA

Jour. Plant Protect. 16: 18. 1929 (sine diagnose latina); HARA, 1. c. 52. 1954.

担子梗群は病斑の両面、主として上面に叢生し、基部の子座は球形、径30~80 μ 。担子梗は単条又は分枝し、真直又は彎曲し、隔膜は2~7、暗褐色、先端は淡色、55~105×4.4~6 μ 。分生胞子は鞭状ないし倒棍棒形、隔膜は9~17、暗褐色、100~170×5~6.6 μ 。

本菌はカキ (*Diospyros kaki* var. *domestica*) の葉に角斑病をおこす。本種にラテン文の原記載がないから、次にラテン文で再記載する。

Caespituli amphigenis sed saepe epiphyllis; conidiophoris fasciculatis, simplicibus vel ramulosis, 2~7-septatis, fusco-brunneis sed apice pallidioribus, 55~105×4.4~6 μ ; conidiis vermicularibus vel obclavatis, 9~17-septatis, fusco-brunneis, 100~170×5~6.6 μ .

Hab. in foliis *Diospyri kaki* var. *domesticae*, Prov. Suruga, Japonia.

121. *Cercospora kerriae* TOGASHI

Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 17: 99. 1942; CHUPP, 1. c. 481. 1953; HARA, 1. c. 52. 1954.

担子梗は葉裏に生じ、単条、真直又はやや彎曲し、先端は鈍頭、隔膜は2~4、淡オリブ色、30~45×4~8 μ 。分生胞子は円柱形ないし長倒棍棒形、両端に向つて漸細し、両端は鈍頭、隔膜は2~8、無色、28~85×4~6 μ 。

本菌はヤマブキ (*Kerria japonica*) の葉に円星病 (新

称)をおこす。

112. Cercospora kikuchii MATSUMOTO & TOMOYASU

Ann. Phytopath. Soc. Japan 1 (6): 1. 1925;
CHUPP, l. c. 313. 1953; HARA, l. c. 52. 1954.
=*Cercosporina kikuchii* MATS. & TOM. (1925)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、子座は小形。担子梗は単条時には分枝し、真直又は波状に弯曲し、先端はやや切断状、隔膜は多数、45~220×4~6 μ 。分生胞子は針状、真直又は多少弯曲し、基端は切断状、先端は鈍頭ないしやや尖り、隔膜は0~22、無色、75~165×4~5 μ 。

本菌はダイズ (*Glycine max*) の葉、莖、莢、種子に寄生し、紫斑病をおこす。松本・友安 (1925) は本菌の形態は *Cercospora* に属するが、SPAGAZZINI (1910) の分類に従えば *Cercosporina* に属するとされた意見によつて、CHUPP は本菌を *Cercospora* 属と解し、前記のごとく *Cercospora kikuchii* MATSUMOTO & TOMOYASU とした。

123. Cercospora koepkei KRUEGER

Ber. Versuch. Zuckerr. W. Java 1: 115. 1890;
CHUPP, l. c. 248. 1953; HARA, l. c. 52. 1954.
=*Cercospra longipes* BUTL. (1906)

担子梗群は病斑の両面、通常裏面に叢生し、基部の子座は暗褐色の数細胞からなる。担子梗は単条稀れに分枝し、0~4 屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は1~12、褐色、39~185×4~6 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱形、両端に向つて漸細し、真直又は少しく弯曲し、基端は倒円錐形ないし倒円錐状切断形、先端はやや尖り、隔膜は1~6、無色、20~75×3.5~5 μ 。

本菌はサトウキビ (*Saccharum officinarum*) の葉に葉片赤斑病又は赤紋病をおこす。

124. Cercospora kurimaensis FUKUI

Bull. Mie Imp. Coll. Agr. & For. 3: 13. 1933;
HARA, l. c. 52. 1954.
=*Cercospora nerii-indici* YAM. (1934)

担子梗群は病斑の裏面に叢生、又は表生菌糸から短く分枝して生じ、基部の子座は欠くか又は小形。担子梗は単条又は上部で短く分枝し、真直又は多くは弯曲し、胞子痕はないか又は小形、隔膜は1~11、淡オリーブ褐色、10~40×3~4 μ 。分生胞子は円柱形ないし円柱状倒棍棒形、真直又は少しく弯曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は1~11、やや無色ないし淡オリーブ色、

32~113×3~4 μ 。

本菌はキョウチクトウ (*Norium indicum*) の葉に灰色黴病をおこす。本菌は山本 (1934) によつて *C. nerii-indici* として報告され、福井 (1933) によつて *C. kurimaensis* として報告されたが、これらは同種である。

125. Cercospora kusanoi SAWADA

Rept. Dept. Agric. Gov. Res. Inst. Formosa 35:
109. 1928; CHUPP, l. c. 398. 1953.
=*Cercospora flexuosa* TAN. (1890) (nom. nud.)
=*Clasterosporium mori* SYD. (1900)

担子梗は病斑の両面に叢生し、時に表生菌糸に単生し、単条又は1~2分枝し、波状に弯曲し、先端に近く微細に屈曲し、隔膜は1~4、暗色又は暗オリーブ褐色、20~73×3.5~6 μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形、長倒棍棒形又は線虫形、先端は鈍頭、真直又は弯曲し、隔膜は3~11、暗色、18~95×3.5~7.5 μ 。

本菌はマグワ (*Morus alba*)、シマグワ (*M. acidosa*) などのクワ類の葉に汚葉病をおこす。本菌は田中 (1980) によつて *C. flexuosa* と命名されたが、学名のみで原記載がなく、後に SYDOW (1900) によつて *Clas. mori* として記載された。沢田 (1928) は *Clas. mori* を *Cercospora* 属に改め、*C. mori* としようとしたが、*C. mori* HARA の学名と重複するため、原標本の採集者である草野博士の名から *C. kusanoi* とした。その後沢田 (1931) は台湾産菌類目録で *C. kusanoi* を *C. flexuosa* の異名にした。しかし、この *C. kusanoi* TAN. はカキの葉に寄生する *C. flexuosa* TRACY & EARLE (1895) と重複し、混同の恐れがあるから *C. kusanoi* を採用した方が良いと思われる。

126. Cercospora lactucae P. HENNINGS

ENGLER Bot. Jahrb. 31: 742. 1902; CHUPP, l. c. 143. 1953; HARA, l. c. 52. 1954.

担子梗群は病斑の両面、通常裏面に生じ、子座を欠く。担子梗は単条又は分枝し、隔膜は多数、隔膜部でややくびれ、胞子痕は小形、暗褐色、20~500×3.5~5 μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形、真直、基端は円形ないし倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は通常1~3、淡褐色、20~55×3.5~5 μ 。

本菌はアキノノゲシ (*Lactuca laciniata*)、ヤマニガナ (*L. raddeana*) の葉に褐斑病をおこす。チシアの褐斑病菌は以前に *C. lactucae* WELLES 又は *C. lactucae* STEVENS とされたが、これらは後記の通り本種とは別

種であつて、*C. longissima* に同定されるものである。

127. *Cercospora latens* ELLIS & EVERHART

Jour. Mycol. 4: 3. 1888; CHUPP, 1. c. 314. 1953.
=*Cercospora lespedezae* ELL. & DEARN. (1897)

担子梗群は病斑の主として上面に叢生し、基部の子座は褐色の少数細胞からなるか又は小形、径 30μ 。担子梗は単条、真直、胞子痕は小形ないし中形、隔膜は無いか又は稀れにあり、淡オリーブ褐色、 $5\sim 30\times 3\sim 5\mu$ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱形、真直又はやや彎曲し、基端は切断状ないし倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は不明確、無色、稀れに着色し、 $40\sim 100\times 2.5\sim 5\mu$ 。

本菌はマルバハギ (*Lespedeza cyrtobotrya*)、ハギ (*Lespedeza* sp.) の葉に褐斑病 (新称) をおこす。本菌は山本(1936)、香月(1949)によつて *C. lespedezae* として報告されたが、CHUPP はこれを *C. latens* の同種異名にしている。

128. *Cercospora ligustici* TOGASHI

Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 17: 100. 1942;
CHUPP, 1. c. 575. 1953; HARA, 1. c. 53. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は小形、暗褐色、径 $15\sim 40\mu$ 。担子梗は単条、波状に屈曲し、先端は円頭、単胞、淡オリーブ色、 $10\sim 55\times 4\sim 7\mu$ 。分生胞子は円柱形ないし円柱状倒棍棒形、真直又はやや彎曲し、基端は切断状ないし円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は $1\sim 5$ 、無色、 $15\sim 80\times 4\sim 6\mu$ 。

本菌はマルバトウキ (*Ligusticum hultenii*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

129. *Cercospora ligustri* ROUMEGUERE

Rev. Mycol. 5: 177. 1883; CHUPP, 1. c. 416. 1953;
HARA, 1. c. 53. 1954.

担子梗群は病斑の主として上面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径 $20\sim 40\mu$ 。担子梗は単条、時に屈曲し、幅は均一、胞子痕は中形、隔膜は少数、淡オリーブ褐色、 $20\sim 40\times 4\sim 6\mu$ 。分生胞子は円柱形ないし紡錐形、真直又は少し彎曲し、基端は倒円錐状切断形ないしやや切断形、先端は鈍頭、隔膜は $1\sim 3$ 、無色ないし淡オリーブ褐色、 $20\sim 65\times 3\sim 6\mu$ 。

本菌はネズミモチ (*Ligustrum japonicum*) の葉に斑紋病をおこす。

130. *Cercospora litseae-glutinosae* SYDOW

Philipp. Jour. Sci. (Bot.) 8: 283. 1913; CHUPP,
1. c. 275. 1953; HARA, 1. c. 53. 1954.
=*Cercospora litseae* HENN. (1902)?

担子梗群は病斑の裏面に生じ、表生菌糸から短く分枝し、子座を欠く。担子梗は単条、稀れに屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は僅少、淡褐色、 $10\sim 35\times 3\sim 5\mu$ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形ないし円柱形、真直又は少し彎曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は $1\sim 8$ 、淡オリーブ色、 $20\sim 70\times 3\sim 5\mu$ 。

本菌はハマビワ (*Litsea japonica*)、シロダモ (*L. glauca*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。シロダモに寄生する菌を P. HENNINGS (1902) は *C. litseae* としたが、CHUPP は原標本の 1 部分を検鏡した結果、*Cercospora* 属の分生胞子を認めなかつたが、これは本菌と同種のもののように推定している。

131. *Cercospora longissima* (CUG.) SACCARDO

Syll. Fung. 18: 607. 1906; CHUPP, 1. c. 144. 1953;
HARA, 1. c. 53. 1954.

=*Cercospora longispora* (CUG.) TRAV. (1902)

=*Cercospora lactucae* STEV. (1917)

=*Cercospora lactucae* WELL. (1923)

=*Cercospora lactucae-sativae* SAW. (1943)

=*Cercospora lactucae-indicae* SAW. (1943)

=*Cercospora ixeridis-chinensis* SAW. (1943)

=*Cercosporina longissima* (TRAV.) FUK. (1929)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は欠くか又は数細胞からなる。担子梗は単条、僅かに屈曲し、先端は円形ないし切断形、胞子痕は中形、隔膜は多数、淡オリーブ褐色、 $25\sim 80\times 4\sim 6\mu$ 。分生胞子は針状ないし倒棍棒形、真直又は種々に彎曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は $5\sim 15$ 、無色、 $20\sim 175\times 3\sim 6\mu$ 。

本菌はチシア (*Lactuca sativa*) とアキノノゲシ (*L. indica*) の葉に褐斑病をおこす。

132. *Cercospora lonicericola* YAMAMOTO

Jour. Soc. Trop. Agr. 6: 604. 1934; CHUPP, 1.
c. 102. 1953; HARA, 1. c. 63. 1954.

担子梗は病斑の裏面において表生菌糸から短く分枝して生じ、子座を欠き、単条、種々に彎曲し、先端附近に鋸歯状の突起あり、胞子痕は不明確、隔膜は少数、淡オリーブ褐色、 $10\sim 65\times 2\sim 4\mu$ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形ないし針状、真直又は彎曲し、基端は切断状ないし倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は $3\sim 12$ 、無色ないし淡オリーブ色、 $32\sim 113\times 3\sim 4\mu$ 。

本菌はスイカズラ (*Lonicera japonica*) の葉に黄褐斑病をおこす。

133. *Cercospora malayensis* STEVENS &

SOLHEIM

Mycol. **23** : 394. 1931; CHUPP, l. c. 372. 1953;
HARA, l. c. 53. 1954.=*Cercosporina hibisci* FUKUI (1951)=*Cercospora fukuii* HARA (1954)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径 50 μ 、時には無い。担子梗は単条、真直又は彎曲し、1~3 屈曲し、先端は円錐状切断形、胞子痕は中形、隔膜は 0~8、オリブ褐色、25~260 \times 3~5 μ 。分生胞子は針状、真直又は少し彎曲し、隔膜は 4~40 μ 、50~270 \times 2~5 μ 。

本菌はオクラ (*Abelmoschus esculentus*)、トロロアオイ (*A. manihot*)、ローゼリソウ (*Hibiscus sabdaria*), フヨウ (*H. mutabilis*) の葉に褐斑病をおこす。福井(1951)はフヨウの褐斑病菌を *C. hibisci* として報告されたが、その菌の形態は本種と甚だよく類似し、*C. hibisci* ではなく、本種の同種異名のように思われる。

134. *Cercospora malloti* ELLIS & EVERHARTJour. Mycol. **4** : 114. 1888; CHUPP, l. c. 224. 1953;
HARA, l. c. 54. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は数細胞からなる。担子梗は単条、屈曲し、胞子痕は中形、隔膜は少数、淡褐色、10~50 \times 3~5 μ 。分生胞子は針状、真直又は少し彎曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は不明確、40~75 \times 1.5~3 μ 。

本菌はアカメガシワ (*Mallotus japonicus*) の葉に角斑病をおこす。

135. *Cercospora meliae* ELLIS & EVERHARTJour. Mycol. **3** : 16. 1887; CHUPP, l. c. 385. 1953.
=*Cercospora leucosticta* ELL. & EV. (1888)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は数細胞からなり、径 30 μ 。担子梗は単条、上部で屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は不明確か又は欠く、淡オリブ褐色、20~50 \times 4~5 μ 。分生胞子は針状、真直又は少し彎曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は不明確で多数、40~120 \times 2~4 μ 。

本菌はセンダン (*Melia azedarach* var. *japonica*) の葉に斑点病(新称)をおこす。福井(1916)、沢田(1931)らによつて褐斑病菌 *C. leucosticta* として報告された種類は本種ではなく、*C. subsessilis* に同定さるべきものである。

136. *Cercospora missouriensis* WINTERHedw. **24** : 258. 1885; CHUPP, l. c. 399. 1953.=*Cercospora pulvinulata* SACC. & WINT. (1885)

担子梗群は葉裏に叢生し、基部の子座は褐色、径 20~80 μ 。担子梗は単条又は分枝し、屈曲し、幅は不規則、胞子痕は不明確、隔膜は 1~2、淡煤色、5~25 \times 1.5~3 μ 。分生胞子は円柱形ないし細い倒棍棒形、真直又はやや彎曲し、基端は倒円錐形ないし倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は 3~5、25~70 \times 2~3.5 μ 。

本菌はマグワ (*Morus alba*)、シマグワ (*M. acidosa*) の葉に淡汚葉病をおこす。本菌は沢田(1919)によつて淡汚葉病菌 *C. pulvinulata* として報告され、その後出田(1926)、原(1930)その他一般の病害著書にはこの学名が採用されているが、CHUPP は上記の通りこれを本種の同種異名にしている。

137. *Cercospora miurae* SYDOWAnn. Mycol. **11** : 117. 1913; CHUPP, l. c. 75. 1953;
HARA, l. c. 54. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部に子座を欠くか又は数細胞からなる。担子梗は単条又は分枝し、彎曲し、多くは屈曲し、幅は不規則、胞子痕は小形、隔膜は多数、暗褐色、30~200 \times 4~6.5 μ 。分生胞子は円柱形、彎曲し、基端は倒円錐形ないし円形、先端は円頭、隔膜は 1~3、淡煤色、12~40 \times 5~9 μ 。

本菌はガガイモ (*Metaplexis japonica*)、イケマ (*Cynanchum caudatum*) の葉に角斑病をおこす。

138. *Cercospora miyakei* P. HENNINGSENGLER Bot. Jahrb. **37** : 166. 1906; CHUPP, l. c. 350. 1953; HARA, l. c. 54. 1954.

担子梗群は病斑の両面、通常裏面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径 25~40 μ 。担子梗は単条又は僅かに分枝し、真直又は波状に彎曲し、屈曲し、胞子痕は小形、幅は不規則、隔膜は多数、褐色、60~250 \times 3.5~5.5 μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形、真直又は少し彎曲し、基端は円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は 5~12、オリブ褐色、30~150 \times 4~7.5 μ 、よく鎖生する。

本菌はシホデ (*Smilax oldhami* var. *nipponica*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

139. *Cercospora mori* HARAJour. Sericult. Assoc. Japan **27** : 227. 1918;
CHUPP, l. c. 399. 1953; HARA, l. c. 54. 1954.
=*Cercospora mori* MARCH. & STEY. (1929)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座を欠くか又は少数の細胞からなる。担子梗は単条又は分枝し、真直、1~3屈曲し、幅は不規則、隔膜は多数、褐色、15~90×3~5 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱形、真直又は少しく彎曲し、基端は円形ないし倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は2~7、淡オリーブ色、20~70×3~5 μ 。

本菌はマグワ (*Morus alba*) の葉に煤斑病 (新称) をおこす。

140. *Cercospora naitoi* TOGASHI

Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 17: 101. 1942; CHUPP, 1. c. 54. 1953; HARA, 1. c. 55. 1954.

= *Cercospora mate* NAITO (non SPEG.) (1940)

担子梗群は病斑の両面、通常上面に叢生し、基部の子座は球形、径 15~30 μ 。担子梗は単条、真直又は波状に彎曲し、孢子痕は小形、隔膜は僅少、淡オリーブ色、5~30×2~5 μ 、稀れに 52 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、真直又は少しく彎曲し、基端はやや切頭状、先端はやや尖り、隔膜は0~5、やや無色ないし淡オリーブ色、30~80×2.5~5 μ 。

本菌はナナムノキ (*Ilex oldhami*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。本菌は内藤 (1940) によつて *C. mate* SPEG. として報告されたが、SPEGAZZINI の *C. mate* と形態が違ふので、富樫 (1942) によつて *C. naitoi* と改められた。

141. *Cercospora nandinae* NAGATOMO

Mater. Educat. Kyoto Pref. No. 3. 1932; CHUPP, 1. c. 80. 1953; HARA, 1. c. 55. 1954.

= *Cercospora nandinae* FUKUI (1933)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は欠く。担子梗は単条又は分枝し、波状に彎曲し、稀れに1屈曲し、孢子痕は小形、隔膜は1~3、淡オリーブ色、15~50×3~5 μ 。分生胞子は倒棍棒形、真直又は僅かに彎曲し、基端は倒円錐形、先端は鈍頭又はやや尖り、隔膜は不明確、淡オリーブ色、25~75×2~3.5 μ 。

本菌はナンテン (*Nandina domestica*) の葉に紅斑病をおこす。本菌は永友 (1932) と福井 (1933) によつてそれぞれ *C. nandinae* として報告され、先名権によつて上記の通り *C. nandinae* FUKUI が異名になる。

142. *Cercospora nanocnides* NAITO

Mem. Coll. Agr. Kyoto Imp. Univ. 47: 50. 1940; CHUPP, 1. c. 584. 1953; HARA, 1. c. 55. 1954.

担子梗は葉裏に叢生し、基部に子座を有し、単条、隔

膜は少数、淡オリーブ褐色、35~47×2.6~3 μ 。分生胞子は針状、真直又は彎曲し、隔膜は4~12、無色、59~100×2.6~3 μ 。

本菌はカテンソウ (*Nanocnide japonica*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

143. *Cercospora nasturtii* PASSERINI

Hedw. 16: 124. 1877; CHUPP, 1. c. 183. 1953;

HARA, 1. c. 55. 1954.

担子梗群は病斑の両面、通常上面に叢生し、基部の子座は欠くか又は少数の細胞からなる。担子梗は単条、屈曲し、孢子痕は大形、隔膜は少数、淡オリーブ褐色、20~100×4~6.5 μ 。分生胞子は針状ないし倒棍棒状円柱形、真直又は少しく彎曲し、基端は切断状、先端は鈍頭、隔膜は不明確で多数、無色、20~85×3~5 μ 、時に125 μ 。

本菌はミズガラシ (*Nasturtium officinale*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

144. *Cercospora nicotianae* ELLIS & EVERHART

Proc. Acad. Sci. Phila. 45: 170. 1893; CHUPP, 1. c. 545. 1953; HARA, 1. c. 55. 1954.

= *Cercosporina nicotianae* (ELL. & EV.)

HARA (1927)

= *Cercospora raciborskii* SACC. & SYD. (1902)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は欠くか又は数細胞からなる。担子梗は単条、波状に彎曲し、1~5屈曲し、孢子痕は大形、隔膜は1~10、稀れに20、褐色で上部は淡色、20~600×4~5.5 μ 。分生胞子は針状、真直又は種々に彎曲し、基端は切断状、先端はやや尖り、無色、35~245×3~5 μ 、稀れに300 μ 。

本菌はタバコ (*Nicotiana tabacum*) の葉に白星病をおこす。

145. *Cercospora nigricans* COOKE

Grev. 12: 30. 1883; CHUPP, 1. c. 321. 1953.

= *Cercospora atro-maculans* E. & E. (1887)

= *Cercospora torae* THARP (1917)

担子梗群は病斑の両面、通常裏面に叢生し、基部の子座は欠くか又は少数の細胞からなる。担子梗は単条又は分枝し、上部は波状に屈曲し、孢子痕は小形、隔膜は多数、オリーブ褐色、15~125×3.5~4 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし倒棍棒状円柱形、真直、基端は倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は1~5、やや無色ないし淡オリーブ色、30~80×3.5~5 μ 。

本菌はハブソウ (*Cassia occidentalis*) の葉に褐斑病 (新称) をおこす。香月 (1949) は本菌を *C. atro-maculans*

として報告されたが、CHUPP はこれを本種の同種異名にしている。

146. *Cercospora nojimai* TOGASHI & KATSUKI

Sci. Rept. Yokohama Nat. Univ. Sect. II. 1: 5.

1952; CHUPP, l. c. 78. 1953; HARA, l. c. 54. 1954.

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は少数の細胞からなるか又は欠く。担子梗は単条、隔膜は0~1、暗褐色、25~40×2.5~4 μ 。分生胞子は長倒棍棒形、真直又は彎曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は尖り、隔膜は3~9、オリーブ色、50~90×2.5~4 μ 。

本菌はツリフネソウ (*Impatiens textori*) の葉に斑点病をおこす。

147. *Cercospora nymphaeacea* COOKE & ELLIS

Grev. 6: 89. 1878; CHUPP, l. c. 411. 1953; HARA,

l. c. 55. 1954.

= *Cercospora exotica* ELL. & EV. (1893)

= *Cercospora nelumbonis* THARP (1917)

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は球形、暗色、径15~40 μ 、又は欠く。担子梗は単条、稀れに屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は不明確、淡オリーブ褐色、10~50×2.5~4 μ 。分生胞子は細い倒棍棒形ないし円柱形、真直又は種々に彎曲し、基端はやや切断状ないし倒円錐状切断形、先端は尖り、隔膜は不明確、無色ないし淡色、25~125×2~3.5 μ 。

本菌はカワホネ (*Nuphar japonica*) の葉に褐斑病(新称)をおこす。

148. *Cercospora obtogens* SYDOW

Ann. Mycol. 7: 171. 1909; CHUPP, l. c. 518. 1953;

HARA, l. c. 55. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に広く拡がって散生し、子座を欠く。担子梗は表面に平伏して蔓延し、彎曲して絡みあい、稀れに屈曲し、幅は不規則、隔膜は多数、隔膜部はくびれ、オリーブ褐色、40~300×4~6.5 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、真直又は波状に強く彎曲し、両端は円錐形、隔膜は5~11、オリーブ褐色、40~130×4~6.5 μ 。

本菌はアヂサイ (*Hydrangea macrophylla* var. *otaksa*) の葉に裏煤病(新称)をおこす。

149. *Cercospora oenotherae* ELLIS & EVERHART

Proc. Acad. Nat. Sci. Phila. 46: 380. 1894;

CHUPP, l. c. 423. 1953; HARA, l. c. 55. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は小形、褐色。担子梗は単条、波状に彎曲し、時に屈曲し、胞子

痕は中又は小形、隔膜は無く、淡オリーブ褐色、15~40×2~4.5 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、真直又は彎曲し、基端は倒円錐形ないし倒円錐状切断形、隔膜は不明確で多数、先端は鈍頭、淡オリーブ色、25~120×2~3.5 μ 。

本菌はツキミソウ (*Oenothera tetraptera*)、オオマツヨイグサ (*O. lamarckiana*) の葉に円星病をおこす。

150. *Cercospora omphacodes* ELLIS & HOLWAY

Jour. Mycol. 1: 5. 1885; CHUPP, l. c. 444. 1953;

HARA, l. c. 55. 1954.

= *Cercospora phlogina* PECK (1911)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、稀れに結束し、基部の子座は球形、暗色ないし黒色、径25~60 μ 、時に100 μ 。担子梗は単条、真直、上部で屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は少数、淡オリーブ褐色、10~100×3~4.5 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、真直又は少しく曲り、基端は倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は不明確で多数、やや無色ないし淡オリーブ色、15~90×2.5~9 μ 。

本菌はクサキヨウチクトウ (*Phlox paniculata*) の葉に根斑病(新称)をおこす。

151. *Cercospora oryzae* MIYAKE

Jour. Coll. Agric. Imp. Univ. Tokyo 2: 263. 1910;

CHUPP, l. c. 249. 1953; HARA, l. c. 55. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は小形、褐色、径15~20 μ 、時に欠く。担子梗は単条、真直又は屈曲し、胞子痕は中形、隔膜は多数、褐色、10~140×4~6 μ 。分生胞子は円柱形ないし円柱状倒棍棒形、真直又は少しく彎曲し、基端は倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は1~4、稀れに10、無色、15~60×3~5.5 μ 。

本菌はイネ (*Oryza sativa*) の葉と葉鞘に条葉枯病をおこす。本菌の子囊胞子世代は *Sphaerulina oryzina* HARA である。

152. *Cercospora pachyderma* SYDOW

Ann. Mycol. 12: 203. 1914; CHUPP, l. c. 197.

1953; HARA, l. c. 55. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に散生又は叢生し、基部の子座は欠くか稀れに生ずる。担子梗は表生菌糸から分枝して生じ、単条時に分枝し、稀れに屈曲し、幅は不規則、胞子痕は小形、隔膜は多数、隔膜部はくびれ、淡オリーブ褐色、75~600×3.5~6 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし倒棍棒状円柱形、真直又は少しく彎曲し、基端は円形ないし倒円錐形、先端は鈍頭、無色ないし淡オリーブ色、30~100×4.5~7 μ 。

本菌はヤマノイモ (*Dioscorea japonica*), オニドコロ (*D. tokoro*) の葉に裏煤病 (新称) をおこす。

153. *Cercospora pachypus* ELLIS & KELLERMAN
 Jour. Mycol. **3**: 104. 1887; CHUPP, 1. c. 151. 1953;
 HARA, 1. c. 55. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は欠くか又は少数の細胞からなる。担子梗は単条、彎曲し、稀れに1~2屈曲し、孢子痕は小形、隔膜を有し、10~45×5~7 μ 。分生胞子は円柱形ないし円柱状倒棍棒形、真直又は少しく彎曲し、基端は円形ないしやや切斷状、先端は鈍頭、隔膜は2~3、淡オリブ色、25~70×5~7 μ 。

本菌はヒマワリ (*Helianthus annuus*) の葉に斑点病をおこす。

154. *Cercospora paederiae* TAI

Bull. Chin. Bot. Soc. **2**: 56. 1936; CHUPP, 1. c. 500. 1953; HARA, 1. c. 55. 1954.
 = *Cercospora paederiae* SAW. (1944)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座はやや球形、暗褐色ないし黒色、径30~50 μ 。担子梗は単条、真直、隔膜は3~5、18~138×2~4 μ 。分生胞子は円柱形ないし倒棍棒形、真直又は少しく彎曲し、基端は倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は3~7、やや無色ないし淡オリブ褐色、30~80×4~5.5 μ 。

本菌はハクソカズラ (*Paederia chinensis*) の葉に角斑病をおこす。

155. *Cercospora pancratii* ELLIS & EVERHART

Jour. Myco. **3**: 15. 1887; CHUPP, 1. c. 37. 1953;
 HEMMI & KURATA, Fungi **1**: 83. 1931.
 = *Cercospora hymenocallidis* PAT. (1912)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は淡赤褐色ないし黒色、径125 μ に至る。担子梗は単条稀れに分枝し、屈曲し、隔膜は不明確、淡オリブ褐色、10~30×2.5~5 μ 。分生胞子は円柱形ないし細い倒棍棒形、真直又は少しく彎曲し、基端は倒円錐状切斷形、先端は鈍頭ないしやや尖り、隔膜は不明確で多数、淡オリブ色、20~125×2~4 μ 。

本菌はハマオモト (*Crinum asiaticum* var. *japonicum*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

156. *Cercospora papaveri* NAKATA

Jour. Agric. Exp. Sta. Gov. Korea **15**: 65. 1928;
 CHUPP, 1. c. 430. 1953; HARA, 1. c. 56. 1954.

担子梗は病斑の両面に叢生し、単条、上部で0~2屈曲し、隔膜は2~5、暗褐色で上部は淡色、60~92×5~9 μ 。分生胞子は倒棍棒形、真直又は少しく彎曲し、基端は倒円錐状切斷形、先端はやや尖り、隔膜は5~7、暗黄褐色、50~115×5~9 μ 。

本菌はケシ (*Papaver somniferum*) の葉に黒斑病をおこす。ケシには *Cercospora* の2種類が寄生し、他の種類は *C. papavericola* CHUPP = *C. papaveris* SAWADA である。後者は日本に未だ記録がない。

157. *Cercospora paulowniae* HORI

Jour. Plant Protect. **2**: 79. 1915; CHUPP, 1. c. 524. 1953; HARA, 1. c. 56. 1954.

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は小形。担子梗は単条、真直又は屈曲し、隔膜は1~5、暗褐色、30~90×3~5 μ 、稀れに120 μ 。分生胞子は倒棍棒形、多少彎曲し、隔膜は3~12、無色、50~120×3.5~6 μ 。

本菌はキリ (*Paulownia tomentosa*) の葉に斑点病をおこす。

158. *Cercospora pellioniae* TOGASHI & KATSUKI

Bot. Mag. Tokyo **65**: 22. 1952; CHUPP, 1. c. 584. 1953; HARA, 1. c. 56. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は小形ないし少数の細胞からなる。担子梗は単条、真直又は屈曲し、隔膜は3~5、幅は不規則、淡オリブ褐色、15~85×4~6 μ 、稀れに105 μ 。分生胞子は針状ないし円柱形、真直又は少しく彎曲し、基端は切斷状、先端は鈍頭ないしやや尖り、隔膜は4~10、無色、40~85×3~5 μ 。

本菌はキミズ (*Pellionia scabra*) の葉に円星病 (新称) をおこす。

159. *Cercospora penzigii* SACCARDO

Syll. Fung. **15**: 84. 1901; CHUPP, 1. c. 505. 1953.
 = *Cercospora fumosa* PENZ. (1882)
 = *Cercospora aurantia* HEALD & WOLF (1911)
 = *Cercospora daidai* HARA (1954)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座はやや球形、暗褐色、小形。担子梗は単条、真直又は波状に彎曲し、0~3屈曲し、幅は不規則、隔膜は多数、暗褐色、20~50×4~6.5 μ 、裏面のものは40~225 μ 。分生胞子は針状ないし倒棍棒形、真直又は彎曲し、基端はやや切斷状、先端は鈍頭ないしやや尖り、隔膜は不明確で多数、無色、25~135×3~5 μ 。

本菌はダイダイ (*Citrus aurantium* f. *kobusu*) の葉

に暗紋病をおこす。ダイダイの暗紋病菌は原 (1930) によつて *Cercospora* sp. 後に *C. daidai* と命名された。この菌は形態から判断すると *C. penzigii* に基だ良く類似し、これの同種異名のように思われる。なお CHUPP は *C. fumosa*, *C. aurantia* を本種の同種異名にしている。黄斑病菌 *Mycosphaerella horii* HARA の分生孢子世代は *Cercospora* 属であるが、本菌はこれとは別種である。

160. *Cercospora perillae* NAKATA

Jour. Agric. Exp. Sta. Gov. Korea 15 : 72. 1928; HARA, 1. c. 57. 1954.

= *Cercospora perillae* SAWADA (1958)

担子梗は病斑の両面に叢生し、単条又は分枝し、単条、真直、褐色ないし黄褐色、 $112\sim 170\times 4.8\sim 5\mu$ 。分生孢子は円柱形、先端は円頭、隔膜は 9~13、無色、 $122\sim 192\times 2.5\sim 4\mu$ 。

本菌はエゴマ (*Perilla frutescens* var. *typica*) の葉に斑点病又は円星病をおこす。中田・滝元 (1928) によつて記載された *C. perillae* の記載は基だ簡単であつて、沢田 (1958) の *C. perillae* と異同が十分に確定できない。しかし寄主植物が同じであつて、分生孢子が無色である点から同一種と考えられる。上記の形態は沢田 (1958) の記載によつた。

161. *Cercospora perillulae* TOGASHI & KATSUKI

Bot. Mag. Tokyo 65:24. 1952; CHUPP, 1. c. 270. 1953; HARA, 1. c. 56. 1954.

担子梗は葉裏の子座上に叢生し、単条、真直又は多少弯曲し、隔膜はないか又は少数、淡オリーブ褐色、上部に向つて淡色、 $20\sim 68\times 2.5\sim 4\mu$ 。分生孢子は円柱形ないし倒棍棒形、真直又は少く弯曲し、基端は倒円錐状切断形、隔膜は 5~8、淡オリーブ褐色、 $65\sim 95\times 2.5\sim 3\mu$ 。

本菌はスズコウジュ (*Perillula reptans*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

162. *Cercospora persicariae* YAMAMOTO

Jour. Soc. Trop. Agric. 6 : 605. 1934; CHUPP, 1. c. 450. 1953; HARA, 1. c. 56. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に単生又は散生し、時には2~8叢生し、基部に子座を欠く。担子梗は単条稀れに上部で短く分枝し、種々に弯曲し、幅は不規則、隔膜は3~5、淡褐色、 $32\sim 150\times 3.6\sim 5\mu$ 。分生孢子は円柱状倒棍棒形ないし円柱形、真直又は少く弯曲し、基端は倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は 1~8、 $20\sim 100\times 3\sim 5\mu$ 。

本菌はヤナギタデ (*Polygonum hydropiper*) の葉に裏煤病をおこす。

163. *Cercospora personata* (B. & C.) ELLIS &

EVERHART

Jour. Mycol. 1 : 63. 1885; CHUPP, 1. c. 323. 1953; HARA, 1. c. 56. 1954.

= *Cladosporium personata* B. & C. (1875)

= *Septogloeum arachidis* RAC. (1898)

= *Cercospora arachidis* HENN. (1902)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、褐色ないし黒色、径 $20\sim 30\mu$ 、稀れに $70\sim 200\mu$ 。担子梗は単条、真直、上部で屈曲し、隔膜は 0~2、オリーブ褐色、 $10\sim 70\times 3\sim 5\mu$ 。分生孢子は倒棍棒形ないし円柱形、真直又は少く弯曲し、基端は円形ないし倒円錐状切断形、先端は円頭、隔膜は 1~8、暗オリーブ色、 $20\sim 70\times 5\sim 7.5\mu$ 。

本菌はナンキンマメ (*Arachis hypogaea*) の葉、葉柄、托葉、莖に寄生し、黒渋病又は黒斑病をおこす。本菌の子囊孢子世代は *Mycosphaerella berkeleyii* JENKINS である。

164. *Cercospora petuniae* (SAITO) MULLER &

CHUPP

Arch. Inst. Biol. Veg. Rio de Janeiro 3 : 96, 1936; CHUPP, 1. c. 546. 1953; HARA, 1. c. 56. 1954.

= *Cercosporina petuniae* SAITO (1931)

担子梗群は病斑の両面、主として上面に叢生し、基部の子座は欠くか又は数細胞からなる。担子梗は単条稀れに分枝し、真直又は波状に弯曲し、0~2屈曲し、隔膜は多数、オリーブ褐色、 $40\sim 300\times 4\sim 6.5\mu$ 。分生孢子は針状、真直又は弯曲し、基端は切断状、先端はやや尖り、隔膜は多数、無色、 $40\sim 200\times 3\sim 4.5\mu$ 。

本菌はベチユニア (*Petunia violacea*) の葉に斑点病をおこす。

165. *Cercospora physalidis* ELLIS

Amer. Nat. 16 : 810. 1882; CHUPP, 1. c. 547. 1953.

= *Cercospora physalicola* ELL. & BARTH. (1896)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は欠くか又は小形。担子梗は単条、真直又は僅かに弯曲し、稀れに 1~2 屈曲し、胞子痕は大形、隔膜は少数、淡オリーブ褐色、 $20\sim 250\times 4\sim 6.5\mu$ 。分生孢子は針状ないし円柱形、真直又は種々に弯曲し、基端は切断状、先端は

やや鈍頭，隔膜は多数，無色， $25\sim 220\times 3\sim 5\mu$ 。

本菌はホウズキ (*Physalis francheti* var. *bunyardii*) の葉に円星病 (新称) をおこす。本菌は香月 (1949) によつて *C. physalicola* として報告されたが，CHUPP はこれを本種の同種異名にしている。

166. Cercospora picrasmae TOGASHI & KATSUKI
Bot. Mag. Tokyo **65**: 24. 1952; CHUPP, l. c. 528. 1953; HARA, l. c. 56. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し，基部の子座は球形，褐色，径 $15\sim 50\mu$ 。担子梗は単条，単胞，淡オリーブ褐色， $15\sim 43\times 3.4\sim 5\mu$ 。分生胞子は倒棍棒形，真直又はやや曲り，基端は倒円錐状切断形，先端はやや鈍頭，隔膜は $3\sim 7$ ，淡オリーブ色， $25\sim 85\times 4\sim 5.5\mu$ 。

本菌はニガキ (*Picrasma ailanthoides*) の葉に角斑病をおこす。

167. Cercospora pini-densiflorae HORI & NAMBU
Jour. Plant Protect. **4**: 354. 1917; CHUPP, l. c. 440. 1953; HARA, l. c. 56. 1954.

担子梗群は病斑上に叢生し，基部の子座は暗褐色，径 60μ 。担子梗は単条，真直又は僅かに屈曲し，隔膜は $0\sim 1$ ，暗褐色， $10\sim 45\times 2.5\sim 5\mu$ 。分生胞子は倒棍棒形ないし倒棍棒状円柱形，真直又は少しく弯曲し，基端は円形ないし倒円錐状切断形，先端は鈍頭，隔膜は $3\sim 7$ ，淡黄オリーブ色， $20\sim 60\times 3\sim 6\mu$ 。

本菌はアカマツ (*Pinus densiflora*)，クロマツ (*P. thunbergii*)，リウキユマツ (*P. luchuensis*) の葉に葉枯病をおこす。

168. Cercospora piricola SAWADA
Spec. Bull. Agric. Exp. Sta. Gov. Formosa **19**: 677. 1919; CHUPP, l. c. 483. 1953; HARA, l. c. 56. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生又は表生菌糸に単生し，基部の子座は欠くか又は菌糸が疎に絡み合つて生ずる。担子梗は単条稀れに分枝し，種々に弯曲して絡み合い，隔膜は $0\sim 2$ ，淡オリーブ褐色， $10\sim 60\times 2\sim 3.5\mu$ 。分生胞子は細い倒棍棒形ないし円柱形，真直又は強く弯曲し，基端は鈍円形又は倒円錐形，先端は鈍頭，隔膜は $3\sim 5$ ，淡オリーブ褐色， $15\sim 75\times 2\sim 3.5\mu$ 。

本菌はナシ (*Pyrus serotina* var. *culta*) の葉に裏煤病をおこす。

169. Cercospora pittospori PLAKIDAS

Mycol. **32**: 601. 1940; CHUPP, l. c. 442. 1943; HARA, l. c. 56. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し，子座は気孔内に生ずる。担子梗は単条稀れに分枝し，真直又は弯曲し，稀れに屈曲し，幅は不規則，胞子痕は不明確，隔膜は明確，オリーブ褐色， $25\sim 100\times 3\sim 4\mu$ 。分生胞子は円柱形，波状に強く弯曲し，基端は倒円錐形ないし倒円錐状切断形，先端は鈍頭，隔膜は不明確，淡オリーブ色， $35\sim 100\times 2\sim 3.5\mu$ 。

本菌はトベラ (*Pittosporum tobira*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

170. Cercospora plantaginis SACCARDO

Mich. **1**: 267. 1879; CHUPP, l. c. 443. 1953; SAWADA, Bull. Gov. For. Exp. Sta. Tokyo **105**: 110. 1958.

= *Cercospora plantaginella* TEHON (1924)

担子梗は病斑の両面，主として上面に叢生し，子座は球形，黒色，径 40μ ，時に欠く。担子梗は単条時に少しく分枝し，真直又は弯曲し， $0\sim 4$ 屈曲し，胞子痕は中形，隔膜は多数，暗褐色，上部は淡色， $20\sim 300\times 3.5\sim 5.5\mu$ 。分生胞子は針状，真直又は弯曲し，基端は切断状，先端は尖り，隔膜は不明確で多数，無色， $40\sim 200\times 2\sim 4\mu$ 。

本菌はオオバコ (*Plantago major* var. *asiatica*) の葉に円星病をおこす。

171. Cercospora platanicola ELLIS & EVERHART

Jour. Mycol. **3**: 17. 1887; CHUPP, l. c. 443. 1953.
= *Cercospora platanifolia* ELL. & EV. (1887)
= *Stigmia platanii* (FUCK.) SACC.

担子梗群は病斑の両面に叢生し，基部の子座は小形，気孔内に生ずる。担子梗は単条， $1\sim 3$ 屈曲し，胞子痕は小形，通常単胞，淡オリーブ褐色， $5\sim 20\times 2\sim 3.5\mu$ 。分生胞子は細い倒棍棒形ないし円柱形，弯曲し，基端は円形ないし倒円錐状切断形，先端はやや鈍頭，隔膜は通常 $3\sim 5$ ，やや無色ないし淡オリーブ色， $30\sim 100\times 3\sim 6\mu$ 。

本菌はスズカケノキ (*Platanus orientalis*)，アメリカスズカケノキ (*P. occidentalis*)，モミヂバスズカケノキ (*P. acerifolia*) の葉に褐斑病をおこす。本菌は伊藤・保坂 (1950) によつて *C. platanifolia* として報告されたが，伊藤博士の同意によつて，これを本種の異名にした。伊藤・寺下・保坂 (1959) は本菌を培養し，

Cercospora 型の外に *Stigmina* 型の分生胞子を認め、これを *Stigmina platani* (FUCK.) SACC. と同定し、本種の同種異名にした。

172. *Cercospora polliae* SAWADA

Rept. Agric. Exp. Sta. Gov. Formosa 87: 86. 1944; CHUPP, l. c. 117. 1953; HARA, l. c. 56. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、単条、隔膜は 0~3、褐色、21~55×4.5~5 μ 。分生胞子は針状、真直又は少しく弯曲し、基端は切断状、先端は円頭、隔膜は5~13、無色ないし淡色、60~125×3~4.5 μ 。

本菌はヤブメヨウガ (*Pollia japonica*) の葉に葉枯病をおこす。

173. *Cercospora polygonacae* ELLIS

Jour. Mycol. 1: 24. 1885; CHUPP, l. c. 450. 1953; HARA, l. c. 56. 1954.
=*Cercospora avicularis* WINT. var. *sagittati* ATK. (1892)

担子梗群は病斑の両面、主として上面に叢生し、基部の子座は僅かに生ずる。担子梗は単条稀れに分枝し、真直又は波状に弯曲し、屈曲し、幅は均一、胞子痕は大形、隔膜は多数、淡オリーブ褐色、40~170×4~5.5 μ 。分生胞子は針状、真直又は少しく弯曲し、基端は切断状、先端はやや尖り、隔膜は不明確で多数、無色、50~110×2~4.5 μ 、稀れに 300 μ 。

本菌はミゾソバ (*Polygonum thunbergii*) の葉に円星病 (新称) をおこす。

174. *Cercospora populina* ELLIS & EVERHART

Jour. Mycol. 3: 20. 1887; CHUPP, l. c. 507. 1953; HARA, l. c. 57. 1954.
=*Cercospora sessilis* ELL. & EV. (1902)

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は球形、径 15~45 μ 。担子梗は単条、真直又は種々に弯曲し、胞子痕は不明確、隔膜は無く、淡オリーブ褐色、5~30×2~3.5 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし倒棍棒状円柱形、通常弯曲し、基端は倒円錐形ないし円形、先端はやや尖り、隔膜は不明確、淡オリーブ色、15~60×2~3 μ 。

本菌はドロノキ (*Populus maximowiczii*)、ギンドロ (*P. alba*)、アメリカヤマナラシ (*P. nigra*)、モニリヘラヤマナラシ (*P. monilifera*)、シモニドロ (*P. simonii*) などポプラ類の葉に褐斑病をおこす。伊藤・小

林 (1953) によれば本菌の子囊胞子世代は *Mycosphaerella togashiana* ITO & KOBAYASHI である。

175. *Cercospora premnae* CASTELLANI

Nouv. Giorn. Bot. Ital. 54: 781. 1947; CHUPP, l. c. 593. 1953; KATSUKI, Jour. Jap. Bot. 28: 287. 1953.

担子梗群は病斑の裏面に叢生、稀れに単生し、基部の子座は小形又は欠く。担子梗は単条、真直又は波状に弯曲し、屈曲し、隔膜は少数、淡オリーブ褐色、20~80×4~5 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱状倒棍棒形、真直又は少しく弯曲し、基端は円形ないし倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は 3~10、淡オリーブ色、20~70×4~6 μ 。

本菌はハマクサギ (*Premna japonica*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

176. *Cercospora profusa* SYDOW

Ann. Mycol. 7: 175. 1909; CHUPP, l. c. 228. 1953; HARA, l. c. 57. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生又は単生し、基部の子座は少数細胞からなるか又は欠く。担子梗は単条稀れに分枝し、弯曲し、稀れに屈曲し、幅は不規則、隔膜は多数、暗褐色、20~150×4~6 μ 。分生胞子は円柱形、少しく弯曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は多数、暗オリーブ褐色、40~100×3~6 μ 。

本菌はエノキグサ (*Acalypha australis*) の葉に裏煤病をおこす。

177. *Cercospora prunicola* ELLIS & EVEHART

Jour. Mycol. 3: 17. 1887; CHUPP, l. c. 484. 1953; HARA, l. c. 57. 1954.
=*Cercosporina prunicola* (ELL. & EV.) HARA (1927)
=*Cercospora pruni-yedoensis* SAW. (1943)

担子梗群は病斑の両面、主として上面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径 15~50 μ 、稀れに 75 μ 。担子梗は単条、真直、胞子痕は小形、隔膜はないか又は少数、淡オリーブ褐色、5~15×3~4 μ 。分生胞子は円柱形ないし円柱状倒棍棒形、真直又は少しく弯曲し、基端は通常切断状、先端は鈍頭、隔膜は 3~7、やや無色ないし淡オリーブ褐色、15~65×1.5~3 μ 。

本菌はソメイヨシノ (*Prunus yedoensis*)、ヤマザクラ (*P. donarium* var. *spontanea*) の葉に穿孔性褐斑病又は斑点病をおこす。

178. Cercospora pteridis SIEMASZUKO

Arct. Nauk. Biol. Towarz. Nauk. Warszaw. 1 (14) : 57. 1923; CHUPP, 1. c. 457. 1953; SAWADA, Bull. Gov. For. Exp. Sta. Tokyo 105: 111. 1958.
= *Cercospora pteridicola* FRAG. (1927)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は暗褐色、気孔内に生ずる。担子梗は単条稀れに分枝し、真直又は波状に弯曲し、稀れに屈曲し、隔膜は3~7 μ 、暗褐色で上部は淡色、30~80 \times 3~5 μ 。分生胞子は倒棍棒形、基端は倒円錐状切断形、先端はやや尖り、隔膜は不明確で多数、無色ないし淡オリーブ色、40~210 \times 2~4 μ 。

本菌はワラビ (*Pteridium aquilinum* var. *janonicum*) の葉に葉斑病をおこす。

179. Cercospora pueraricola YAMAMOTO

Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 13: 142. 1934; CHUPP, 1. c. 327. 1953; HARA, 1. c. 57. 1954.

担子梗群は病斑の主として上面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径20~40 μ 。担子梗は単条、真直又は弯曲し、胞子痕は小形、隔膜は無いか稀れにあり、淡オリーブ褐色、20~70 \times 3~4.5 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、真直又は少しく弯曲し、基端は倒円錐形、先端はやや尖り、隔膜は多数、やや無色ないし淡オリーブ色、20~85 \times 3~6 μ 、稀れに135 μ 。

本菌はクズ (*Pueraria lobata*) の葉に褐斑病をおこす。本菌の子嚢胞子世代は *Mycosphaerella pueraricola* (YAM.) WEIMER & LUTTRELL (1948) である。

180. Cercospora pulcherrimae THARP

Mycol. 9: 114. 1917; CHUPP, 1. c. 228. 1953.
= *Cercospora pulcherrimae minima* THARP (1917)
= *Cercosporina euphorbiae* FUKUI (1951)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は小形、径15~40 μ 、又は欠く。担子梗は単条、稀れに分枝し、真直又は波状に弯曲し、0~3屈曲し、胞子痕は中形、隔膜は多数、オリーブ褐色、20~150 \times 4~6 μ 。分生胞子は針状、真直又は弯曲し、基端は切断状、先端は尖り、無色、60~125 \times 2.5~5 μ 、稀れに270 μ 。

本菌はシラユキソウ (*Euphorbia marginata*) の葉に円星病をおこす。福井 (1951) はシラユキソウの菌を *C. euphorbiae* と命名されたが、この菌は形態から判断すると本種の同種異名のように思われる。

181. Cercospora punicae P. HENNINGS

ENGLER, Bot. Jahrb. 37: 165. 1906; CHUPP, 1. c. 460. 1953; HARA, 1. c. 57. 1954.
= *Cercosporina punicae* (HENN.) HARA (1927)

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径10~60 μ 。担子梗は単条稀れに分枝し、真直又は少しく弯曲し、胞子痕は小形、隔膜は僅少、無色ないしオリーブ褐色、10~55 \times 2~3.5 μ 。分生胞子は円柱形ないし円柱状倒棍棒形、真直又は種々に弯曲し、基端は倒円錐形ないし倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は2~8、無色ないし淡オリーブ色、25~85 \times 2.5~5 μ 、稀れに鎖生する。

本菌はザクロ (*Punica granatum*) の葉に斑点病をおこす。

182. Cercospora pyracanthae KATSUKI

Bull. Agric. Impr. Sect. Econ. Dept. Fukuoka Pref. 1: 19. 1949; CHUPP, 1. c. 484. 1953; HARA, 1. c. 58. 1954.

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は準球形、オリーブ褐色、径20~70 μ 。担子梗は単条、真直、隔膜は無いか稀れにあり、淡オリーブ褐色、15~40 \times 2.5~3 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、真直又は少しく弯曲し、基端は円形ないし倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は2~5、無色ないしオリーブ色、25~65 \times 2.5~4 μ 。

本菌はタチバナモドキ (*Pyreantha angustifolia*) の葉に褐斑病をおこす。

183. Cercospora rhoina COOKE & ELLIS

Grev. 6: 89. 1878; CHUPP, 1. c. 42. 1953; HARA, 1. c. 58. 1954.
= *Cercospora rhoina* CKE. & ELL. var. *nigrimaculans* PECK (1889)
= *Cercospora copallina* CKE. (1883)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、黒色、径20~120 μ 、稀れに欠く。担子梗は単条稀れに分枝し、波状に弯曲し、時に屈曲し、隔膜は少数、オリーブ褐色で上部は淡色、5~40 \times 2.5~5 μ 。分生胞子は円柱状倒棍棒形、真直又は少しく弯曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は3~7、やや無色ないし淡オリーブ色、20~80 \times 3~3.5 μ 。

本菌はヌルデ (*Rhus chinensis*)、ウルシ (*R. verniciflua*) の葉に褐斑病をおこす。

184. *Cercospora riachuelli* SPEGAZZINI
Ann. Soc. Cient. Argentina **10**: 38. 1880; CHUPP,
1. c. 604. 1953.
=*Cercospora horiana* TOG. & KATS. (1952)

担子梗群は病斑の主として裏面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径 20~50 μ 。担子梗は単条又は分枝し、真直又は僅かに彎曲し、屈曲し、孢子痕は不明確、隔膜はあり、淡褐色ない暗褐色、5~35 \times 3~4.5 μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形稀れに倒棍棒形、真直又は少しく彎曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は1~7、淡オリーブ色、20~125 \times 2.5~5 μ 。

本菌はツタ (*Parthenocissus tricuspidata*) の葉に褐斑病 (新称) をおこす。本菌は富樫・香月 (1952) によつて *C. horiana* として報告されたが、CHUPP はこれを本種の同種異名にしている。

185. *Cercospora ricinella* SACCARDO & BERLESE
Atti R. Ist. Ven. Sci. Lett. Arti. VI. **3**: 721. 1885;
CHUPP, 1. c. 229. 1953; HARA, 1. c. 58. 1954.
=*Cercosporina ricinella* (SACC. & BERL.)
SPEG. (1910)
=*Cercospora albido-maculans* WINT. (1885)
=*Cercospora ricini* SPEG. (1899)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は径 50 μ 、又は数細胞からなる。担子梗は単条、真直、1~2屈曲し、幅は均一、孢子痕は中形、隔膜は1~4、淡褐色、10~90 \times 4~5.5 μ 。分生胞子は針状ないし倒棍棒形、稀れに円柱形、真直又は少しく彎曲し、基端は切断状、先端は鈍頭ないし尖り、隔膜は3~9、無色、15~120 \times 2.5~4.5 μ 。

本菌はヒマ (*Ricinus communis*) の葉に斑点病をおこす。

186. *Cercospora rosicola* PASSERINI
JUST'S Bot. Jahresb. **3**: 276. 1877; CHUPP, 1. c. 486. 1953; HARA, 1. c. 58. 1954.
=*Cercospora rosigena* THARP (1917)
=*Cercospora rosaecola* PASS. var. *undosa*
DAY. (1926)
=*Cercospora rosae* v. HOOK (1929)
=*Cercospora rosae-indianensis* v. HOOK (1930)

担子梗群は病斑の主として上面に叢生し、基部の子座は欠くか又は少数の細胞からなる。担子梗は単条稀れに分枝し、真直又は波状に彎曲し、屈曲し、孢子痕は中形、

隔膜は多数、暗オリーブ褐色、20~110 \times 3~4.5 μ 。分生胞子は倒棍棒形、真直又は少しく彎曲し、基端は倒円錐形ないし倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は通常1~4、淡オリーブ色、20~60 \times 3~5 μ 。

本菌はバラ (*Rosa hybrida*) の葉に斑点病をおこす。本菌の子嚢胞子世代は *Mycosphaerella rosicola* (PASS.) DAVIS (1938) である。

187. *Cercospora rubi* SACCARDO
Nuov. Giorn. Bot. Ital. **8**: 188. 1876; CHUPP, 1. c. 487. 1953; HARA, 1. c. 58. 1954.
=*Cercospora septorioides* ELL. & EV. (1896)
=*Cercospora garbiniana* MASS. (1902)

担子梗群は病斑の通常上面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径 20~60 μ 。担子梗は単条稀れに分枝し、波状に彎曲し、屈曲し、孢子痕は小形、隔膜は稀れにあり、淡オリーブ色ないし煤色、10~40 \times 2.5~4 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし倒棍棒状円柱形、真直又は彎曲し、基端は倒円錐形ないしやや切断状、先端は尖り、隔膜は不明確、やや無色ないし淡オリーブ色、25~75 \times 2~4 μ 、稀れに125 μ 。

本菌はビロウドイテゴ (*Rubus corchorifolius*) の葉に斑点病をおこす。

188. *Cercospora rubicola* de THUEMEN
Hedw. **21**: 14. 1882; CHUPP, 1. c. 487. 1953;
SHIRAI & HARA, List Jap. Fung. **72**. 1927.
=*Cercospora bliti* THARP (1917)

担子梗群は病斑の主として上面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径 15~40 μ 。担子梗は単条、真直又は彎曲し、幅は均一、孢子痕は不明確、隔膜は僅少、淡オリーブ褐色、10~35 \times 2.5~4 μ 。分生胞子は円柱形ないし倒棍棒状円柱形、真直又は強く彎曲し、両端は円形ないし鈍頭し、隔膜はあり、暗オリーブ色、35~65 \times 3~6 μ 。

本菌はモミダイテゴ (*Rubus palmatus* var. *coptophyllus*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

189. *Cercospora sagittariae* ELLIS & KELLERMAN
Jour. Mycol. **2**:1. 1886; CHUPP, 1. c. 29. 1953;
HARA, 1. c. 58. 1954.
=*Cercosporina sagittariae* (ELL. & KELL.)
HARA (1930)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は欠くか又は数細胞からなる。担子梗は単条、真直、1~2屈曲

し、孢子痕は中形、隔膜は少数、淡オリーブ褐色、 $20\sim 60\times 4:5\sim 7\mu$ 、稀れに 100μ 。分生胞子は針状、真直又は少しく彎曲し、基端は切断状ないし倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は多数、 $25\sim 150\times 3\sim 5\mu$ 。

本菌はクワイ (*Sagittaria trifolia* var. *edulis*) の葉と葉柄に斑紋病をおこす。

190. *Cercospora salicina* ELLIS & EVERHART

Jour. Mycol. 3: 19. 1887; CHUPP, 1. c. 508. 1953; HARA, 1. c. 58. 1954.

= *Cercospora babylonicae* SAW. (1944)

= *Cercospora salicicola* SAW. (1944)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径 $15\sim 30\mu$ 。担子梗は単条又は分枝し、真直又は波状に彎曲し、屈曲し、孢子痕は不明確、隔膜は $0\sim 4$ 、無色ないし淡褐色、 $5\sim 20\times 1.5\sim 4\mu$ 。分生胞子は倒棍棒形ないし倒棍棒状円柱形、真直又は少しく彎曲し、基端は円形ないし倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は $1\sim 5$ 、淡オリーブ色、 $15\sim 60\times 2\sim 3\mu$ 。

本菌はシダレヤナギ (*Salix babylonica*) の葉に角斑病をおこす。本菌について山本 (1934) は *C. salicina* として報告したが、その後沢田 (1944) によつて *C. babylonicae* と命名され、また *Salix glandulosa* var. *warburgii* の角斑病菌を *C. salicicola* と命名されたが、これら 2 新種は CHUPP によつて同種異名にされている。

191. *Cercospora salviicola* CHUPP

Mycol. 9: 115. 1917; CHUPP, 1. c. 271. 1953.

= *Cercosporina salviae* FUKUI (1951)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は暗色の数細胞からなる。担子梗は単条、真直又は彎曲し、 $1\sim 5$ 屈曲し、孢子痕は中形、隔膜は多数、オリーブ褐色、 $30\sim 80\times 4.5\sim 5\mu$ 、長いものは 120μ 。分生胞子は針状、多少彎曲し、基端は切断状、先端はやや尖り、隔膜は不明確で多数、無色、 $40\sim 200\times 2.5\sim 4\mu$ 。

本菌はサルビア (*Salvia officinalis*) の葉に黒斑病をおこす。福井 (1951) は本菌を *C. salviae* として報告されたが、菌の形態から判断すると本種の同種異名のように思われる。

192. *Cercospora sanguinariae* PECK

Ann. Rept. N. Y. State Mus. Nat. Hist. 33: 29. 1880; CHUPP, 1. c. 431. 1953; HARA, 1. c. 58. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、稀れに単生し、基部の子座は欠くか又は僅かに生ずる。担子梗は単条、真直

又は波状に彎曲し、屈曲し、孢子痕は中形、隔膜は多数、暗褐色、 $20\sim 150\times 4\sim 5.5\mu$ 。分生胞子は円柱形ないし倒棍棒状円柱形、真直、基端はやや切断状、先端は鈍頭、隔膜は $4\sim 8$ 、無色ないし淡色、 $20\sim 75\times 3.5\sim 6\mu$ 。

本菌はワレモコウ (*Sanguisorba officinalis*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

193. *Cercospora saururi* ELLIS & EVERHART

Jour. Mycol. 3: 14. 1887; CHUPP, 1. c. 514. 1953; HARA, 1. c. 58. 1954.

= *Cercospora saururicola* SAW. (1944)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は気孔内に僅かに生ずる。担子梗は単条、稀れに屈曲し、孢子痕は小形、隔膜は少数、淡オリーブ褐色、 $5\sim 60\times 3\sim 5\mu$ 。分生胞子は円柱形、真直又は少しく彎曲し、基端は切断状、先端はやや尖り、隔膜は多数、無色ないし淡オリーブ色、 $30\sim 125\times 2.5\sim 4\mu$ 。

本菌はハンゲシヨウ (*Saururus loureiri*) の葉に葉枯病をおこす。

194. *Cercospora sawadae* YAMAMOTO

Jour. Trop. Agric. 6: 607. 1934; CHUPP, 1. c. 408. 1953; HARA, 1. c. 58. 1954.

= *Cercospora psidii* SAW. (non RANG.) (1922)

担子梗群は病斑の裏面で表生菌糸から分枝して単生し、子座を欠く。担子梗は単条又は分枝し、真直又は彎曲し、隔膜は $3\sim 20$ 、やや無色ないし淡オリーブ色、 $10\sim 50\times 2\sim 4\mu$ 、稀れに 130μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形、基端は円形ないし倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は $1\sim 10$ 、無色ないし淡オリーブ色、 $26\sim 94\times 3\sim 4.3\mu$ 。

本菌はバンジロウ (*Psidium guajava*) の葉に斑葉病をおこす。本菌は沢田 (1922) によつて *C. psidii* と命名され、この学名は RANGEL (1915) によつて命名されたものと重複するので、山本 (1934) は *C. sawadae* と改めた。

195. *Cercospora securinegae* TOGASHI &

KATSUKI

Ann. Phytopath. Soc. Japan 17: 7. 1952; CHUPP, 1. c. 231. 1953; HARA, 1. c. 58. 1954.

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座はやや球形、灰褐色、径 $35\sim 50\mu$ 。担子梗は単条、真直又は屈曲し、隔膜は無く、淡褐色、 $27\sim 37\times 3.5\sim 4\mu$ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱形、真直又は彎曲し、基端は切断状、先端はやや尖り、隔膜は $2\sim 7$ 、無色、 $25\sim 125\times 3\sim 4\mu$ 。

本菌はヒトツバハギ (*Securinea fluggeoides*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

196. *Cercospora selini-gmelini* CHUPP

CHUPP, 1. c. 579. 1953; HARA, 1. c. 58. 1954.

= *Cercospora apii selini-gmelini* SACC. & SCAL. (1904)

担子梗群は病斑の主として裏面に叢生し、基部の子座はやや球形、褐色、径 15~40 μ 。担子梗は単条稀れに短く分枝し、波状に弯曲し、屈曲し、幅は不規則、隔膜は 0~5、淡褐色、10~100 \times 4~6 μ 。分生胞子は円柱形ないし倒棍棒状円柱形、基端は倒円錐状切断形、先端は尖り、隔膜は 1~5、無色、15~80 \times 4~6 μ 。

本菌はセリ (*Oenanthe stronifera*) の葉に円星病 (新称) をおこす。

197. *Cercospora sesami* ZIMMERMANN

Ber. Land.-Forest. Deut.-Ostaftr. 2: 28. 1904;

CHUPP, 1. c. 436. 1953; HARA, 1. c. 58. 1954.

= *Cercosporina sesami* (ZIMM.) HARA (1927)

担子梗群は病斑の両面に通常叢生し、基部の子座は欠くか又は僅かに生ずる。担子梗は単条稀れに分枝し、真直又は弯曲し、1~4 屈曲し、胞子痕は中形、隔膜は多数、オリーブ褐色、20~110 \times 4~5.5 μ 。分生胞子は針状、真直又は少し弯曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は 3~10、無色、30~150 \times 2~4.5 μ 。

本菌はゴマ (*Sesamum indicum*) の葉に斑点病をおこす。

198. *Cercospora setariae* ATKINSON

Jour. Elisha Mitchell Sci. Soc. 8: 50. 1892;

CHUPP, 1. c. 253; HARA, 1. c. 59. 1954.

= *Cercosporina setariae* (ATK.) HORI (1917)

= *Cercospora setariicola* TEH. & DAN. (1917)

= *Cercospora paspali* RAY (1944)

担子梗群は病斑の主として裏面に叢生し、基部の子座は褐色、気孔内に生ずる。担子梗は単条、真直又は弯曲し、時に 1~2 屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は 0~4、オリーブ褐色、10~45 \times 3~5 μ 。分生胞子は針状、円柱形ないし倒棍棒形、真直稀れに波状に弯曲し、基端はやや切断状ないし倒円錐状切断形、先端は鈍頭ないしやや尖り、隔膜は 1~13、無色、20~150 \times 2~4 μ 。

本菌はアワ (*Setaria italica*) の葉に葉枯病をおこす。

199. *Cercospora siegesbeckiae* KATSUKI

Bull. Agric. Impr. Sect. Econ. Dept. Fukuoka Pref. 1: 22. 1949; CHUPP, 1. c. 158. 1953; HARA, 1. c. 59. 1954.

担子梗は病斑の裏面に叢生し、単条、真直又は 0~3 屈曲し、隔膜は 3~4、オリーブ褐色、91~140 \times 4~5 μ 。分生胞子は針状、真直又は少しく弯曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は 5~11、無色、50~300 \times 3~4 μ 。

本菌はメナモミ (*Siegesbeckia pubescens*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

200. *Cercospora sojina* HARA

Nogyo Sekai Tokyo 9: 28. 1915; CHUPP, 1. c. 332. 1953. HARA, 1. c. 59. 1954.

= *Cercosporina sojina* HARA (1930)

= *Cercospora daizu* MIURA (1920)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は褐色、小形又は欠く。担子梗は単条、真直又は弯曲し、1~2 屈曲し、胞子痕は中形、隔膜は少数、淡褐色、40~200 \times 4~6.5 μ 。分生胞子は円柱状ないし円柱状倒棍棒形、稀れに針状、真直又は弯曲し、基端は切断状ないし倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は多数、無色、26~80 \times 4~8 μ 、稀れに 120 μ 。

本菌はダイズ (*Glycine max*) の葉に斑点病をおこす。

201. *Cercospora solani-melongenae* CHUPP

Both. 4: 892 1948; CHUPP, 1. c. 551. 1953.

= *Cercospora solani-melongenae* HORI (1917)

(nom. nud.)

= *Cercospora melongenae* Auct. (non WELLES)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径 20~60 μ 。担子梗は単条、真直又は少しく弯曲し、隔膜は少数、淡オリーブ褐色、5~30 \times 3~5 μ 。分生胞子は倒棍棒状円柱形、真直又は少しく弯曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は 3~7、無色ないし淡オリーブ色、30~80 \times 3~5 μ 。

本菌はナス (*Solanum melongena*) の葉に褐色円星病をおこす。本菌は堀 (1917) によつて *C. solani-melongenae* HORI と命名されたが、菌の記載がなく、また *C. melongenae* WELLES と同種であるように報告されたから、その後この学名は出田 (1926)、白井・原 (1927)、中田・滝元 (1928)、香月 (1949)、中田 (1950)、木場 (1952)、河合 (1950, 1954)、渡辺 (1957) その他の病害著書に採用されている。しかし *C. melongenae*

の担子梗は 20~150×4~6.5 μ 。分生胞子は針状、無色、隔膜は多数、40~120×2.5~5 μ であつて本種とは違つている。

202. *Cercospora sorghi* ELLIS & EVERHART

Jour. Mycol. 3: 15. 1887; CHUPP, l. c. 253. 1953; HARA, l. c. 59. 1954.

= *Cercosporina sorghi* (E. & E.) HARA (1930)

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色ないし黒色、径 15~50 μ 、時には欠く。担子梗は単条、真直又は弯曲し、上部で 1~3 屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は 0~6、オリブ褐色、20~80×3~5.5 μ 、稀に 150 μ 。分生胞子は針状ないし倒棍棒形、時に円柱形、真直又は少しく弯曲し、基端は切断状ないし倒円錐状切断形、先端はやや尖り、隔膜は多数、無色、30~70×2~4 μ 、稀に 300 μ 。

本菌はモロコシ (*Andropogon sorghum* var. *vulgaris*) の葉と葉鞘に葉輪病をおこす。

203 *Cercospora sphaeriaeformis* COOKE

Grev. 6: 140. 1878; CHUPP, l. c. 586. 1953; HARA, l. c. 59. 1954.

= *Cercospora ulmi* Syd. (1929)

担子梗群は病斑の上面に叢生又は単生し、基部の子座は球形ないし長形、暗褐色、径 30~120 μ 。担子梗は単条又は分枝し、波状に弯曲し、幅は不規則、胞子痕は小形、隔膜は少数、オリブ褐色、10~35×3~4 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし倒棍棒状円柱形、真直又は少しく弯曲し、基端は通常倒円錐状切断形、先端はやや尖り、隔膜は多数、やや無色ないし淡オリブ色、20~75×3~4.5 μ 。

本菌はアキニレ (*Ulmus parvifolia*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

204. *Cercospora stizolobii* SYDOW

Ann. Mycol. 11: 270. 1913; CHUPP, l. c. 335. 1953.

= *Cercospora mucunae-ferrugineae* YAM. (1934)

= *Cercospora mucunae-capitatae* SAW. (1943)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は暗褐色、径 40 μ 又は少数の細胞からなる。担子梗は単条又は分枝し、波状に弯曲し、屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は 1~7、淡オリブ褐色、13~62×3~4 μ 。分生胞子は円柱形ないし円柱状倒棍棒形、真直又は少しく弯曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は 1~12、淡オリブ褐色、23~130×3~4.5 μ 。

本菌はハツシヨウマメ (*Mucuna capitata*)、クヅモダマ (*M. gigantea*) の葉に褐斑病をおこす。

205. *Cercospora subsessilis* SYDOW

Ann. Mycol. 11: 329. 1913; CHUPP, l. c. 386. 1953; HARA, l. c. 59. 1954.

= *Cercoseptoria domingensis* CIF. (1938)

= *Cercospora leucosticta* FUKUI (non ELL. & EV.) (1916)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径 30~65 μ 。担子梗は単条、真直又は僅かに波状に弯曲し、隔膜は無く、淡オリブ色、5~20×2~4 μ 。分生胞子は円柱形又は先端に向つて漸細し、真直又は少しく弯曲し、基端は倒円錐状切断形ないし円形、先端は円形、隔膜は 3~9、無色ないしオリブ色、25~80×2~4 μ 。

本菌はセンダン (*Melia azedarach* var. *japonica*) の葉に褐斑病をおこす。本菌は福井(1916)、沢田(1931)によつて *C. leucosticta* として報告され、この学名が日本で褐斑病菌として一般に採用されている。しかし *C. leucosticta* の担子梗は隔膜が 1~5、20~70×3~5 μ 、分生胞子は針状、無色、隔膜は多数、40~120×2~4 μ であつて、福井と沢田の褐斑病菌は *C. leucosticta* ではなく、本種である。

206. *Cercospora sugimotoana* KATSUKI

Bull. Agric. Impr. Sect. Econ. Dept. Fukuoka Pref. 1: 23. 1949; CHUPP, l. c. 161. 1953; HARA, l. c. 59. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は小形。担子梗は単条、真直又は弯曲し、隔膜は 2~7、暗褐色、20~85×4~6 μ 。分生胞子は棍棒状円柱形ないし倒棍棒形、真直又は少しく弯曲し、基端は倒円錐状切断形、先端に向つて漸尖し、隔膜は 2~6、無色ないし淡色、25~80×3~5 μ 。

本菌はコメナモミ (*Siegesbeckia glabrescens*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

207. *Cercospora taihokuensis* SAWADA

Rept. Agric. Exp. Formosa 85: 123. 1943; CHUPP, l. c. 219. 1953; HARA, l. c. 59. 1954.

担子梗は病斑の裏面に叢生し、単条、真直、隔膜は 4~6、暗褐色、130~222×4.5~6.5 μ 。分生胞子は倒棍棒形、弯曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は円頭、隔膜は 3~7、淡オリブ色、41~62×4.7~6 μ 。

本菌はカキバカンコノキ (*Glochidion hongkongense*) の葉に円星病をおこす。本菌はカキバカンコノキの葉枯病菌 *C. glochidionis* SAW. (1916) に類似しているが、担子梗の形状が違っている。

208. *Cercospora taiwanensis* MATSUMOTO & YAMAMOTO

Jour. Trop. Agric. 6: 584. 1934; CHUPP, 1. c. 255. 1953; HARA, 1. c. 59. 1954.

担子梗は病斑の両面において表生菌糸から単生し、単条殆んど分枝しない、真直、少しく屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は1~6、通常2~3、無色ないし淡色、7~55×2.5~4μ、通常長さ16~29μ。分生胞子は倒棍棒形、真直又は少しく彎曲し、基端はやや切断状、先端はやや尖り、隔膜は2~15、無色ないし淡色、29~153×2.5~4μ。

本菌はサトウキビ (*Saccharum officinarum*)、コブナグサ (*Arthraxon hispidus*) の葉に葉枯病をおこす。本菌の子嚢胞子世代は *Leptosphaeria taiwanensis* (MATS. & YAM.) YEN & CHI (1953) である。

209. *Cercospora tetragoniae* CHUPP

CHUPP, 1. c. 27. 1953.

= *Cercosporina tetragoniae* SPERG. (1910)

= *Cercospora tetragoniae-expansae* HORI (1919)

= *Cercosporina tetragoniae-expansae* (HORI)

HARA (1919)

担子梗群は病斑の主として上面に叢生し、基部の子座は欠くか又は数細胞からなる。担子梗は単条、真直又は2~3屈曲し、胞子痕は中形、隔膜は0~5、オリーブ褐色、20~125×3.5~6μ。分生胞子は針状、真直又は強く彎曲し、基端は切断状、先端はやや尖り、隔膜は多数、無色、30~150×2.5~5μ。

本菌はツルナ (*Tetragonia tetragonoides*) の葉に斑点病をおこす。

210. *Cercospora theae* (CAVARA) BREDI de HAAN

Bull. Inst. Buitenzorg 6: 11. 1900; CHUPP, 1. c. 561. 1953; HARA, 1. c. 59. 1954.

= *Septoria theae* CAV. (1889)

= *Cercosporina theae* (HAAN) HARA (1927)

= *Cercoseptoria theae* (CAV.) CURZI (1929)

= *Cercospora theaeicola* HARA (1956)

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座はやや球

形、暗褐色、径20~25μ。担子梗は単条、真直、隔膜を欠き、淡オリーブ色、5~15×2~3μ。分生胞子は円柱形、真直又は彎曲し、基端は円形ないし倒円錐形、先端は円頭、隔膜は3~5、やや無色ないし淡オリーブ色、30~80×2~3μ。

本菌はチャ (*Thea sinensis*) の葉に円赤星病又は褐色円星病をおこす。本菌は沢田 (1915, 1919) によつて赤円星病菌 *C. theae*, 原 (1931) によつて褐色円星病菌 *C. theae?* として報告され、その後原 (1956) は混合種である *C. theae?* を *C. theaeicola* と *C. chaee* の2新種に分離された。両種は別種である。*C. theaeicola* は *C. theae* に類似しているが、*C. theae* と少し違うのは、両種の特徴の分離が不完全であつて、これに *C. chaee* の形状が少し残存しているからのように思われる。それで *C. theaeicola* は本種の同種異名のように思われる。

211. *Cercospora timorensis* COOKE

Grev. 12: 38. 1883; CHUPP, 1. c. 173. 1953.

= *Cercospora batatae* ZIMM. (1904)

= *Cercospora batatae* HENN. (1907)

担子梗群は病斑の主として裏面に叢生し、基部の子座は褐色、小形、気孔内に生ずる。担子梗は単条稀れに分枝し、真直、僅かに屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は0~2、5~50×2.5~5μ。分生胞子は倒棍棒状円柱形、真直少しく彎曲し、基端は切断状ないし倒円錐状切断形、先又は端は鈍頭、隔膜は0~5、無色ないし淡オリーブ色、20~100×2~4μ。

本菌はサツマイモ (*Ipomoea batatas*) の葉に斑点病をおこす。本菌は川上・鈴木 (1908)、出田 (1919)、沢田 (1931) によつて *C. batatae* として報告され、その後この学名は病害書著に一般に採用されている。しかし CHUPP はこれを *C. timorensis* の同種異名にしている。

212. *Cercospora tineae* SACCARDO

Mich. 1: 268. 1879; CHUPP, 1. c. 105. 1953;

HARA, 1. c. 59. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は暗褐色、径15~35μ。担子梗は単条又は分枝し、波状に彎曲し、屈曲し、胞子痕は無いか不明確、隔膜はあり、淡オリーブ褐色、10~50×2~4μ。分生胞子は細い倒棍棒形ないし円柱形、僅かに曲り、基端は倒円錐状切断形、先端はやや尖り、隔膜は不明確、無色ないし淡色、20~100×2~3.5μ。

本菌はガマズミ (*Viburnum dilatatum*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

213. Cercospora togashiana KATSUKI &
URASAWA

Ann. Phytopath. Soc. Japan **15**: 144. 1951;
CHUPP, l. c. 355. 1953; HARA, l. c. 59. 1954.

担子梗群は病斑の両面、主として裏面に叢生し、基部の子座は暗褐色ないし黒色、径 22~30 μ 。担子梗は単条又は分枝し、真直又は彎曲し、稀に屈曲し、幅は不規則、隔膜は多数、オリーブ褐色、60~150 \times 4~6 μ 。分生胞子は円柱形ないし倒棍棒形、僅かに彎曲し、基端は切断状、先端は鈍頭、隔膜は3~8、無色ないし淡オリーブ色、55~92 \times 4~5 μ 。

本菌はシアノヒゲ (*Ophiopogon japonicus*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

214. Cercospora toxicodendri ELLIS

Amer. Nat. **16**: 811. 1882; CHUPP, l. c. 43. 1953.
= *Cercospora bartholomei* ELL. & KELL. (1889)
= *Cercospora infuscans* ELL. & EV. (1891)

担子梗群は病斑の裏面に叢生又は単生し、基部の子座は無い或は僅かに生ずる。担子梗は単条又は僅かに分枝し、0~2屈曲し、幅は不規則、基部は球状に膨れ、隔膜は1、暗褐色、15~50 \times 3~6 μ 。分生胞子は円柱形ないし線虫形、真直又は少しく彎曲し、基端は倒円錐形ないし切断状、先端は鈍頭、隔膜は多数、無色ないし淡オリーブ色、20~180 \times 2.5~5 μ 。

本菌はツタウルシ (*Rhus ambigua*) の葉に斑点病(新称)をおこす。本菌は白井・三宅 (1917)、出田 (1926) によつて *C. bartholomei* と報告されているが、CHUPP はこれを *C. toxicodendri* の同種異名にしている。

215. Cercospora ubi RACIBORSKI

Paras. Algen & Pilze Javas **3**: 39. 1900; CHUPP, l. c. 198. 1953; HARA, l. c. 60. 1954.
= *Cercospora brasiliensis* AVERNA (1917)
= *Cercosporina dioscoreae* (ELL. & MART.) HARA (1930)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は欠く或は褐色の少数細胞からなる。担子梗は単条稀に分枝し、真直又は波状に彎曲し、屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は多数、暗褐色、20~150 \times 3.5~5 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱状倒棍棒形、真直又は彎曲し、基端は鈍倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は3~9、無色ないし淡色、20~120 \times 4~7.5 μ 。

本菌はダイショウ (*Dioscorea alata*)、ヤマノイモ

(*D. japonica*)、ツクネイモ (*D. batatas*)、マルバドコロ (*D. bulbifera* f. *spontanea*) の葉に斑点病をおこす。原 (1930) が *C. dioscoreae* として報告された菌は担子梗と分生胞子の形状から判断すると *C. dioscoreae* とは別種であつて、本種に同定されるものと思われる。

216. Cercospora udagawana KATSUKI

Ann. Phytopath. Soc. Japan **20**: 72. 1955.

担子梗群は病斑の主として上面に叢生し、基部の子座は準球形ないし不規則形、黒褐色、径 15~50 μ 。担子梗は単条、真直又は彎曲し、隔膜は1~5、10~45 \times 3~4.5 μ 。分生胞子は円柱形、彎曲し、基端は切断状、先端は円頭、隔膜は5~11、オリーブ色、25~85 \times 3~4.5 μ 。

本菌はケンボナシ (*Hovenia dulcis*) の葉に斑点病(新称)をおこす。

217. Cercospora uehvae FUKUI

Bull. Mie Agric. Coll. **3**: 21. 1933; CHUPP, l. c. 65. 1953; HARA, l. c. 60. 1954.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し、基部の子座は小形、褐色、気孔内に生ずる。担子梗は単条、真直又は彎曲し、僅かに屈曲し、隔膜は1~5、褐色、20~75 \times 3.5~5.5 μ 。分生胞子は倒棍棒形ないし円柱形、真直又は彎曲し、基端は切断状、先端は鈍頭、隔膜は1~7、無色ないし淡褐色、40~130 \times 3.5~5.5 μ 。

本菌はヤツデ (*Fatsia japonica*) の葉に黄斑病をおこす。

218. Cercospora vaginae KRUEGER

Ber. Vers. Stat. Zuck. West Java **1**: 64. 1890;
CHUPP, l. c. 256. 1953; HARA, l. c. 60. 1954.

担子梗群は病斑の表面に蔓延する菌糸から分枝して生じ、黒色の子座又は菌核は径 15~75 μ 、これからは担子梗は生じない。担子梗は単条、稀に屈曲し、胞子痕は不明確、隔膜は1~5、暗褐色、36~136 \times 3~4 μ 。分生胞子は円柱形ないし倒棍棒状円柱形、真直、基端は倒円錐形、先端は鈍頭、隔膜は0~5、無色ないしオリーブ褐色、15~50 \times 3~6 μ 。

本菌はサトウキビ (*Saccharum officinarum*) の葉鞘に葉鞘赤斑病をおこす。

219. Cercospora variicolor WINTER

Hedw. **24**: 205. 1885; CHUPP, l. c. 465. 1953;
HARA, l. c. 60. 1954.

担子梗群は病斑の上面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色ないし黒色、径 $20\sim 60\mu$ 。担子梗は単条、真直又は波状に弯曲し、稀れに屈曲し、胞子痕は小形、隔膜は $0\sim 2$ 、淡オリブ褐色、 $10\sim 35\times 2\sim 4\mu$ 。分生胞子は円柱形、弯曲し、基端は倒円錐状切断形、先端は尖り、隔膜は $1\sim 7$ 、無色ないし淡オリブ色、 $40\sim 120\times 2\sim 3.5\mu$ 。

本菌はシャクヤク (*Paeonia lactiflora*) の葉に褐斑病をおこす。

220. *Cercospora violae* SACCARDO

Nuov. Giorn. Bot. Ital. 8 : 187. 1876; CHUPP, 1. c. 559. 1953.

= *Cercospora violae* SACC. var. *minor* ROSSI (1914)

= *Cercospora violae-tricoloris* B. & C. (1892)

= *Cercospora kiusana* SAW. (1943)

= *Cercospora difformis* TEHON (1948)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は球形、暗褐色、径 40μ 。担子梗は単条、真直、稀れに $1\sim 4$ 屈曲し、胞子痕は大形、隔膜は $0\sim 7$ 、淡オリブ褐色、 $15\sim 65\times 4\sim 5.5\mu$ 、稀れに 200μ 。分生胞子は針状ないし倒棍棒形、真直又は少しく弯曲し、基端はやや切断状、先端はやや尖り、隔膜は不明確で多数、無色、 $25\sim 250\times 2\sim 5\mu$ 。

本菌はサンシキスミレ (*Viola tricolor* var. *hortensis*)、ツクシスミレ (*V. kiusiana*) の葉に黒腐病又は円星病をおこす。

221. *Cercospora violamaculans* FUKUI

Bull. Mie Agric. Coll. 3 : 15. 1933; CHUPP, 1. c. 490. 1953; HARA, 1. c. 60. 1954.

担子梗は病斑の両面に叢生又は表生菌糸から短く分枝して生じ、単条稀れに屈曲し、隔膜は $0\sim 2$ 、淡オリブ色、 $10\sim 35\times 3\sim 4.5\mu$ 。分生胞子は倒棍棒形、強く弯曲し、基端は切断状、先端は尖り、隔膜は不明確で多数、無色ないし淡色、 $20\sim 65\times 2\sim 3.5\mu$ 。

本菌はシャリンバイ (*Rhaphiolepis umbellata* var. *mertensii*) の葉に紫斑病をおこす。

222. *Cercospora vitis-heterophyllae* P.

HENNINGS.

ENGLER, Bot. Jahrb. 37: 166. 1906; CHUPP, 1. c. 606. 1953; SAWADA, Bull. Gov. For. Exp. Sta. Tokyo 105 : 112. 1958.

担子梗群は病斑の裏面に叢生し又は単生し、基部の子座は球形、暗褐色、径 20μ 又は欠く、担子梗は単条、波

状に弯曲し、幅は不均一、隔膜は少数、褐色、 $15\sim 70\times 3.5\sim 6\mu$ 。分生胞子は円柱形、真直又は少しく弯曲し、基端は円形ないし倒円錐状切断形、先端は鈍頭、隔膜は多数、褐色、 $30\sim 120\times 4\sim 6.5\mu$ 。

本菌はノブドウ (*Ampelopsis brevipedunculata*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

223. *Cercospora yakushimensis* TOGASHI & KATSUKI

Bot. Mag. Tokyo 65 : 25. 1952; CHUPP, 1. c. 520. 1953; HARA, 1. c. 60. 1954.

担子梗群は病斑の両面、主として裏面に叢生し、基部の子座は暗褐色、径 $15\sim 25\mu$ 。担子梗は単条、真直又は弯曲し、隔膜は $2\sim 4$ 、 $25\sim 75\times 2.5\sim 4\mu$ 。分生胞子は倒棍棒形ないし倒棍棒状円柱形、真直又は少しく弯曲し、基端は倒円錐状切断形、先端はやや尖り、隔膜は $4\sim 5$ 、やや無色、 $50\sim 64\times 3\sim 4\mu$ 。

本菌はトカラアジサイ (*Hydrangea kawagoeana*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。

224. *Cercospora yoshinagaiana* CHUPP

CHUPP, 1. c. 423. 1953.

= *Cercospora ludwigiae* ATK. var. *japonica*

HENN. (1905)

担子梗群は病斑の主として上面に叢生し、基部の子座は小形、褐色、時には少数の細胞からなる。担子梗は単条、波状に弯曲し、稀れに屈曲し、隔膜は多数、褐色、 $20\sim 125\times 3\sim 4\mu$ 。分生胞子は細い倒棍棒形ないし円柱形、真直又は少しく弯曲し、基端は倒円錐状切断形、先端はやや尖り、隔膜は多数、オリブ色ないしオリブ褐色、 $30\sim 100\times 3\sim 4\mu$ 。

本菌はダゴボウ (*Jussiaea prostrata*) の葉に斑点病 (新称) をおこす。本菌は P. HENNINGS (1905) によつて *C. ludwigii* var. *japonica* と命名されたが、*C. ludwigiae* とは形態が著しく違うので、CHUPP は別種とし、原標本の採集者である吉永氏を記念する新学名を与えた。

225. *Cercospora zebrina* PASSERINI

Hedw. 16 : 124. 1877; CHUPP, 1. c. 341. 1953; HARA, 1. c. 60. 1954.

= *Cercosporina zebrina* (PASS.) MATS. (1930)

= *Cercospora helvola* SACC. (1882)

= *Cercospora stolziana* MAGN. (1905)

担子梗群は病斑の両面に叢生し、基部の子座は欠くか

又は数細胞からなる。担子梗は単条，真直，屈曲し，孢子痕は中形，隔膜は僅少，オリーブ褐色， $20\sim 105\times 3\sim 5\mu$ 。分生胞子は針状ないし円柱形，真直又は彎曲し，基端は切断状，先端は鈍頭ないしやや尖り，隔膜は $2\sim 15$ ，無色， $40\sim 150\times 2\sim 5\mu$ ，稀れに 215μ 。

本菌はシロツメクサ (*Trifolium repens*)，アカツメクサ (*T. pratense*) の葉に斑点病をおこす。

226. *Cercospora zelkowae* HORI

Jour. Plant Protect. 8: 492. 1921; CHUPP, 1. c. 587. 1953; HARA, 1. c. 60. 1954.

担子梗群は病斑の両面に叢生し，基部の子座は準球形，暗褐色ないし黒色，径 $15\sim 50\mu$ 。担子梗は単条，真直又は波状に彎曲し，稀れに屈曲し，隔膜は $5\sim 6$ ，オリーブ褐色， $10\sim 45\times 3\sim 4.5\mu$ 。分生胞子は倒戻棒形，基端は倒円錐状切断形，先端は尖り，真直又は強く彎曲し，隔膜は $3\sim 6$ ，無色， $30\sim 60\times 2.5\sim 4\mu$ 。

本菌はケヤキ (*Zelkova serrata*) の葉に白斑病をおこす。

227. *Cercospora zingiberi* TOGASHI & KATSUKI

Bot. Mag. Tokyo. 65: 25. 1952; CHUPP, 1. c. 608. 1953; HARA, 1. c. 60. 1954.

担子梗は病斑の主として裏面に叢生し，単条，真直又は僅かに彎曲し，孢子痕は小形，隔膜は $3\sim 5$ ，オリーブ褐色， $52\sim 100\times 4\sim 5\mu$ 。分生胞子は倒戻棒状円柱形，真直又は少しく彎曲し，基端は倒円錐状切断形，先端はやや尖り，隔膜は $3\sim 5$ ，淡色， $26\sim 90\times 3.5\sim 5\mu$ 。

本菌はミヨガ (*Zingiber mioga*) の葉に角斑病 (新称) をおこす。

228. *Cercospora zinniae* ELLIS & MARTIN

Jour. Mycol. 1: 20. 1885; CHUPP, 1. c. 168. 1953.
= *Cercospora atricineta* HEALD & WOLF (1911)
= *Cercosporina zinniae* TAK. & YOSH. (1953)

担子梗群は病斑の両面に叢生し，基部の子座は欠くか又は数細胞からなる。担子梗は単条稀れに分枝し，彎曲し，多数屈曲し，孢子痕は小形，隔膜は $1\sim 5$ ，オリーブ褐色， $35\sim 104\times 3.5\sim 4.5\mu$ 。分生胞子は通常針状ないし倒戻棒形，真直又は少しく彎曲し，基端は切断状，先端はやや尖り，隔膜は $5\sim 15$ ，無色， $40\sim 140\times 2\sim 4\mu$ 。

本菌はヒヤクニチソウ (*Zinnia elegans*) の葉に白星病をおこす。山本 (1936) は本種を *C. atricineta* として報告したが，CHUPP はこれを本種の同種異名にして報告した。また高橋・吉田 (1953) によつて *C. zinniae* と

命名された新種は本種の同種異名のように思われる。

229. *Cercospora zonata* WINTER

Hedw. 23: 191. 1884; CHUPP, 1. c. 342. 1953;
HARA, 1. c. 60. 1954.
= *Cercospora viciae* ELL. & HOLW. (1885)
= *Cercosporina fabae* FAUT. (1891)
= *Cercosporina fabae* (FAUT.) TAK. & SUZ. (1929)

担子梗群は病斑の両面に叢生し，基部の子座は暗褐色，径 30μ 又は数細胞からなる。担子梗は単条，真直稀れに屈曲し，孢子痕は小形，隔膜は稀れにあり， $10\sim 80\times 3\sim 5\mu$ 。分生胞子は円柱形ないし円柱状倒戻棒形，真直，基端は切断状ないし倒円錐形，先端はやや尖り，隔膜は $3\sim 9$ ，通常 3 ，無色ないし淡色， $40\sim 125\times 2.5\sim 4.5\mu$ 。

本菌はソラマメ (*Vicia faba*) の葉に輪紋病をおこす。

記載が不十分または所属が疑問の種類

230. *Cercospora acerina* HORI

原 (1925) によればカエデ類 (*Acer* spp.) 苗の斑点病菌であるが，菌の形態について十分に記載されていない。堀氏の原記載がなく，また南部 (1917) によつて報告された *Cercospora acerina* HARTIG も記載が不十分であつて，両種の関係がよく判らない。

231. *Cercospora celtidis* SAWADA

香月 (1949) によつてエノキ (*Celtis sinensis* var. *japonica*) に寄生する菌として報告された本菌は，沢田 (1943) の原記載によれば，分生胞子は暗黒色，鞭状又は円柱形， $3\sim 67$ の横隔膜と $2\sim 5$ の縦隔膜がある。それで本菌は *Cercospora* 属ではなく，*Alternaria* に属するように思われる。香月 (1949) の菌について記載がないから，本菌であるか又は *Cercospora* 属の他の種類であるかは判らない。

232. *Cercospora melonis* COOKE

南部 (1913) によつてキュウリ (*Cucumis sativus*) の斑点病菌，金野 (1918) によつて角斑病菌として報告され，その後出田 (1926)，原 (1930, 1954) によつて採用され，外国でも WALKER (1952)，BROOKS (1953)，MOORE (1959) らの著書にもこの学名が採用されている。しかし，一般に *Corynespora melonis* (CKE.) SACC. = *C. melonis* (CKE.) LIND. = *C. mazei* GUESSOW = *C. cassicola* (BERK. & CURT.) WEI の同種異名とされている。

233. *Cercospora polygoni-maximowiczii* TOGASHI, 富樫 (1924) によつてヤマアイトコロ (*Polygonatum officinale* var. *maximowiczii*) に寄生するものとして報告された本菌は, CHUPP の意見によれば *Helminthosporium* に属せしめた方が妥当のようである.

234. *Cercospora vignicola* KAWAMURA

河村 (1931) によつてササゲ (*Vigna sinensis* var. *catianga*) の輪紋病として報告された本菌は WEI (1950) によつて *Corynespora cassiicola* (BERK. & CURT.) WEI と改められた. 後藤 (1950) によつて *Corynespora vignicola* (KAW.) GOTO と改められたこの学名も異名である.

(植物病理学及菌類学研究室 昭和35.8.15.受理)

引用および参考に供した日本の文献

1. 円城寺定男 (1931): ピワの1新病害に就て(予報). 病虫害雑誌 18: 329~332.
2. 福井 武治 (1918): 本邦産有用植物の新病害について(3~5). 同上. 5: 732~734, 808~811 & 888~889.
3. ——— (1933): 観賞植物病害調査報告. 三重高等農林学校学術報告 第3号.
4. ——— (1951): 6種の *Cercosporina* 菌についての略記. 三重大学学芸学部研究紀要 6: 1~8.
5. 福士 貞吉 (1929): チシアの褐斑病菌に就て, 病虫害雑誌 16: 449~452.
6. 後藤 和夫 (1925): 盛岡病害雑記. 第1報. 同上. 12: 677~682.
7. ——— (1927): 広島病害雑記. 同上, 14: 454~463.
8. 原 裒祐 (1925): 樹病学各論.
9. ——— (1930): 実験作物病理学.
10. ——— (1936): 日本害菌学.
11. ——— (1931, 1956): 茶樹の病害.
12. ——— (1950): 病虫害宝典.
13. ——— (1954): 日本菌類目録.
14. ——— (1929): 本邦未記録種の病菌に就て. 病虫害雑誌 16: 159~163.
15. ——— (1931): 日本菌類志料 3. 菌類 1: 103~113.
16. 堀 正太郎 (1916): 植物病害講話. 第2編.
17. 出田 新 (1911): 日本植物病理学.
18. ——— (1926): 純日本植物病理学 下巻.
19. 鑄方 末彦 (1949): 食用作物病理学 上巻.
20. 今井 二郎 (1915): 花卉の病害. 病虫害雑誌 2: 343~345.
21. 伊藤一雄・渋川浩三・小林享夫 (1952): スギの赤枯病に関する病原学的並に病理学的研究. (1) 林業試験場研究報告 52: 79~152.
22. ——— (1956): シナアブラギリの褐斑病. 植物防疫 10: 493~494.
23. ——— (1960): 樹病学概論.
24. ITO, K. & HOSAKA, K. (1950): Notes on some leaf spot diseases of broad leaved trees. I. Bull. Gov. For. Exp. Sta. Tokyo 45: 17~32.
25. ——— & KOBAYASHI, T. (1953): Contribution to the diseases of poplars in Japan. II. ibid. 59: 1~28.
26. ———, TERASHITA, T. & HOSAKA, Y. (1959): Variation in shape of conidia of *Cercospora platanifolia* ELL. et Ev. Jour. Jap. For. Soc. 41: 229~237.
27. KASAI, M. (1922): Ueber den auf der Binse parasitisch lebenden Pilz *Cercospora juncicola* sp. n. Ber. Ohara Inst. landw. Forsch. 2: 225~232.
28. 香月 繁孝 (1949): 福岡県に於ける栽培植物病害の調査報告 第1報.
29. ——— (1949): A contribution to the genus *Cercospora* in Fukuoka Prefecture (1). 福岡県経済部農業改良課学術報告第1号.
30. ——— (1953): 屋久島産寄生菌類. 植物研究雑誌 28: 279~288.
31. ——— (1955): 屋久島産植物寄生菌フロラに就いて (2). 同上. 30: 370~376.
32. KATSUKI, K. (1951, 1952): Materials for a *Cercospora*-flora of the Kanto District. I~II. Ann. Phytopath. Soc. Japan 15: 143~145 (1951); 17: 5~8 (1952).
33. ——— (1955): New or noteworthy *Cercospora* from Japan. III. ibid. 20: 71~72.
34. 河合 一郎 (1950): 農作物病害篇.
35. ——— (1954): 園芸病害篇.
36. 木場 三朗 (1952): 作物の病害の診断と防除.
37. 北島 君三 (1916): スギ苗赤枯病に就きて. 植物

- 学雑誌 30: 411~414.
38. ——— (1942): 樹病学及木材腐朽論.
39. MATSUMOTO, T. & YAMAMOTO, W. (1934): Three important leaf spot diseases of sugar cane in Taiwan (Formosa). Jour. Trop. Agric. (Formosa) 6: 584~598.
40. 松本弘義・長岡栄利 (1931): ササゲ煤黴病に就て (予報). 病虫害雑誌 18: 718~722.
41. 松浦 勇 (1927): ホウセンカの斑点病に就きて, 全上. 14: 699~707.
42. ——— (1930): シロツメクサ及びアカツメクサの2新病害に就きて. 全上. 17: 585~589.
43. 三宅 忠一 (1923): 桜の穿孔性褐斑病. 日本植物病理学会報 1: 1~12.
44. 三浦 道哉 (1928): 満蒙植物誌 第3輯, 菌類.
45. 三浦 密成 (1957): 秋田 農試保管病菌標本調査報告. 秋田農業試験場報告 第8号.
46. 村田寿太郎 (1915): 無花果の病害 (2). 病虫害雑誌 2: 147~150.
47. ——— (1924): 茄子セル コスポラ斑点病に就て. 同上. 11: 620~621.
48. 永友 勇 (1937): *Cercospora* 属菌に基因せらるる2種の観賞植物病害に関する記録. 植物病害研究 3: 109~114.
49. NAITO, N. (1940): Notes on some new or noteworthy fungi of Japan. Mem. Coll. Agric. Kyoto Imp. Univ. 47: 45~52.
50. 内藤中人・谷利一 (1954): ケナフ葉煤病に就いて. 香川農科大学学術報告 4: 187~192.
51. ———・高原弘 (1954): 蒔菘草褐斑病に就いて, 特にフダンソウ褐斑病との比較. 同上. 6: 173~183.
52. ——— (1956): 香川県に発生する病害3種に就いて. 四国農業研究 1: 60~62.
53. 中田覚五郎 (1950, 1957): 作物病害図編.
54. ———・滝元清透 (1928): 朝鮮作物病害目録. 勸業模範場研究報告. 第15号.
55. 南部 信方 (1904): 東京附近の寄生菌類に就て. 植物学雑誌 18: 1~3.
56. ——— (1908): 寄生菌類学名報告. 全上. 20: 249~252.
57. ——— (1915): 花卉盆栽類の病害調査. 病虫害雑誌 2: 98~101.
58. ——— (1917): カエデ類の病害に就て. 全上. 4: 921~922.
59. ——— (1922): 庭園樹木の病害に就て. 全上. 9: 81~83.
60. 沢田 兼吉 (1919): 台湾産菌類調査報告 第1編. 台湾総督府農事試験場特別報告 第19号.
61. ——— (1922~1933): 同上. 第2編. 台湾総督府中央研究所農業部報告第2号 (1922); 同上. 第3編. 同上. 第27号 (1927); 同上. 第4編. 同上. 第35号 (1928); 同上. 第5編. 同上. 第51号 (1931); 同上. 第6編. 同上. 第61号 (1933).
62. ——— (1942~1944): 同上. 第7編. 台湾総督府農業試験所報告 第83号 (1942); 同上. 第8編. 同上. 第85号 (1943); 同上. 第9編. 同上. 第86号 (1943); 同上. 第10編. 同上. 第87号 (1944).
63. ——— (1959): Part XI. Special Publication No. 8. Coll. Agric. Nat. Taiwan Univ.
64. ——— (1950): 東北地方に於ける針葉樹の菌類 I~II. 林業試験場研究報告 45: 27~53; 46: 111~150.
65. ——— (1958): 東北地方菌類調査報告 (IV). 不完全菌類. 同上. 105: 35~140.
66. 白井光太郎・原振祐 (1927): 日本菌類目録 3版.
67. 柴田 万年 (1924): 小豆の褐斑病に就きて. 病虫害雑誌 11: 672~677.
68. 高橋信行・吉田正行 (1953): 百日草の新病害. 植物防疫 7: 17~20.
69. 滝元 清透 (1939): 花卉及温室作物の病害.
70. TOGASHI, K. (1942): New species of parasitic fungi. III. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 17: 96~101.
71. ——— & KATSUKI, S. (1952): New or noteworthy *Cercosporae* from Japan. I. Bot. Mag. Tokyo 65: 18~26.
72. ——— & ——— (1952): ———. II. Sci. Rept. Yokohama Nat. Univ. Sect. II. 1: 1~7.
73. 富樫 浩吾 (1952): 果樹病学.
74. 徳淵永次郎 (1911): 隠岐島植物分布論. 宮部博士就職25年祝賀記念植物学集説 283~337.
75. 山田 駿一 (1951): *Cercospora* 属菌によるトマトの新病害. 日本植物病理学会報 15: 61~65.

76. ——— (1956): 柑橘黄斑病に関する研究 第2報. 東海近畿農業試験場報告園芸部 第3号.
77. YAMAMOTO, W. (1934): *Cercospora* from Formosa. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. **13**: 139~143.
78. ——— (1934): *Cercospora*-Arten aus Taiwan (Formosa). II. Jour. Trop. Agric. (Formosa). **6**: 599~608.
79. ——— (1936): ———. III. Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa **26**: 279~286.
80. 山本和太郎 (1950): ササゲの煤黴病とアズキ及びフシマメの褐斑病菌の種名. 日本植物病理学会会報 **14**: 45.
81. ———・丸山輝樹 (1956): 日本と台湾産の *Cercospora* 属の種類に認められる異名同種. 兵庫農科大学研究報告. 農業生物学編 **2**: 29~32.
82. 吉永 虎馬 (1905): 土佐国産寄生菌類 第4報. 植物学雑誌 **19**: 28~37.
83. 吉野 毅一 (1905): 肥後国産菌類. 全上. **19**: 199~222.
84. 渡辺 竜雄 (1947): 纖維作物病学.
85. ——— (1957): 植物病理学.
86. ———・高橋信雄 (1953): ゴボウの新病害角斑病に就いて. 宇都宮高等農林学校同窓会学術彙報 **1**: 33~40.

Index of Fungi

Cercospora abeliae* KATS., 42(Cercosporina)*

- *abelmoschi* ELL. & EV., 42
- *acalyphae* PECK, 43
- *acalypharum* THARP, 43
- *acerina* HORI, 79
- *acerina* HART., 79
- *achyranthis* SYD., 43
- *actinostemmae* SAW., 43
- *adenostemmae* TOG. & KATS., 43
- *ageratoides* ELL. & EV., 43
- *alabamensis* ATK., 61
- *albido-maculans* WINT., 72
- *aleuritidis* MIX., 43
- *aleuritidis* SACC., 43
- *alpiniae* SYD., 43
- *althaeina* SACC., 44
- *amorphophalli* HENN., 44
- *amphicarpaeae* TOG., & KATS., 44
- *angulata* WINT., 44
- *anthelmintica* ATK., 46
- *apii* FRES., 44
- *apii* FRES. var. *carotae* PASS., 49
- *apii selini-gmelini* SACC. & SCAL., 74
- *apiodis* MIURA, 44
- *arachidicola* HORI, 44
- *arachidis* HENN., 68
- *arachidis* RAC. var. *macrospora* MAFF., 44
- *araliae* HENN., 45
- *araliae-cordatae* HORI, 45
- *araliae-cordatae* HORI, 45
- *arborescentis* TEH. & DAN., 60
- *arctii* STEV., 45
- *arcti-ambrosiae* HALS., 45
- *arisaemae* TAI, 45
- *asparagi* SACC., 45
- *asparagicola* SPEG., 45
- *astilbes* TOG., 45
- *astragali* WOR., 45
- *atra* ELL. & EV., 58
- *atricincta* HEALD & WOLF, 79
- *atro-maculans* ELL. & EV., 65
- *atro-marginalis* ATK., 46
- *aucubae* HARA, 46
- *aucubae* HARA, 46
- *aurantia* HEALD & WOLF, 67
- *avicularis* WINT. var. *sagittati* ATK., 70
- *babylonicae* SAW., 73
- *balsaminae* MEND., 58
- *bartholomei* ELL. & KELL., 77
- *batatae* HENN., 76
- *batatae* ZIMM., 76
- *begoniae* HORI, 46
- *bellyneckii* (WEST.) NIESSL, 46
- *bellyneckii* WEST., 46
- *bellyneckii* (WEST.) SACC., 46
- *betae* SACC., 46
- *betae* FRANK, 46
- *beticola* SACC., 46
- *bidentis* THARP, 47
- *bidentis* MARC. & STEY., 47
- *bidentis-pilosae* SAWADA, 47
- *bliti* THARP, 72
- *bloxami* (BERK. & BR.) YOUNG, 47
- *boehmeriae* PECK, 47
- *bolleana* (THUEMEN) SPEG., 47
- *brachiata* ELL. & EV., 47
- *brasiliensis* AVERNA, 77
- *brassicae-campetris* RANG., 47

- *brassicicola* HENN., 47
 ——— *broussonetiae* CHUPP & LIND., 47
 ——— *broussonetiae* HORI, 47
 ——— *buddleiae* YAM., 48
 ——— *callicarpae* CKE., 48
 ——— *callicarpicola* NAITO, 48
 ——— *callicarpicola* SAW., 48
 ——— *campi-silii* SPEG., 48
 ——— *canavaliae* SYD., 48
 ——— *canescens* ELL. & MART., 48
 ——— *cannabis* HARA & FUKUI, 48
 ——— *cannabis* HARA, 48
 ——— *cannabis* HARA & FUKUI, 48
 ——— *capsici* HEALD & WOLF, 48
 ——— *carotae* (PASS.) SOLH., 49
 ——— *caulicola* WINT., 45
 ——— *caulophylli* PECK, 49
 ——— *celosiae* SYD., 49
 ——— *celtidis* SAW., 79
 ——— *cerasella* SACC., 50
 ——— *cerasella* SACC., var. *avium* ROUM., 50
 ——— *cercidicola* ELL., 49
 ——— *cercidicola* ELL. var. *coremioides* TEH., 49
 ——— *cercidis* RAY, 50
 ——— *chae* HARA, 49
 ——— *chamaecyparidis* SAW., 49
 ——— *chengtuensis* TAI, 50
 ——— *chenopodii* FRES., 55
 ——— *chenopodii* CKE., 55
 ——— *chenopodiicola* BRES., 46
 ——— *chionanthi-retusi* TOG. & KATS., 50
 ——— *chioneae* ELL. & EV., 50
 ——— *chloranthi* TOG. & KATS., 50
 ——— *chrysanthemi* HEALD & WOLF, 50
 ——— *chrysanthemi* PUTT., 50
 ——— *chrysanthemi-coronarii* SAW., 50
 ——— *circumscissa* SACC., 50
 ——— *cissi-japonicae* HORI, 51
 ——— *citrullina* CKE., 51
 ——— *clerodendri* MIY., 51
 ——— *clerodendri* SAW., 51
 ——— *cocculi* SYD., 51
 ——— *cocculi* SAW., 51
 ——— *commelinicola* CHUPP, 51
 ——— *commelynae* SYD., 51
 ——— *concors* (CASP.) SACC., 52
 ——— *consimilis* SYD., 52
 ——— *consociata* WINT., 52
 ——— *contraria* SYD., 52
 ——— *copallina* CKE., 71
 ——— *corchori* SAW., 52
 ——— *cornicola* TRACY & EARLE, 52
 ——— *corylopsidis* TOG. & KATS., 52
 ——— *cotizensis* MULL. & CHUPP, 53
 ——— *crotalariae* SACC., 53
 ——— *crotalariae* SYD., 53
 ——— *crotalariae* SAW., 53
 ——— *crotalariae-juncea* SAW., 53
 ——— *cruenta* SACC., 53
 ——— *cryptomeriaecola* SAW., 54
 ——— *cryptomeriae* SHIR., 53
 ——— *cucurbitae* ELL. & EV., 51
 ——— *cydoniae* ELL. & EV., 54
 ——— *cydoniae* RANG., 54
 ——— *cylindrata* CHUPP, & LINDER, 54
 ——— *dahliae* HARA, 59
 ——— *daidai* HARA, 67
 ——— *daizu* MIURA, 74
 ——— *depazeoides* (DESM.) SACC., 54
 ——— *depazeoides* (DESM.) SACC. var. *amphigena* CAM., 54
 ——— *depazeoides* (DESM.) SACC. var. *gagrensis* EL. & OHL., 54
 ——— *destructiva* RAV., 54
 ——— *deutziae* ELL. & EV., 54
 ——— *dianthi* MULL. & CHUPP, 54
 ——— *dichondrae* KATS., 55
 ——— *difformis* TEH., 78
 ——— *dioscoreae* ELL. & MART., 55
 ——— *dioscoreae* (ELL. & MART.) HARA, 56
 ——— *diospiri* VIÉGAS, 58
 ——— *dipsaci* HOLL., 56
 ——— *dispori* TOG. & MAKI, 55
 ——— *dolichi* ELL. & EV. 53
 ——— *domingensis* CIF., 75
 ——— *drymariae* KATS., 55
 ——— *dubia* (RIESS) WINT., 55
 ——— *dubia* RIESS, 55
 ——— *dubia* WINT., 55
 ——— *dubia* (RIESS) BUBAK, 55
 ——— *edgeworthiae* HORI, 55
 ——— *ehikomontana* TOG. & KATS., 55
 ——— *ehretiae* TOG. & KATS., 56
 ——— *elaterii* PASS., 56
 ——— *elaterii* (PASS.) HARA, 56
 ——— *elongata* PECK, 56
 ——— *elongata* (PECK) SPEG., 56
 ——— *epicoccoides* CKE. & MASS., 56
 ——— *erobotryae* (ENJ.) SAW., 56
 ——— *eryobotryae* ENJOJI, 56
 ——— *euphorbiae* FUKUI, 71
 ——— *eupteleae* TOG. & KATS., 56
 ——— *evodiae* SYD., 57
 ——— *exotica* ELL. & EV., 66
 ——— *fabae* FAUT., 79
 ——— *fabae* (FAUT.) TAK. & SUZ., 79
 ——— *fagopyri* NAK. & TAK., 57
 ——— *fagopyri* CHUPP & MULL., 57
 ——— *fatouae* HENN., 57
 ——— *ferruginea* FUCH., 57
 ——— *fici* HEALD & WOLF, 57
 ——— *fici-caricae* SAW., 57

- *fici-caricae* (SAW.) HARA, 57
 ——— *flagelliformis* ELL. & HOLW., 46
 ——— *flexuosa* TAN., 52
 ——— *fukuii* YAM., 47
 ——— *fukuii* HARA, 64
 ——— *fukuokaensis* CHUPP, 57
 ——— *fukushiana* (MATS.) YAM., 58
 ——— *fukushiana* MATS., 58
 ——— *fuligena* ROLD., 58
 ——— *fuliginosa* ELL. & KELL., 58
 ——— *fumosa* PENZ., 67
 ——— *fusimaculans* ATK., 58
 ——— *garbiniana* MASS., 72
 ——— *gnaphaliacea* CKE., 58
 ——— *gnaphalii* HARK., 58
 ——— *gossypina* CKE., 59
 ——— *gossypina* FUKUI, 59
 ——— *gotoana* TOG., 59
 ——— *grandissima* RANG., 59
 ——— *hamamelidis* (PECK) ELL. & EV., 59
 ——— *handelii* BUB., 59
 ——— *hederae* TOG. & KATS., 59
 ——— *helianthicola* CHUPP & VIEG., 59
 ——— *helianthicola* HARA, 59
 ——— *helianthi* FUKUI, 59
 ——— *helwola* SACC., 78
 ——— *heterosperma* BRES., 52
 ——— *hibisci* FUKUI, 64
 ——— *hibisci* TRACY & EARLE, 42
 ——— *hibisci-cannabini* SAW., 42
 ——— *hibisci-manihotis* HENN., 42
 ——— *hiratsukana* TOG. & KATS., 60
 ——— *hariana* TOG. & KATS., 72
 ——— *hostae* HORI, 60
 ——— *houltuyniae* TOG. & KATS., 60
 ——— *humuli* HORI, 60
 ——— *humuli-japonici* SAW., 60
 ——— *hydrangeae* ELL. & EV., 60
 ——— *hydrangeae* THARP, 60
 ——— *hydrangeicola* SPEG., 60
 ——— *hydrocotyles* ELL. & EV., 60
 ——— *hymenocallidis* PAT., 67
 ——— *impatiens* BÄUM., 48
 ——— *imperialis* MIURA, 60
 ——— *infuscans* ELL. & EV., 77
 ——— *ipomoeae* WINT., 61
 ——— *ipomoeae* (WINT.) HARA, 61
 ——— *ixeridis-chinensis* SAW., 63
 ——— *juncicola* (HORI & KAS.) CHUPP, 61
 ——— *juncicola* HORI & KASAI, 61
 ——— *juncicola* (HORI & KAS.) HARA, 61
 ——— *kadsurae* TOG. & KATS., 61
 ——— *kaki* ELL. & EV., 61
 ——— *kakivora* HARA, 61
 ——— *kellermani* BUB., 44
 ——— *kerriae* TOG., 61
 ——— *kikuchii* MATS. & TOM., 62
 ——— *kikuchii* MATS. & TOM., 62
 ——— *kiusana* SAW., 78
 ——— *knautiae* SIEM., 56
 ——— *koepkei* KRUEG., 62
 ——— *kurimaensis* FUKUI, 62
 ——— *kusanoi* SAW., 62
 ——— *lactucae* HENN., 62
 ——— *lactucae* STEV., 63
 ——— *lactucae* WELL., 63
 ——— *lactucae-indicae* SAW., 63
 ——— *lactucae-sativae* SAW., 63
 ——— *lappae* WAT. & TAK., 45
 ——— *latens* ELL. & EV., 63
 ——— *lespedezae* ELL. & DEARN., 63
 ——— *leucosticta* ELL. & EV., 64
 ——— *leucosticta* FUKUI, 75
 ——— *ligustici* TOG., 63
 ——— *ligustri* ROUM., 63
 ——— *litsea* HENN., 63
 ——— *litseae-glutinosae* SYD., 63
 ——— *longipes* BUTL., 62
 ——— *longispora* (CUG.) TRAV., 63
 ——— *longissima* (CUG.) SACC., 63
 ——— *longissima* (TRAV.) FUKUSHI, 63
 ——— *longissima* CKE. & ELL., 46
 ——— *lonicericola* YAM., 63
 ——— *luffae* HARA, 51
 ——— *ludwigiae* ATK. var. *japonica* HENN., 78
 ——— *lussoniensis* SACC., 53
 ——— *malayensis* STEV. & SOLH., 64
 ——— *malloti* ELL. & EV., 64
 ——— *mate* NAITO, 65
 ——— *meliae* ELL. & EV., 64
 ——— *melonis* CKE., 79
 ——— *melongenae* AUCT., 74
 ——— *missouriensis* WINT., 64
 ——— *miurae* SYD., 64
 ——— *miyakei* HENN., 64
 ——— *momordicae* MCRAE, 51
 ——— *momordicae* SAW., 51
 ——— *momordicae* MEND., 51
 ——— *mori* HARA, 64
 ——— *mori* MARCH. & STEY., 64
 ——— *mucunae-capitatae* SAW., 75
 ——— *mucunae-ferrugineae* YAM., 75
 ——— *naitoi* TOG., 65
 ——— *nandinae* NAG., 65
 ——— *nandinae* FUKUI, 65
 ——— *nanocnides* NAITO, 65
 ——— *nasturtii* PASS., 65
 ——— *nelumbonis* THARP, 66
 ——— *neovignae* YAM., 53
 ——— *nerii-indici* YAM., 62
 ——— *nicotianae* ELL. & EV., 65
 ——— *nicotianae* (ELL. & EV.) HARA, 65

- *nigri* THARP, 46
 ——— *nigricans* CKE., 65
 ——— *nojimai* TOG. & KATS., 66
 ——— *nubilosa* ELL. & EV., 55
 ——— *nymphaecea* CKE. & ELL., 66
 ——— *obtegens* SYD., 66
 ——— *oenotherae* ELL. & EV., 66
 ——— *omphacodes* ELL. & HOLW., 66
 ——— *oryzae* MIY., 66
 ——— *pachyderma* SYD., 66
 ——— *pachypus* ELL. & KELL., 67
 ——— *padi* BUB. & SER., 50
 ——— *padi* BUB. & SER. var. *mahaleb*
 UNAM., 50
 ——— *paederiae* TAI, 67
 ——— *paederiae* SAW., 67
 ——— *pancratii* ELL. & EV., 67
 ——— *panici* DAV., 58
 ——— *panici-miltacei* SAW., 58
 ——— *papaveri* NAK., 67
 ——— *paspali* RAY, 74
 ——— *paulowniae* HORI, 67
 ——— *penicillata* FUCH. var. *apii* FUCH., 44
 ——— *pellioniae* TOG. & KATS., 67
 ——— *penzigii* SACC., 67
 ——— *perillae* NAK., 68
 ——— *perillae* SAW., 68
 ——— *perillulae* TOG. & KATS., 68
 ——— *persicariae* YAM., 68
 ——— *personata* (B. & C.) ELL. & EV., 68
 ——— *petuniae* (SAITO) MULL. & CHUPP, 68
 ——— *petuniae* SAITO, 68
 ——— *phaseolorum* CKE., 53
 ——— *photinae* FUKUI, 56
 ——— *phylogina* PECK, 66
 ——— *physalicola* ELL. & BARTH., 68
 ——— *physalidis* ELL., 68
 ——— *picrasmae* TOG. & KATS., 69
 ——— *pini-densiflorae* HORI & NANBU, 69
 ——— *piricola* SAW., 69
 ——— *pittospori* PLAK., 69
 ——— *plantaginella* TEH., 69
 ——— *plantaginis* SACC., 69
 ——— *platanicola* ELL. & EV., 69
 ——— *plataniifolia* ELL. & EV., 69
 ——— *polliae* SAW., 70
 ——— *polygonaceae* ELL., 70
 ——— *polygoni-maximowiczii* TOG., 80
 ——— *populina* ELL. & EV., 70
 ——— *premae* CAST., 70
 ——— *profusa* SYD., 70
 ——— *prunicola* ELL. & EV., 70
 ——— *prunicola* (ELL. & EV.) HARA, 70
 ——— *pruni-yedoensis* SAW., 70
 ——— *psidii* SAW., 73
 ——— *pteridicola* FRAG., 71
 ——— *pteridis* SIEM., 71
 ——— *pueraricola* YAM., 71
 ——— *pulcherrimae* THARP, 71
 ——— *pulcherrimae minima* THARP, 71
 ——— *pulvinulata* SACC. & WINT., 64
 ——— *punicae* HENN., 71
 ——— *punicae* (HNNE.) HARA, 71
 ——— *pyracanthae* KATS., 71
 ——— *raciborskii* SACC. & SYD., 65
 ——— *raciborskii* (RAC.) MATS. & NAG., 53
 ——— *ramularia* SIEM., 44
 ——— *rhoina* CKE. & ELL., 71
 ——— *rhoina* CKE. & ELL. var. *nigrimaculans*
 PECK, 71
 ——— *riachuelli* SPEG., 72
 ——— *ricinella* SACC. & BERL., 72
 ——— *ricinella* (SACC. & BERL.) SPEG., 72
 ——— *ricini* SPEG., 72
 ——— *rigospora* ATK., 46
 ——— *rosae* HOOK, 72
 ——— *rosae-indianensis* HOOK, 72
 ——— *rosaeicola* PASS. var. *undosa* DAV., 72
 ——— *rosicola* PASS., 72
 ——— *rosigena* THARP, 72
 ——— *rubi* SACC., 72
 ——— *rubicolla* THUEM., 72
 ——— *sagittariae* ELL. & KELL., 72
 ——— *sagittariae* (ELL. & KELL.) HARA, 72
 ——— *salicicola* SAW., 73
 ——— *salicina* ELL. & EV., 73
 ——— *salviae* FUKUI, 73
 ——— *salviicola* THARP, 73
 ——— *sambuci* STEV. & KING, 54
 ——— *sambucina* ELL. & KELL., 54
 ——— *sanguinariae* PECK, 73
 ——— *saururi* ELL. & EV., 73
 ——— *saururicola* SAW., 73
 ——— *sawadae* YAM., 73
 ——— *scabiosaecola* RANG., 56
 ——— *securinegae* TOG. & KATS., 83
 ——— *selini-gmelini* CHUPP, 74
 ——— *senchii* STEV., 51
 ——— *sesami* ZIMM., 74
 ——— *sesami* (ZIMM.) HARA, 74
 ——— *septorioides* ELL. & EV., 72
 ——— *setariae* ATK., 74
 ——— *setariae* (ATK.) HORI, 74
 ——— *setariicola* TEH. & DAN., 74
 ——— *sessilis* ELL. & EV., 70
 ——— *siegesbeckiae* KATS., 74
 ——— *sojina* HARA, 74
 ——— *sojina* HARA, 74
 ——— *solani-biflori* SAW., 46
 ——— *solani-melongenae* CHUPP, 74
 ——— *solani-melongenae* HORI, 74
 ——— *sorghii* ELL. & EV., 75

- *sorgi* (ELL. & EV.) HARA, 75
 ——— *sphaeriaeformis* CKE., 75
 ——— *spinaciae* OUD., 46
 ——— *spinacicola* SACC., 46
 ——— *stizolobii* SYD., 75
 ——— *stolziana* MAGN., 78
 ——— *stuckertiana* SYD., 61
 ——— *subsessilis* SYD., 75
 ——— *sugimotoana* KATS., 75
 ——— *sycina* SACC., 47
 ——— *taihokuensis* SAW., 75
 ——— *taiwanensis* MATS. & YAM., 76
 ——— *tetragoniae* CHUPP, 76
 ——— *tetragoniae* SPEG., 76
 ——— *tetragoniae-expansae* HORI, 76
 ——— *tetragoniae-expansae* (HORI) HARA, 76
 ——— *theae* (CAV.) HAAN, 76
 ——— *theae* (HAAN) HARA, 76
 ——— *theaecola* HARA, 76
 ——— *ticinensis* CAV., 54
 ——— *timorensis* CKE., 76
 ——— *tinea* SACC., 76
 ——— *tosensis* HENN., 46
 ——— *togashiana* KATS. & URAS., 77
 ——— *toxicodendri* ELL., 77
 ——— *tokoroi* TOG., 55
 ——— *torae* THARP, 65
 ——— *trichosanthis* MC RAE, 51
 ——— *ubi* RAC., 77
 ——— *udagawana* KATS., 77
 ——— *ueharae* FUKUI, 77
 ——— *ulmi* SYD., 75
 ——— *umenobui* FUKUI, 47
 ——— *vaginae* KRUEG., 77
 ——— *variicolor* WINT., 77
 ——— *viciae* ELL. & HOLW., 79
 ——— *vignae* ELL. & EV., 53
 ——— *vignae* RAC., 53
 ——— *vignae-sinensis* TAI & WEI, 53
 ——— *vignae-sinensis* SAW., 58
 ——— *vignicola* KAWAM., 80
 ——— *vignicaulis* TEH., 48
 ——— *vinctotoxici* SACC., 46
 ——— *violae* SACC., 78
 ——— *violae* SACC. var. *minor* ROSSI, 78
 ——— *violae-tricoloris* BR. & CAV., 78
 ——— *violamaculans* FUKUI, 78
 ——— *viridula* ELL. & EV., 61
 ——— *vitis-heterophyllae* HENN., 78
 ——— *yakushimensis* TOG. & KATS., 78
 ——— *yoshinagaiana* CHUPP, 78
 ——— *zebrina* PASS., 78
 ——— *zebrina* (PASS.) MATS., 78
 ——— *zolkowae* HORI, 79
 ——— *zingiberi* TOG. & KATS., 79
 ——— *zinniae* ELL. & MART., 79
 ——— *zinniae* TAK. & YOSH., 79
 ——— *zonata* WINT., 79
Cercoseptoria theae (CAV.) CURZI, 76
Cercosporium bellynickii WEST., 46
Cladosporium personata BERK. & CURT., 68
Clasterosporium mori SYD., 62
Corynespora cassiicola (BERK. & CURT.) WEI, 80
 ——— *mazei* GUESS., 79
 ——— *melonis* (CKE.) SACC., 79
 ——— *melonis* (CKE.) LIND., 79
 ——— *vignicola* (KAW.) GOTO, 80
Exosporium depazeoides DESM., 54
Fusisporium concors CASP., 52
Leptosphaeria taiwanensis (MATS. & YAM.)
 YEN & CHI, 76
Mycosphaerella aleuritidis (MIY.) OU, 43
 ——— *arachidicola* (HORI) JENK., 45
 ——— *berkeleyi* JENK., 68
 ——— *cerasella* ADERH., 51
 ——— *cruenta* (SACC.) LATH., 53
 ——— *gossypina* (CKE.) ATK., 59
 ——— *pueraricola* (YAM.) WEIM. & LUTT., 71
 ——— *rosicola* (PASS.) DAV., 72
 ——— *togashiana* ITO & KOB., 70
Septogloeum arachidis RAC., 68
 ——— *bolleanum* THUEM., 47
Septoria theae CAV., 76
Sphaerulina oryzina HARA, 66

Index of Host Plants

Abelia chinensis

Cercospora abeliae, 43

Abelmoschus esculentus

Cercospora malayensis, 64

Abelmoschus manihot

Cercospora malayensis, 64

Acalypha australis

Cercospora acalyphae, 43

——— profusa, 70

Acer spp.

Cercospora acerina, 79

Achyranthes japonica

Cercospora achyranthis, 43

——— brachiata, 47

Actinostemma lobatum var. racemosum

Cercospora actinostemmae, 43

Adenostemma viscosum

Cercospora adenostemmae, 43

- Aleurites cordata**
Cercospora aleuritidis, 43
- Alpinia japonica**
Cercospora alpiniae, 43
- Althaea rosea**
Cercospora althaeina, 44
- Amorphophallus konjac**
Cercospora amorphophalli, 44
- Ampelopsis brevipedunculata**
Cercospora vitis-heterophyllae, 78
- Amphicarpaea trisperma**
Cercospora amphicarpaeae, 44
- Andropogon sorghum var. vulgaris**
Cercospora sorghi, 75
- Apios fortunei**
Cercospora apiodis, 44
- Apium graveolens**
Cercospora apii, 44
- Arachis hypogaea**
Cercospora arachidicola, 44
—— personata, 68
- Aralia cordata**
Cercospora araliae-cordatae, 45
- Aralia elata**
Cercospora araliae, 45
- Arctium lappa**
Cercospora arcti-ambrosiae, 45
- Artemisia asiatica**
Cercospora ferruginea, 57
- Arthraxon hispidus**
Cercospora taiwanensis, 76
- Asparagus officinalis**
Cercospora asparagi, 45
- Astilbe congesta**
Cercospora astilbes, 45
- Astragalus sinicus**
Cercospora astragali, 45
- Aucuba japonica**
Cercospora aucubae, 46
- Begonia evansiana**
Cercospora begoniae, 46
- Beta vulgaris var. flavescens**
Cercospora beticola, 46
- Beta vulgaris var. rapacea**
Cercospora beticola, 46
- Bidens bipinnata**
Cercospora bidentis, 47
- Boehmeria japonica**
Cercospora boehmeriae, 47
- Boehmeria nivea**
Cercospora boehmeriae, 47
- Brassica chinensis var. oleifera**
Cercospora brassicicola, 47
- Broussonetia kazinoki**
Cercospora broussonetiae, 47
- Buddleia curviflora var. vernifera**
Cercospora buddleiae, 47
- Callicarpa mollis**
Cercospora callicarpae, 48
- Callicarpa japonica**
Cercospora callicarpae, 48
- Canavalia lineata**
Cercospora canavaliae, 48
- Cannabis sativa**
Cercospora cannabis, 48
- Capsicum annuum**
Cercospora capsici, 48
- Cassia occidentalis**
Cercospora nigricans, 65
- Caulophyllum thalictroides**
Cercospora caulophylli, 49
- Celosia cristata**
Cercospora celosiae, 49
- Celtis sinensis var. japonica**
Cercospora celtidis, 79
- Cercis chinensis**
Cercospora cercidicola, 49
—— chionea, 50
- Chaenomeles lagenaria**
Cercospora cydoniae, 54
- Chamaecyparis obtusa**
Cercospora chamaecyparidis, 49
- Chenopodium centrорubrum**
Cercospora dubia, 55
- Chionanthus retusus**
Cercospora chionanthi-retusi, 50
- Chloranthus serratus**
Cercospora chloranthi, 50
- Chrysanthemum coronarium**
Cercospora chrysanthemi, 50
- Cissus japonica**
Cercospora cissi-japonicae, 51
- Citrullus vulgaris**
Cercospora citrullina, 51
- Citrus aurantium f. kobusu**
Cercospora penzigii, 67
- Clerodendron cyrtophyllum**
Cercospora clerodendri, 51
- Clerodendron trichotomum**
Cercospora clerodendri, 51
- Cocculus trilobus**
Cercospora cocculi, 51
- Commelina communis**
Cercospora commelinicola, 51
- Commelina diffusa**
Cercospora commelinicola, 51
- Corchorus olitorius**
Cercospora corchori, 52
- Coreopsis drummondii**

- Cercospora bidentis*, 47
- Cornus controversa**
Cercospora cornicola,
- Cornus officinalis**
Cercospora cornicola, 52
- Corylopsis pauciflora**
Cercospora corylopsidis, 52
- Crinum asiaticum var. japonicum**
Cercospora pancratii, 67
- Crotalaria juncea**
Cercospora crotalariae, 53
- Crotalaria verrucosa**
Cercospora cotizensis, 53
- Cryptomeria japonica**
Cercospora cryptomeriae, 53
—— *cryptomeriaecola*, 54
- Cryptotaenia japonica**
Cercospora apii, 44
- Cucumis melo**
Cercospora citrullina, 51
- Cucumis sativus**
Cercospora citrullina, 51
—— *melonis*, 79
- Cucurbita moschata**
Cercospora citrullina, 51
- Cynanchum caudatum**
Cercospora miurae, 64
- Cynanchum sp.**
Cercospora bellynckii, 46
- Dahlia variabilis**
Cercospora grandissima, 59
- Daucus carota**
Cercospora carotae, 49
- Deutzia gracilis**
Cercospora deutziae, 54
- Dianthus superbus**
Cercospora dianthi, 54
- Dichondra repens**
Cercospora dicondrae, 55
- Dioscorea alata**
Cercospora ubi, 77
- Dioscorea batatas**
Cercospora dioscoreae, 55
—— *ubi*, 77
- Dioscorea bulbifera f. spontanea**
Cercospora ubi, 77
- Dioscorea japonica**
Cercospora dioscoreae, 55
—— *pachyderma*, 66
—— *ubi*, 77
- Dioscorea quinqueloba**
Cercospora contraria, 52
—— *hiratsukana*, 60
- Dioscorea septemloba**
Cercospora cylindrata, 54
- Dioscorea tokoro**
Cercospora dioscoreae, 55
—— *pachyderma*, 66
- Diospyros kaki var. domestica**
Cercospora kaki, 61
—— *kakivora*, 61
- Diospyros lotus**
Cercospora fuliginosa, 58
- Dipsacus fullonum**
Cercospora elongata, 56
- Disporum sessile**
Cercospora dispori, 55
- Disporum smilacinum var. ramosum**
Cercospora dispori, 55
- Dolichos lablab**
Cercospora canescens, 48
- Drymaria cordata**
Cercospora drymariae, 55
- Echinochloa crusgalli subsp. colona var. edulis**
Cercospora fusimaculans, 58
- Edgeworthia papyrifera**
Cercospora edgeworthiae, 55
- Ehretia thyrsoiflora**
Cercospora ehretiae, 56
- Eriobotrya japonica**
Cercospora eriobotryae, 56
- Eucalyptus globulus**
Cercospora epicoccoides, 56
- Euonymus japonica**
Cercospora destructiva, 54
- Eupatorium japonicum**
Cercospora ageratoides, 43
- Euphorbia marginata**
Cercospora pulcherrimae, 71
- Euptelea polyandra**
Cercospora eupteleae, 56
- Evodia meliaefolia**
Cercospora evodiae, 57
- Fagopyrum esculentum**
Cercospora fagopyri, 57
- Fatoua villosa**
Cercospora fatouae, 57
- Fatsia japonica**
Cercospora ueharae, 77
- Ficus carica**
Cercospora bolleana, 47
—— *fici*, 57
- Glochidion hongkongense**
Cercospora taihokuensis, 75
- Glycine max**
Cercospora canescens, 48
—— *kikuchii*, 62
—— *sojina*, 75
- Gnaphalium hypoleucum**
Cercospora gnaphalii, 58

- Gnaphalium multiceps**
Cercospora gnaphaliaceae, 58
- Gossypium herbaceum**
Cercospora gossypina, 58
- Hamamelis japonica**
Cercospora hamamelidis 59
- Hedera rhombea**
Cercospora hederæ, 59
- Helianthus annuus**
Cercospora pachypus, 67
- Helianthus tuberosus**
Cercospora helianthi, 59
—— helianthicola, 59
- Hibiscus cannabinus**
Cercospora abelomoschi, 42
- Hibiscus manihot**
Cercospora abelomoschi, 42
- Hibiscus mutabilis**
Cercospora malayensis, 64
- Hibiscus sabdariffa**
Cercospora malayensis, 64
- Hibiscus syriacus**
Cercospora abelomoschi, 42
- Hosta sp.**
Cercospora hostae, 60
- Houttuynia cordata**
Cercospora houttuyniae, 60
- Hovenia dulcis**
Cercospora udagawana, 77
- Humulus lupulus**
Cercospora humuli, 60
- Humulus japonicus**
Cercospora humuli, 60
- Hydrangea kawagoana**
Cercospora yakusimensis, 78
- Hydrangea macrophylla var. otaksa**
Cercospora obtogens, 66
—— hydrangeae, 60
- Hydrocotyle sibthorpioides**
Cercospora hydrocotyles, 60
- Ilex oldhami**
Cercospora naitoi, 65
- Impatiens balsamina**
Cercospora fukushiana, 58
- Impatiens noli-tangere**
Cercospora campi-silii, 48
- Impatiens textori**
Cercospora nojimai, 66
- Ipomoea batatas**
Cercospora timorensis, 76
- Juncus effusus var. decipiens**
Cercospora juncicola, 61
- Jussiaea prostrata**
Cercospora yoshinagaiana, 78
- Justicia procumbens**
Cercospora consociata, 52
- Kadsura japonica**
Cercospora kadsuræ, 61
- Kerria japonica**
Cercospora kerriæ, 61
- Lactuca indica**
Cercospora longissima, 63
- Lactuca laciniata**
Cercospora lactucae, 62
- Lactuca raddeana**
Cercospora lactucae, 62
- Lactuca sativa**
Cercospora longissima, 63
- Lagenaria siceraria**
Cercospora citrullina, 51
- Lespedeza crytobotrya**
Cercospora latens, 63
- Lespedeza sp.**
Cercospora latens, 63
- Ligisticum hultenii**
Cercospora ligustici, 63
- Ligustrum japonicum**
Cercospora ligustri, 63
- Litsea glauca**
Cercospora litseae-glutinosae, 63
- Litsea japonica**
Cercospora litseae-glutinosae, 63
- Lonicera japonica**
Cercospora lonicericola, 63
- Luffa cylindrica**
Cercospora citrullina, 51
- Lycium chinense**
Cercospora chengtuensis, 50
- Lycopersicum esculentum**
Cercospora fuligena, 58
- Mallotus japonicus**
Cercospora malloti, 64
- Melia azedarach var. japonica**
Cercospora meliæ, 64
—— subsessilis, 75
- Mercurialis leiocarpa**
Cercospora ehikomontana, 55
- Metaplexis japonica**
Cercospora miuræ, 64
- Momordica charantia**
Cercospora citrullina, 51
—— elaterii, 56
- Morus acidosa**
Cercospora kusanoi, 62
- Morus alba**
Cercospora kusanoi, 62
—— missouriensis, 64
—— mori, 64
- Mucuna capitata**
Cercospora stizolobii, 75
- Mucuna gigantea**
Cercospora stizolobii, 75

- Nandina domestica**
Cercospora nandinae, 65
- Nanocnide japonica**
Cercospora nanocnidis, 65
- Nasturtium officinale**
Cercospora nasturtii, 65
- Nerium indicum**
Cercospora kurimaensis, 62
- Nicotiana tabacum**
Cercospora nicotianae, 65
- Nuphar japonica**
Cercospora nymphaeaceae, 66
- Oenanthe stronifera**
Cercospora selini-guelini, 74
- Oenothera lamarckiana**
Cercospora oenotherae, 66
- Oenothera tetraptera**
Cercospora oenotherae, 66
- Ophiopogon japonicus**
Cercospora togashiana, 77
- Oryza sativa**
Cercospora oryzae, 66
- Paederia chinensis**
Cercospora paederiae, 67
- Paeonia lactiflora**
Cercospora variicolor, 77
- Papaver somniferum**
Cercospora papaveri, 67
- Parthenocissus tricuspidata**
Cercospora riachueli, 72
- Paulownia tomentosa**
Cercospora imperialis, 60
—— paulowniae, 67
- Perilla frutescens var. typica**
Cercospora perillae, 68
- Pellionia scabra**
Cercospora pellioniae, 67
- Perillula reptans**
Cercospora perillulae, 68
- Petunia violacea**
Cercospora petuniae, 68
- Pharbitis nil var. japonica**
Cercospora ipomoeae, 61
- Phaseolus aureus**
Cercospora canescens, 48
- Phaseolus chrysanthos**
Cercospora canescens, 48
—— cruenta, 53
- Phaseolus mungo**
Cercospora cruenta, 53
- Phaseolus vulgaris**
Cercospora canescens, 48
- Philadelphus sp.**
Cercospora angulata, 44
- Phlox paniculata**
Cercospora omphacodes, 66
- Photinia glabra**
Cercospora eriobotryae, 56
- Physalis francheti var. bunyardii**
Cercospora physalidis, 68
- Picrasma ailanthoides**
Cercospora picrasmae, 69
- Pinus densiflora**
Cercospora pini-densiflorae, 69
- Pinus luchuensis**
Cercospora pini-densiflorae, 69
- Pinus thunbergii**
Cercospora pini-densiflorae, 69
- Pittosporum tobira**
Cercospora pittospori, 69
- Plantago major var. asiatica**
Cercospora plantaginis, 69
- Platanus acerifolia**
Cercospora platanicola, 69
- Platanus occidentalis**
Cercospora platanicola, 69
- Platanus orientalis**
Cercospora platanicola, 69
- Pollia japonica**
Cercospora polliae, 70
- Polygonatum officinale var. maximowiczii**
Cercospora polygoni-maximowiczii, 80
- Polygonum hydropiper**
Cercospora persicariae, 68
- Polygonum thunbergii**
Cercospora polygonaceae, 70
- Populus alba**
Cercospora populina, 70
- Populus maximowiczii**
Cercospora populina, 70
- Populus monilifera**
Cercospora populina, 70
- Populus nigra**
Cercospora populina, 70
- Populus simonii**
Cercospora populina, 70
- Premna japonica**
Cercospora premnae, 70
- Prunus armeniaca**
Cercospora circumscissa, 50
- Prunus avium**
Cercospora circumscissa, 50
- Prunus donarium var. spontanea**
Cercospora prunicola, 70
- Prunus mume**
Cercospora circumscissa, 50
- Prunus persica var. densa**
Cercospora circumscissa, 50
- Prunus salicina**
Cercospora circumscissa, 50
- Prunus yedoensis**
Cercospora prunicola, 70

Psidium guajava

Cercospora sawadae, 73

Pteridium aquilinum var. japonicum

Cercospora pteridis, 71

Pueraria lobata

Cercospora pueraricola, 71

Punica granatum

Cercospora punicae, 71

Pyracantha angustifolia

Cercospora pyracanthae, 71

Pyrus serotina var. culta

Cercospora piricola, 69

Rhaphiolepis umbellata var. mertensii

Cercospora violamaculans, 78

Rhododendron yedoense

Cercospora handelii, 59

Rhus ambigua

Cercospora toxicodendri, 77

Rhus chinensis

Cercospora rhoina, 71

Rhus verniciflua

Cercospora rhoina, 71

Ricinus communis

Cercospora ricinella, 72

Rosa hybrida

Cercospora rosicola, 72

Rubus corchorifolius

Cercospora rubi, 72

Rubus palmatus f. coptophyllus

Cercospora rubicola, 62

Saccharum officinarum

Cercospora koepkei, 62

—— taiwanensis, 76

—— vaginae, 77

Sagittaria trifolia var. edulis

Cercospora sagittariae, 72

Salix babylonica

Cercospora salicina, 73

Salix glandulosa var. warburgii

Cercospora salicina, 73

Salvia officinalis

Cercospora salviicola, 73

Sambucus chinensis

Cercospora depazeoides, 54

Sanguisorba officinalis

Cercospora sanguinariae, 73

Saururus loureiri

Cercospora saururi, 73

Securinega fluggeoides

Cercospora securinegae, 73

Sesamum indicum

Cercospora sesami, 74

Setaria italica

Cercospora setariae, 74

Siegesbeckia glabrescens

Cercospora sugimotoana, 75

Siegesbeckia pubescens

Cercospora siegesbeckiae, 74

Smilax oldhami var. nipponica

Cercospora miyakei, 64

Solanum biflorum

Cercospora atro-marginalis, 46

Solanum melongena

Cercospora solani-melongenae, 74

Solanum nigrum

Cercospora atro-marginalis, 46

Solanum tuberosum

Cercospora concors, 52

Sorbaria sorbifolia

Cercospora gotoana, 59

Spinacia oleracea

Cercospora beticola, 46

Styrax japonica

Cercospora fukuokaensis, 57

Tetragonia tetragonoides

Cercospora tetragoniae, 76

Thea sinensis

Cercospora chaee, 49

—— theae, 76

Trifolium repens

Cercospora zebrina, 78

Trifolium pratense

Cercospora zebrina, 78

Typhonium divaricatum

Cercospora arisaemae, 45

Ulmus parvifolia

Cercospora sphaeriaeformis, 75

Vernonia cinerea

Cercospora consimilis, 52

Viburnum dilatatum

Cercospora tineae, 76

Vicia faba

Cercospora zonata, 79

Vigna sinensis

Cercospora canescens, 48

—— cruenta, 53

Vigna sinensis var. catiang

Cercospora canescens, 48

—— cruenta, 53

—— vignicola, 80

Viola kiusiana

Cercospora violae, 78

Viola tricolor var. hortensis

Cercospora violae, 78

Zelkova serrata

Cercospora zelkowae, 79

Zingiber mioga

Cercospora zingiberi, 79

Zinnia elegans

Cercospora zinniae, 79

(Laboratory of Plant Pathology and Mycology)